

IV 調査の結果

1. 生涯学習活動に対する考え方について

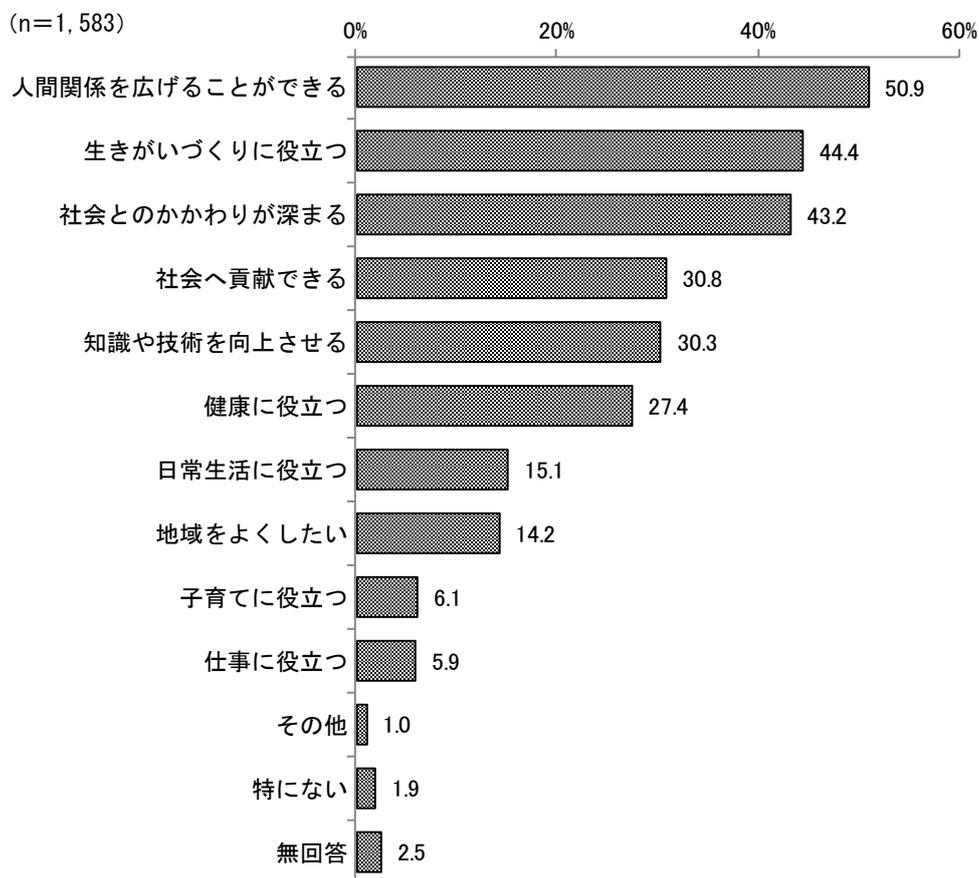
(1) 生涯学習活動の意義

◇ 男女ともに「人間関係を広げることができる」が約5割

問1 「生涯学習活動」の意義について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

生涯学習活動の意義については、「人間関係を広げることができる」が50.9%と最も多く、次いで「生きがいに役立つ」(44.4%)、「社会とのかかわりが深まる」(43.2%)、「社会へ貢献できる」(30.8%)、「知識や技術を向上させる」(30.3%)、「健康に役立つ」(27.4%)となっている。

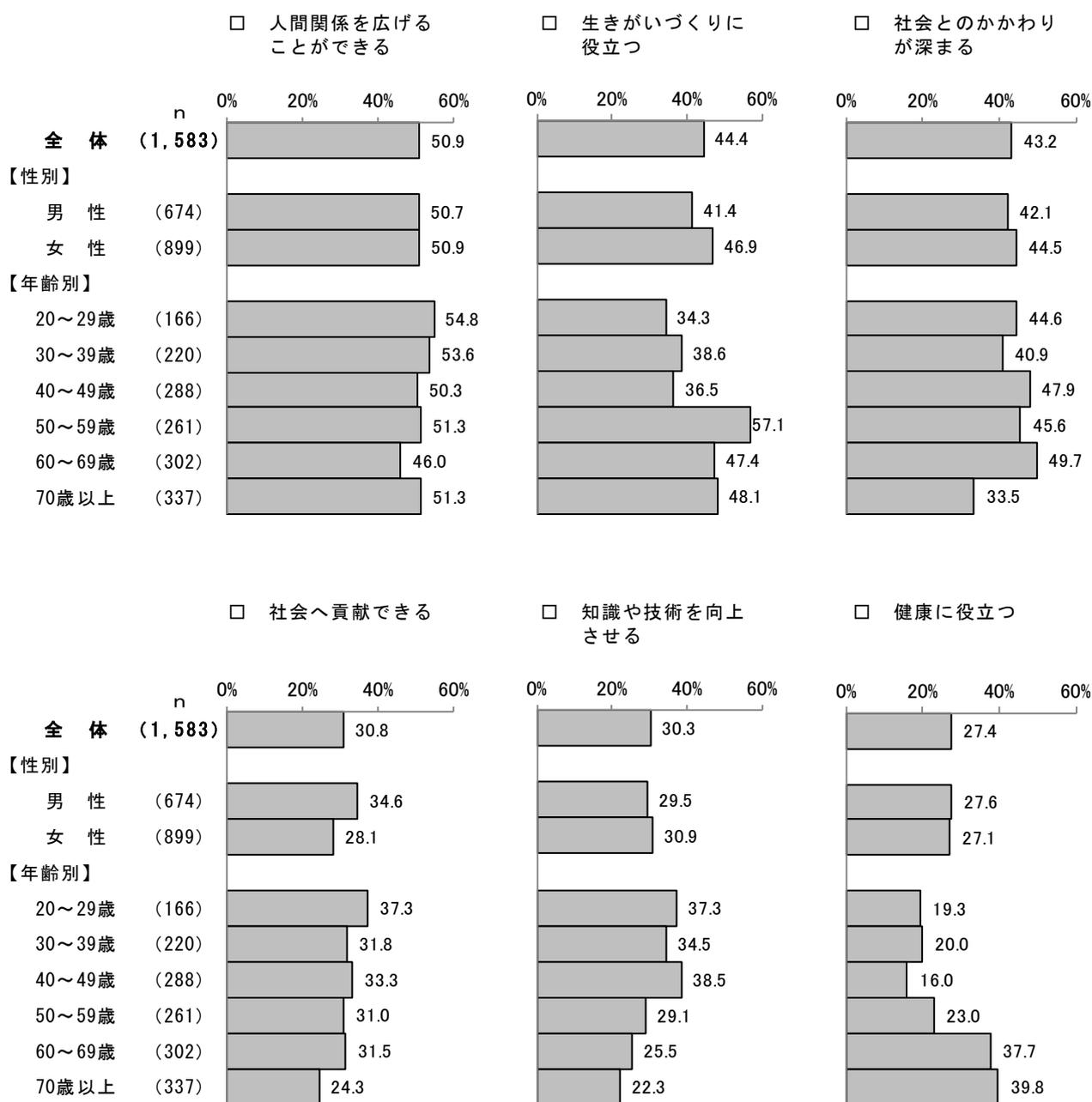
図表1-1 「生涯学習活動」の意義



性別でみると、「人間関係を広げることができる」は男女ともに約5割となっている。「生きがいがづくりに役立つ」は女性（46.9%）が、男性（41.4%）を5.5ポイント上回っている。一方、「社会へ貢献できる」は男性（34.6%）が女性（28.1%）を6.5ポイント上回っている。

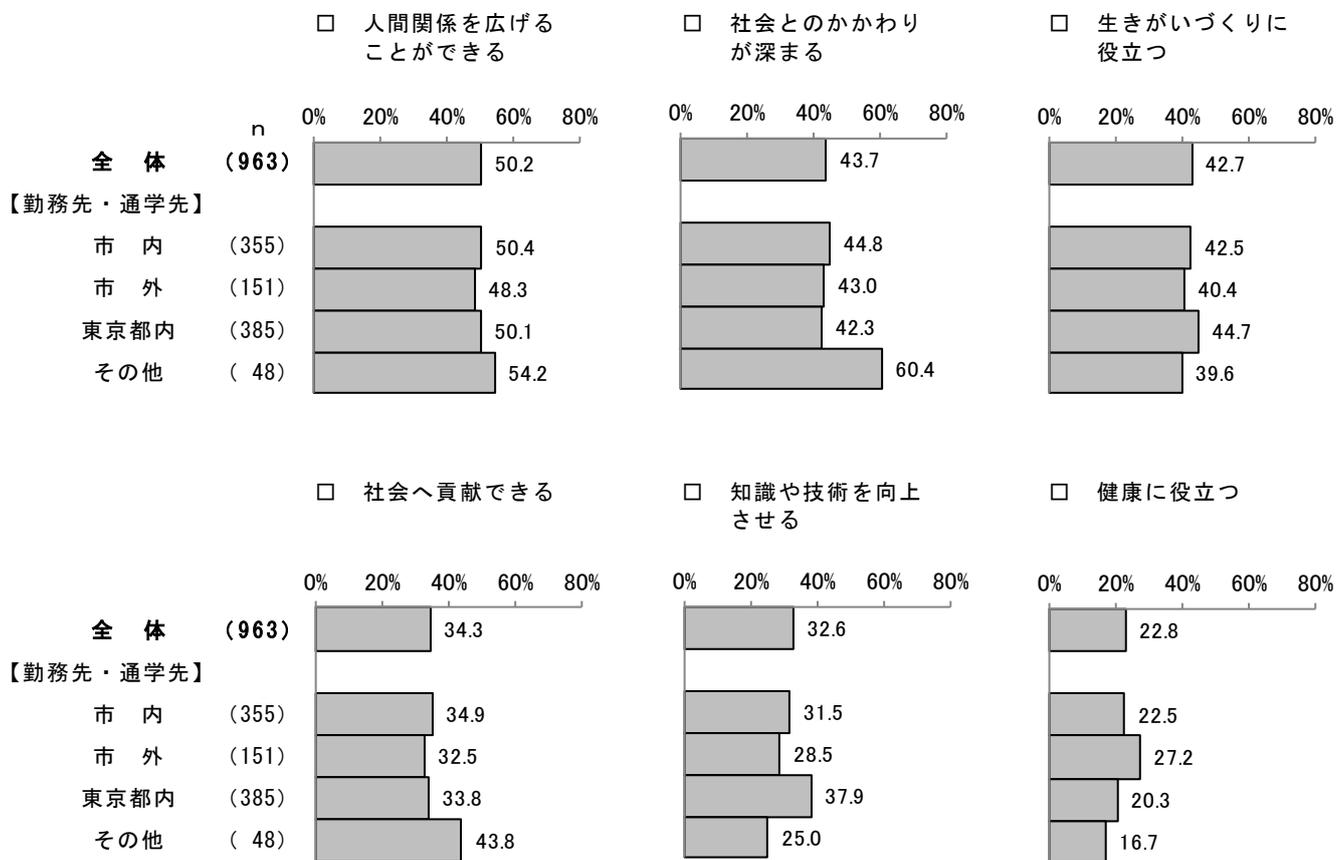
年齢別でみると、「人間関係を広げることができる」は20歳代と30歳代で5割台半ば近くとなっている。「生きがいがづくりに役立つ」は50歳代で5割台半ばを超えている。「社会とのかかわりが深まる」は70歳以上を除くすべての年代で4割を超えており、特に60歳代では5割弱となっている。

図表1-2 「生涯学習活動」の意義（性別 年齢別、上位6項目）



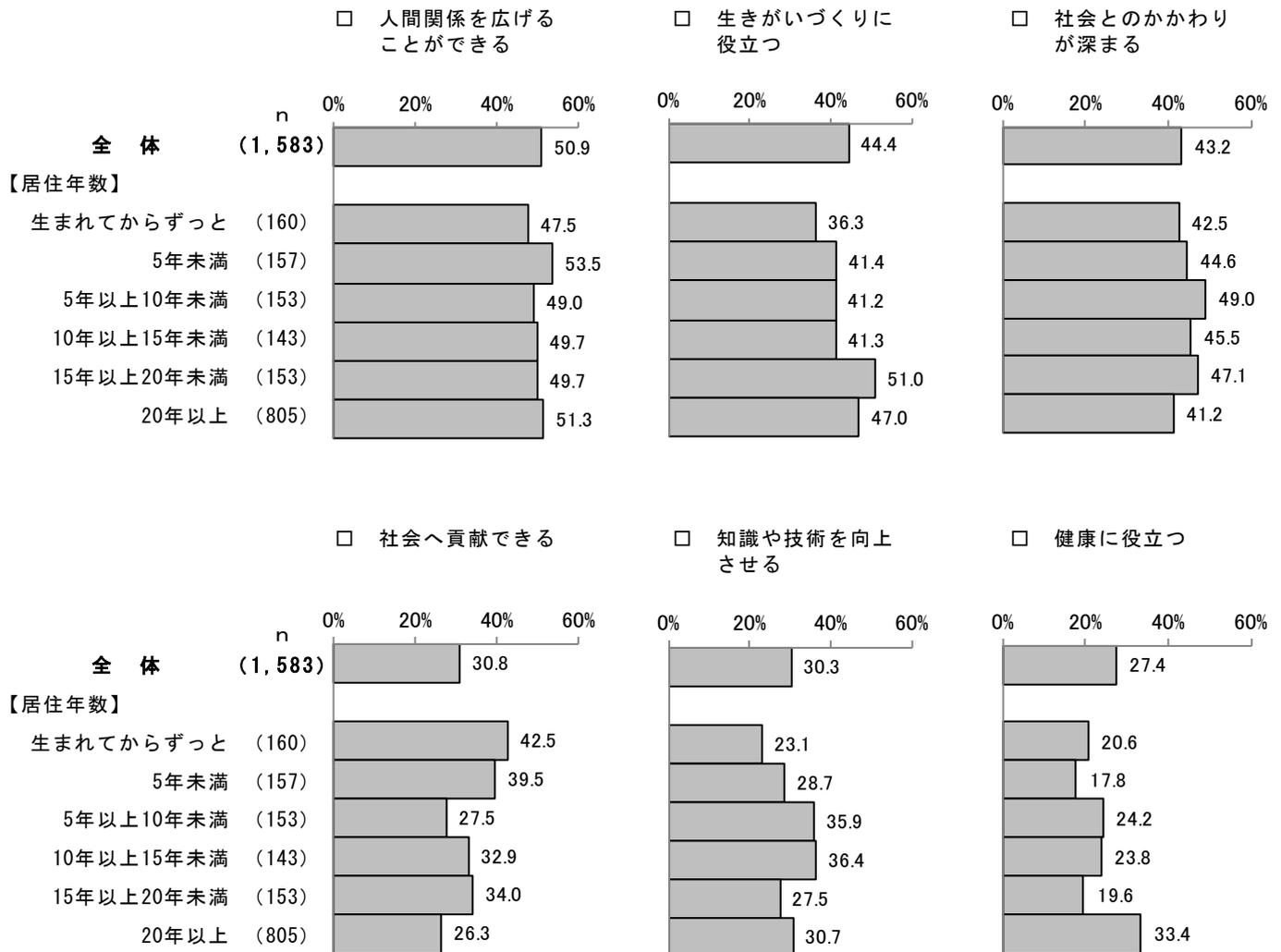
勤務先・通学先別でみると、「人間関係を広げることができる」は市内と東京都内で5割強となっている。「生きがいづくりに役立つ」は東京都内で4割台半ば近くとなっている。

図表 1-3 「生涯学習活動」の意義（勤務先・通学先別、上位6項目）



居住年数別でみると、「人間関係を広げることができる」は5年未満で5割台半ば近く、20年以上で5割強となっている。「生きがいがづくりに役立つ」は15年以上20年未満で5割強、20年以上で4割台半ばを超えている。「社会とのかかわりが深まる」は5年以上10年未満で5割弱となっている。

図表1-4 「生涯学習活動」の意義（居住年数別、上位6項目）



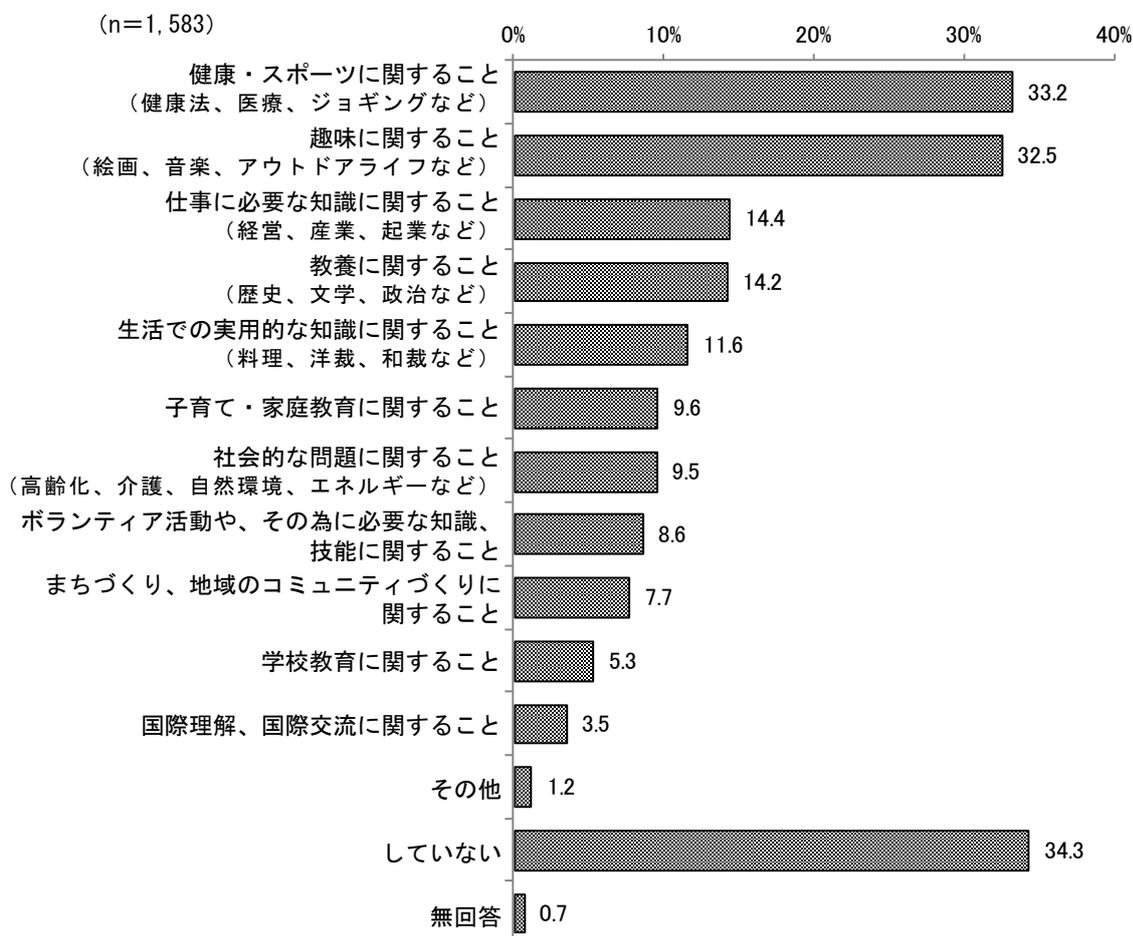
(2) 生涯学習活動の内容

◇ この1年くらいの間に生涯学習活動を行った人は6割台半ば

問2 あなたは、この1年くらいの間に、どのような「生涯学習活動」をしましたか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

この1年くらいに行った生涯学習活動の内容については、「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」が33.2%と最も多く、次いで「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」（32.5%）、「仕事に必要な知識に関すること（経営、産業、起業など）」（14.4%）、「教養に関すること（歴史、文学、政治など）」（14.2%）となっている。一方、「していない」は34.3%と3割台半ば近くとなっている。

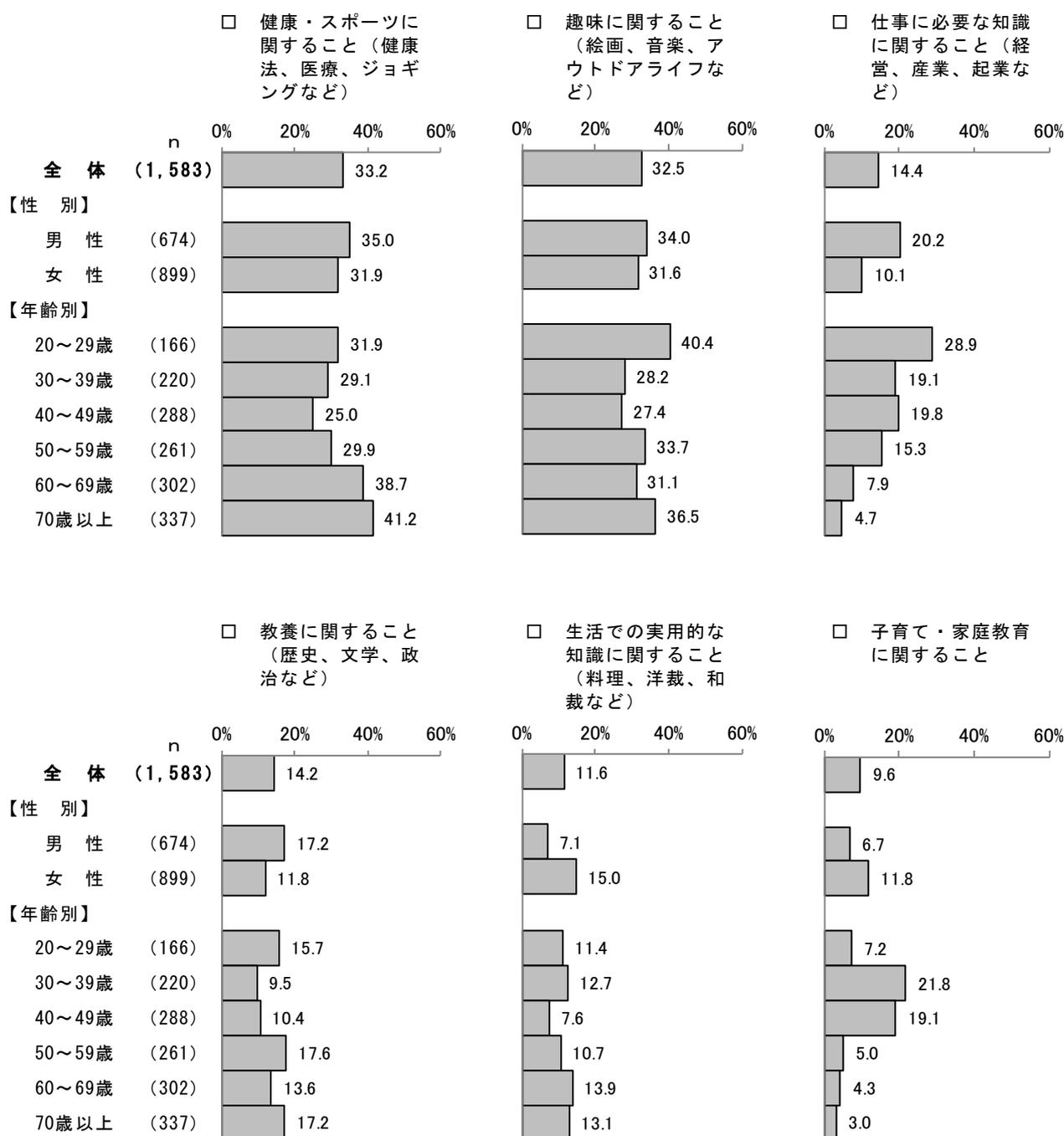
図表1-5 生涯学習活動の内容



性別でみると、上位2項目である「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」と「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」は男女ともに3割を超えている。「仕事に必要な知識に関すること（経営、産業、起業など）」は男性（20.2%）が女性（10.1%）を10.1ポイント上回っている。一方、「生活での実用的な知識に関すること（料理、洋裁、和裁など）」は女性（15.0%）が男性（7.1%）を7.9ポイント上回っている。

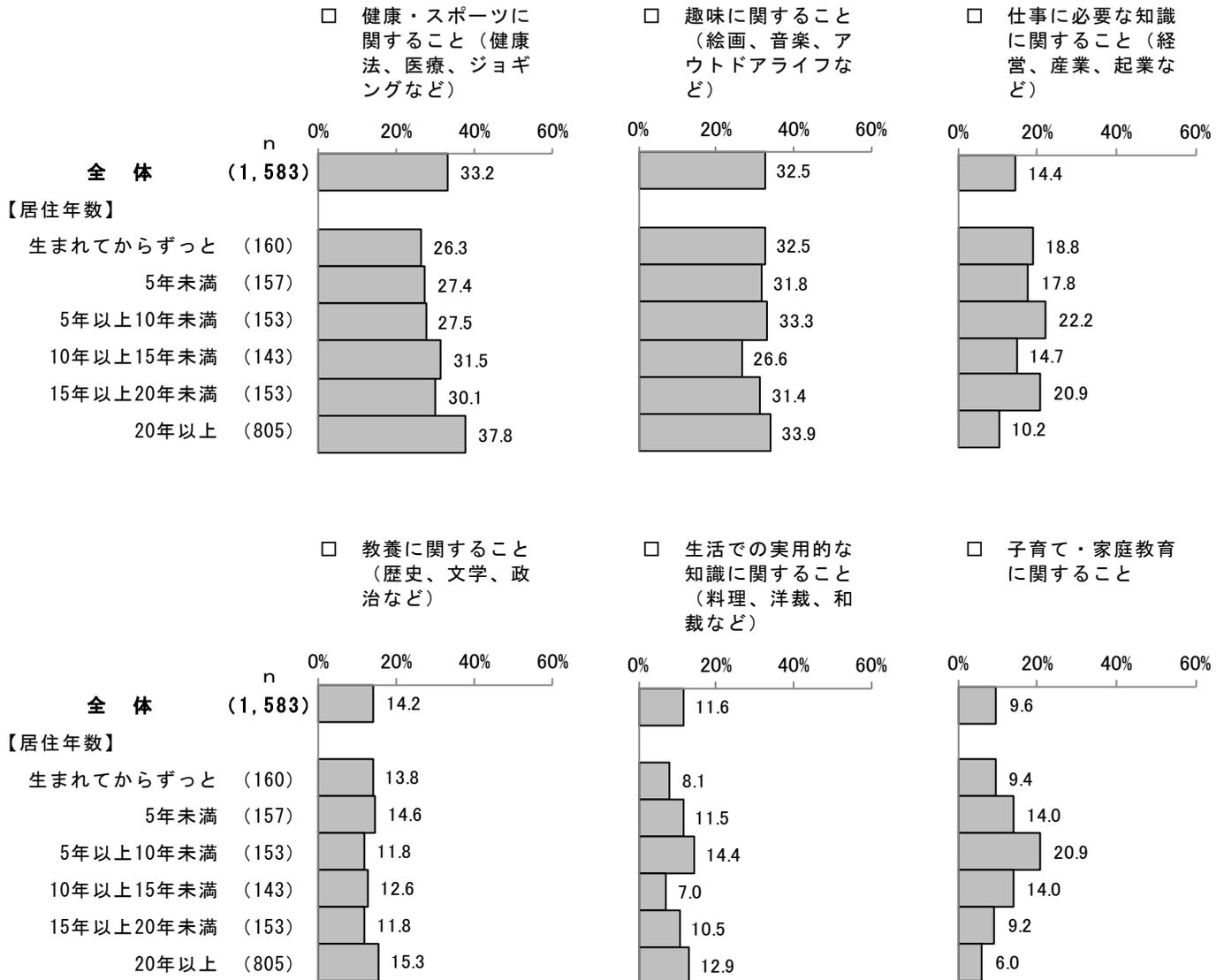
年齢別でみると、「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」は70歳以上で4割強、60歳代で4割近くとなっている。「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」は20歳で約4割となっている。「仕事に必要な知識に関すること（経営、産業、起業など）」は20歳で3割近くとなっているが、60歳代と70歳以上では1割未満となっている。「子育て・家庭教育に関すること」は30歳代で2割強、40歳代で2割弱となっている。

図表1-6 生涯学習活動の内容（性別 年齢別、上位6項目）



居住年数別でみると、「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」は20年以上で3割台半ばを超えている。「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」は10年以上15年未満以外では3割を超えている。「仕事に必要な知識に関すること（経営、産業、起業など）」は5年生以上10年未満と15年以上20年未満で2割を超えている。「子育て・家庭教育に関すること」は5年以上から10年未満で2割強となっている。

図表1-8 生涯学習活動の内容（居住年数別、上位6項目）



(3) 生涯学習活動の方法

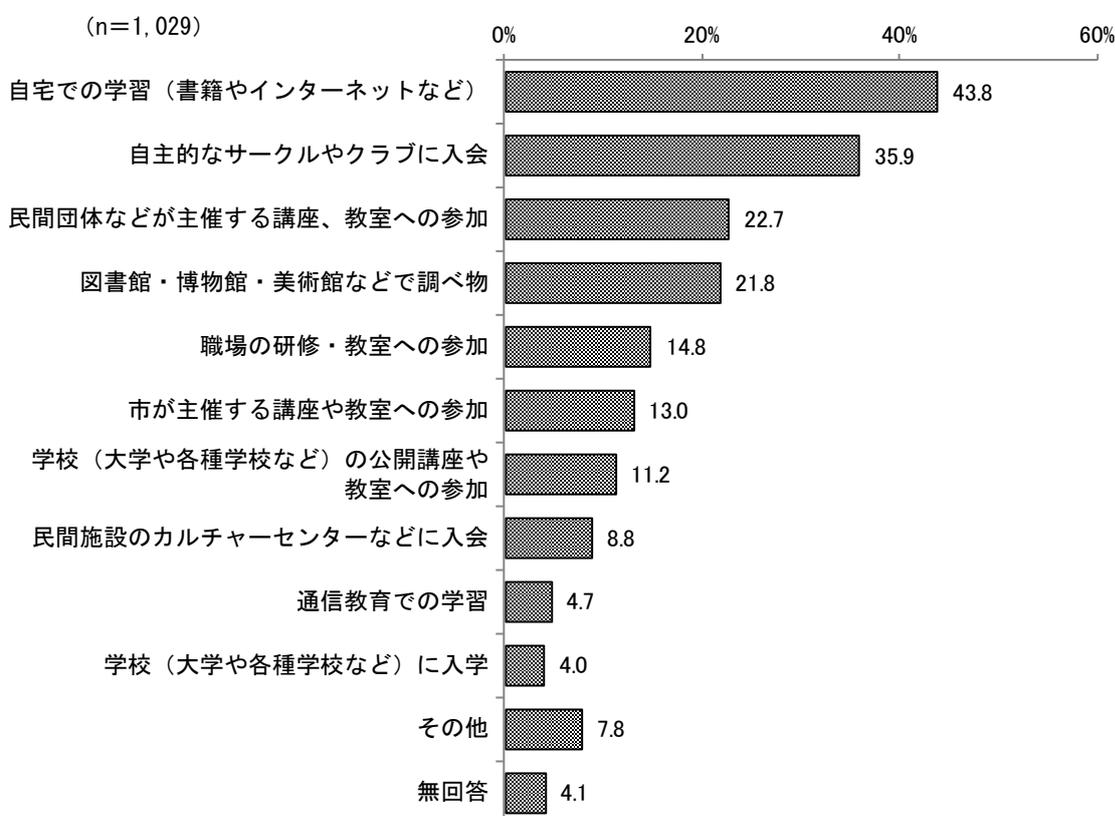
◇ 「自宅での学習（書籍やインターネットなど）」が4割台半ば近く

【問2で「1」から「12」と回答した方にうかがいます。】

問3 どのような方法で「生涯学習活動」をしていますか。あてはまる番号に いくつでも○印 をつけてください。

生涯学習活動の方法については、「自宅での学習（書籍やインターネットなど）」が43.8%と最も多く、次いで「自主的なサークルやクラブに入会」（35.9%）、「民間団体などが主催する講座、教室への参加」（22.7%）、「図書館・博物館・美術館などで調べ物」（21.8%）となっている。

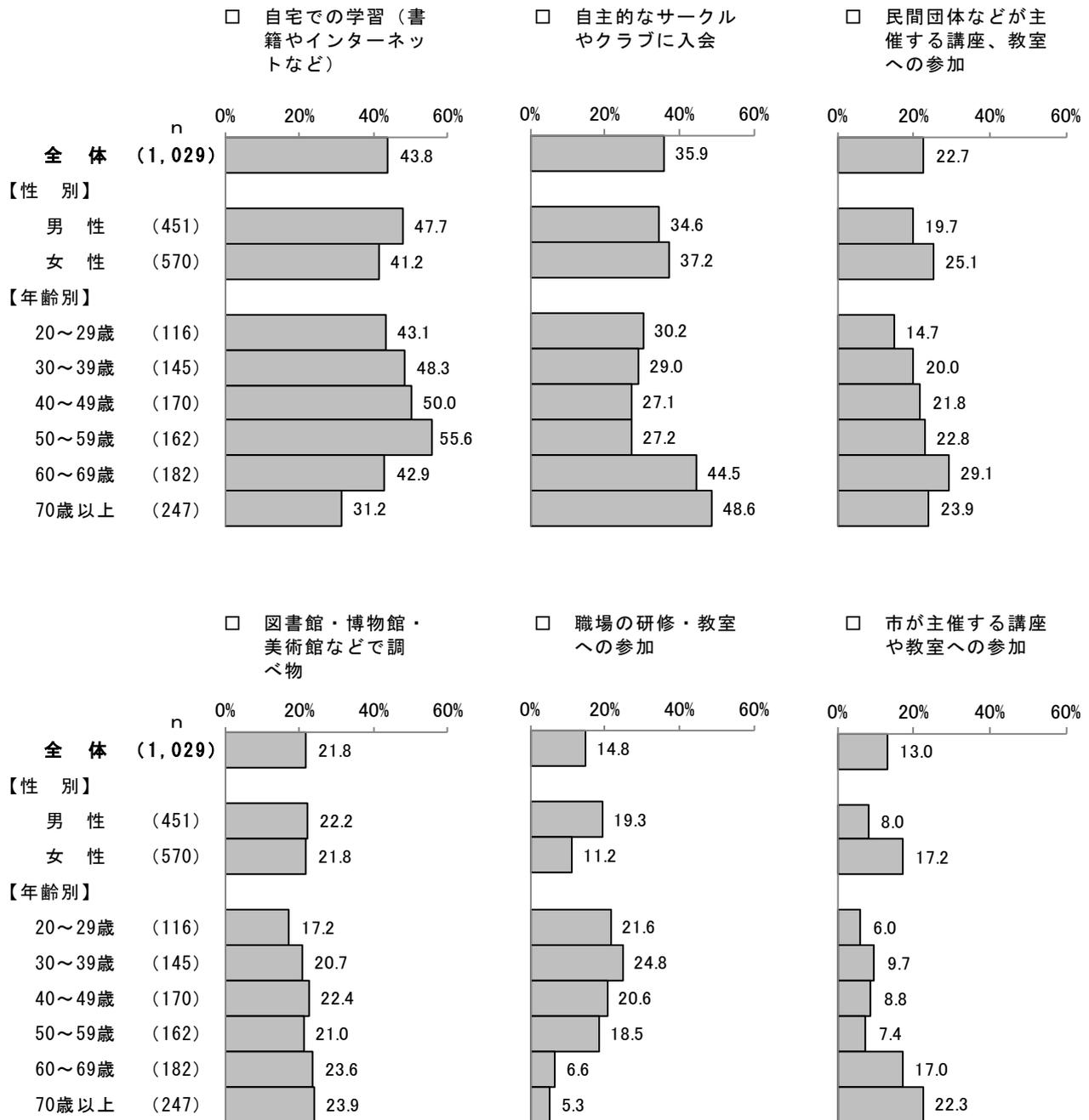
図表1-9 生涯学習活動の方法



性別でみると、「自宅での学習（書籍やインターネットなど）」は男性（47.7%）が女性（41.2%）を6.5ポイント上回っている。また「職場の研修・教室への参加」でも男性（19.3%）が女性（11.2%）を8.1ポイント上回っている。一方、「市が主催する講座や教室への参加」は女性（17.2%）が男性（8.0%）を9.2ポイント上回っている。

年齢別でみると、「自宅での学習（書籍やインターネットなど）」は50歳代で5割台半ば、40歳代で5割となっている。「自主的なサークルやクラブに入会」は60歳代で4割台半ば近く、70歳以上で5割近くとなっている。

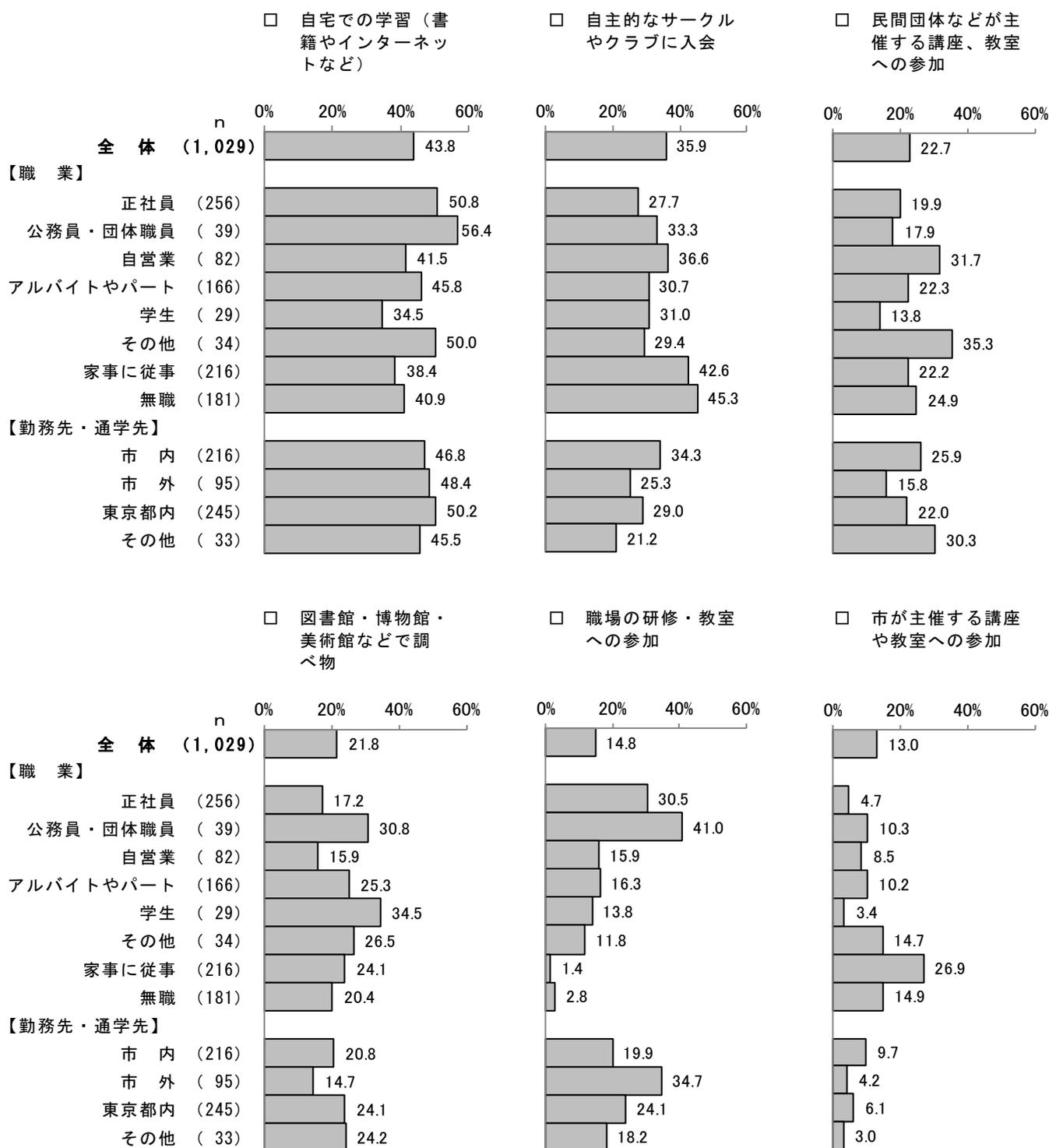
図表1-10 生涯学習活動の方法（性別 年齢別、上位6項目）



職業別でみると、「自宅での学習（書籍やインターネットなど）」は公務員・団体職員で5割台半ばを超え、正社員で5割強となっている。「自主的なサークルやクラブに入会」は無職で4割台半ば、家事に従事で4割台半ば近くとなっている。「民間団体などが主催する講座、教室への参加」は自営業で3割強となっている。「職場の研修・教室への参加」は公務員・団体職員で4割強となっている。

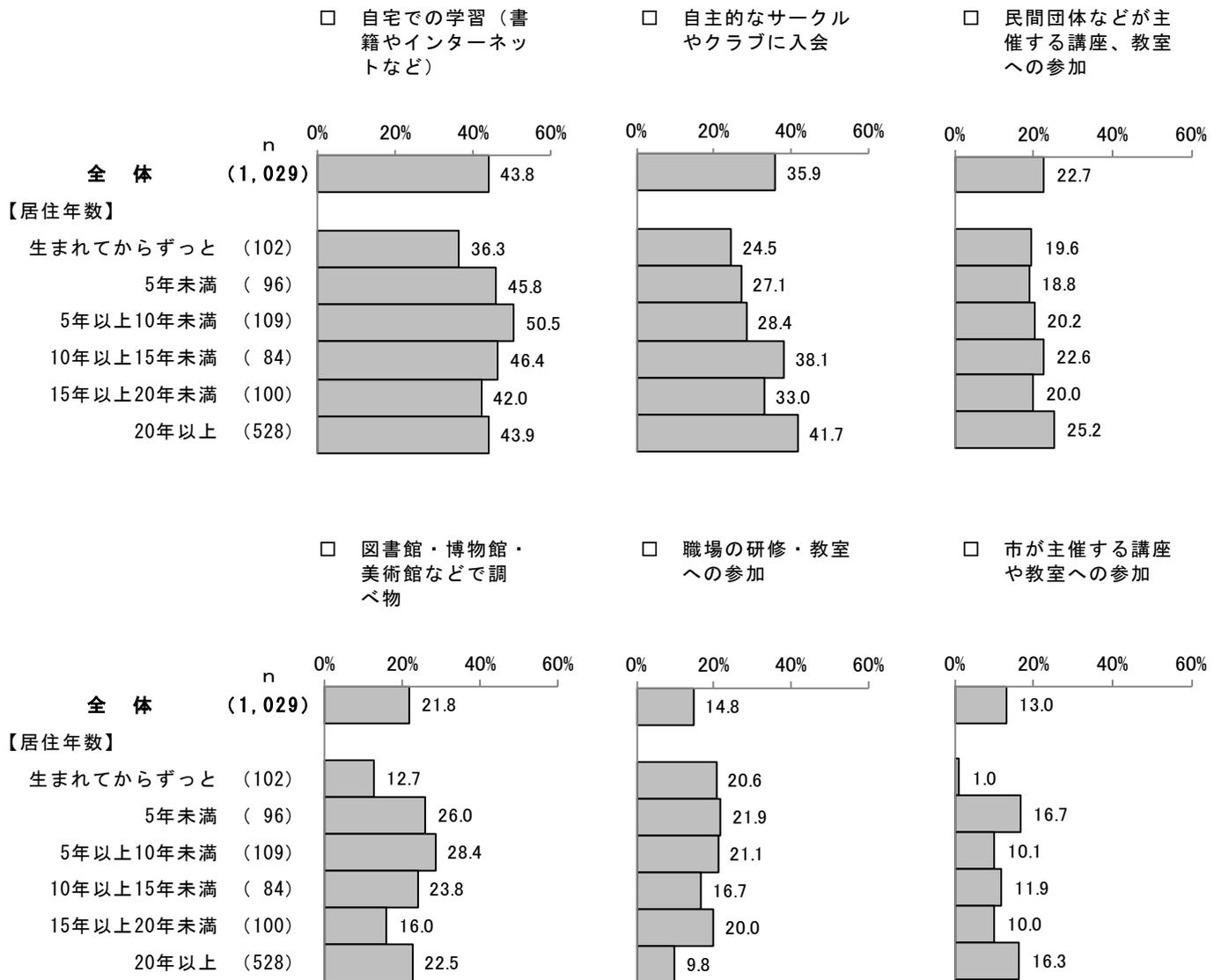
勤務先・通学先別でみると、「自宅での学習（書籍やインターネットなど）」は東京都内で約5割となっている。「自主的なサークルやクラブに入会」は市内で3割台半ば近く、「職場の研修・教室への参加」は市外で3割台半ば近くとなっている。

図表 1-11 生涯学習活動の方法（職業別 勤務先・通学先別、上位6項目）



居住年数別でみると、「自宅での学習（書籍やインターネットなど）」は5年以上10年未満で約5割、「自主的なサークルやクラブに入会」は20年以上で4割強となっている。

図表 1-12 生涯学習活動の方法（居住年数別、上位6項目）



(4) 生涯学習活動をしなかった理由

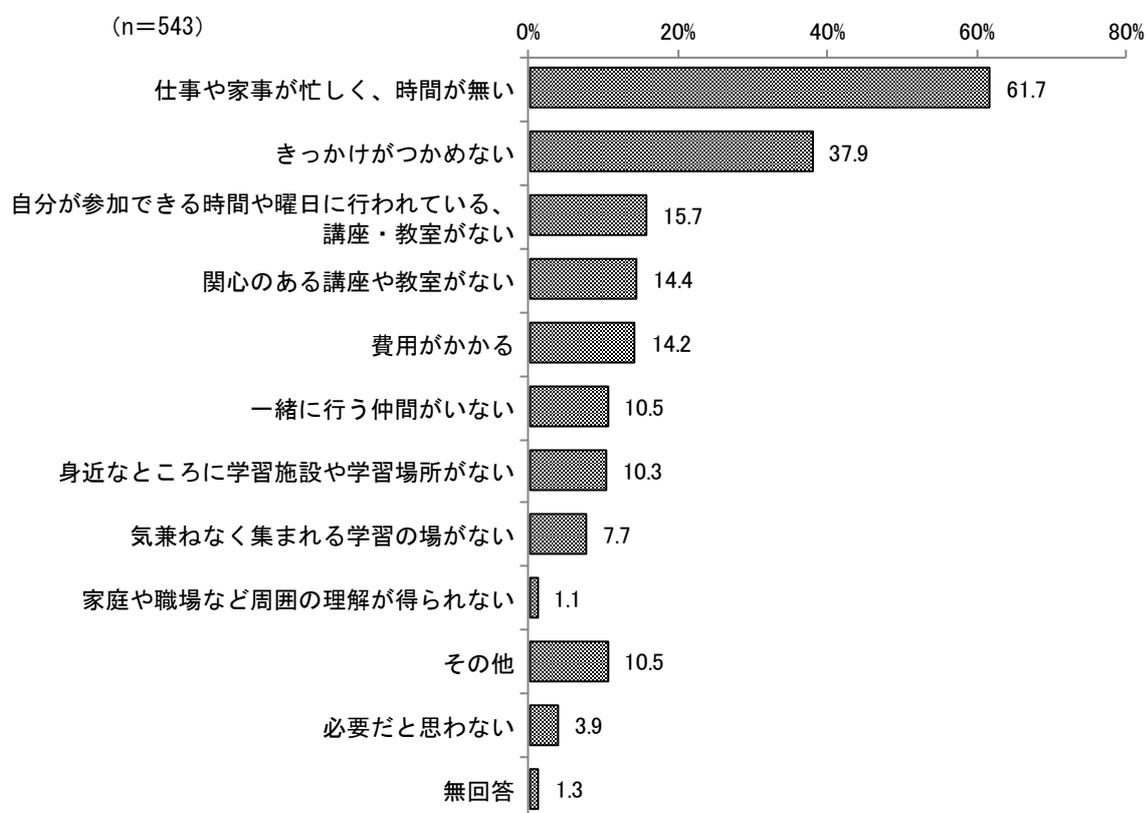
◇ 「仕事や家事が忙しく、時間が無い」が6割強

【問2で「13 (していない)」と回答した方にうかがいます。】

問4 この1年くらいの間に、「生涯学習活動」をしなかった理由は何ですか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習活動をしなかった理由については、「仕事や家事が忙しく、時間が無い」が61.7%と最も多く、次いで「きっかけがつかめない」(37.9%)、「自分が参加できる時間や曜日に行われている、講座・教室がない」(15.7%)、「関心のある講座や教室がない」(14.4%)、「費用がかかる」(14.2%)となっている。

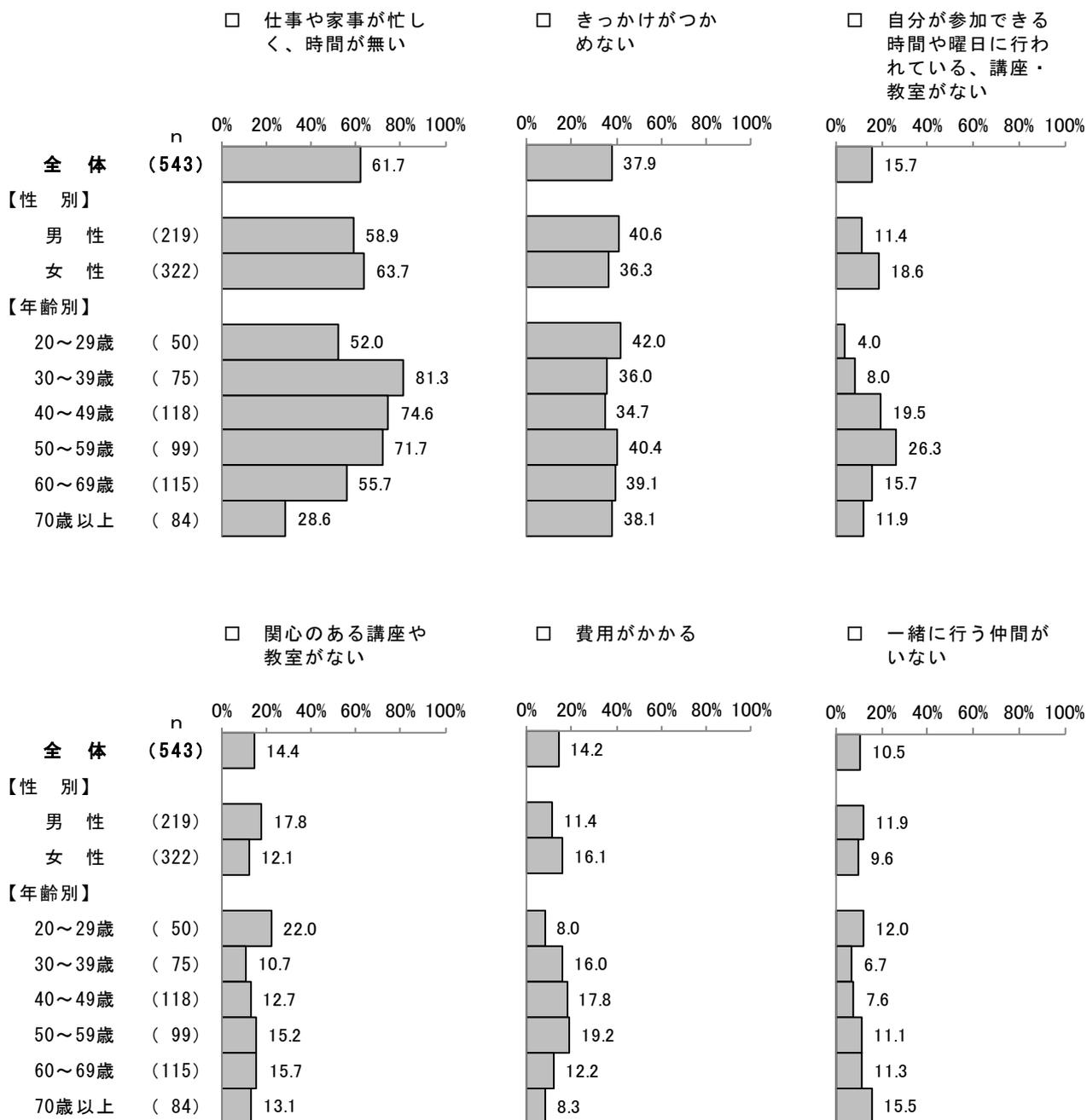
図表1-13 生涯学習活動をしなかった理由



性別でみると、「仕事や家事が忙しく、時間が無い」は女性が63.7%と6割台半ば近くとなり、男性(58.9%)を4.8ポイント上回っている。また「自分が参加できる時間や曜日に行われている、講座・教室がない」も女性(18.6%)が男性(11.4%)を7.2ポイント上回っている。一方「関心のある講座や教室がない」は男性(17.8%)が女性(12.1%)を5.7ポイント上回っている。

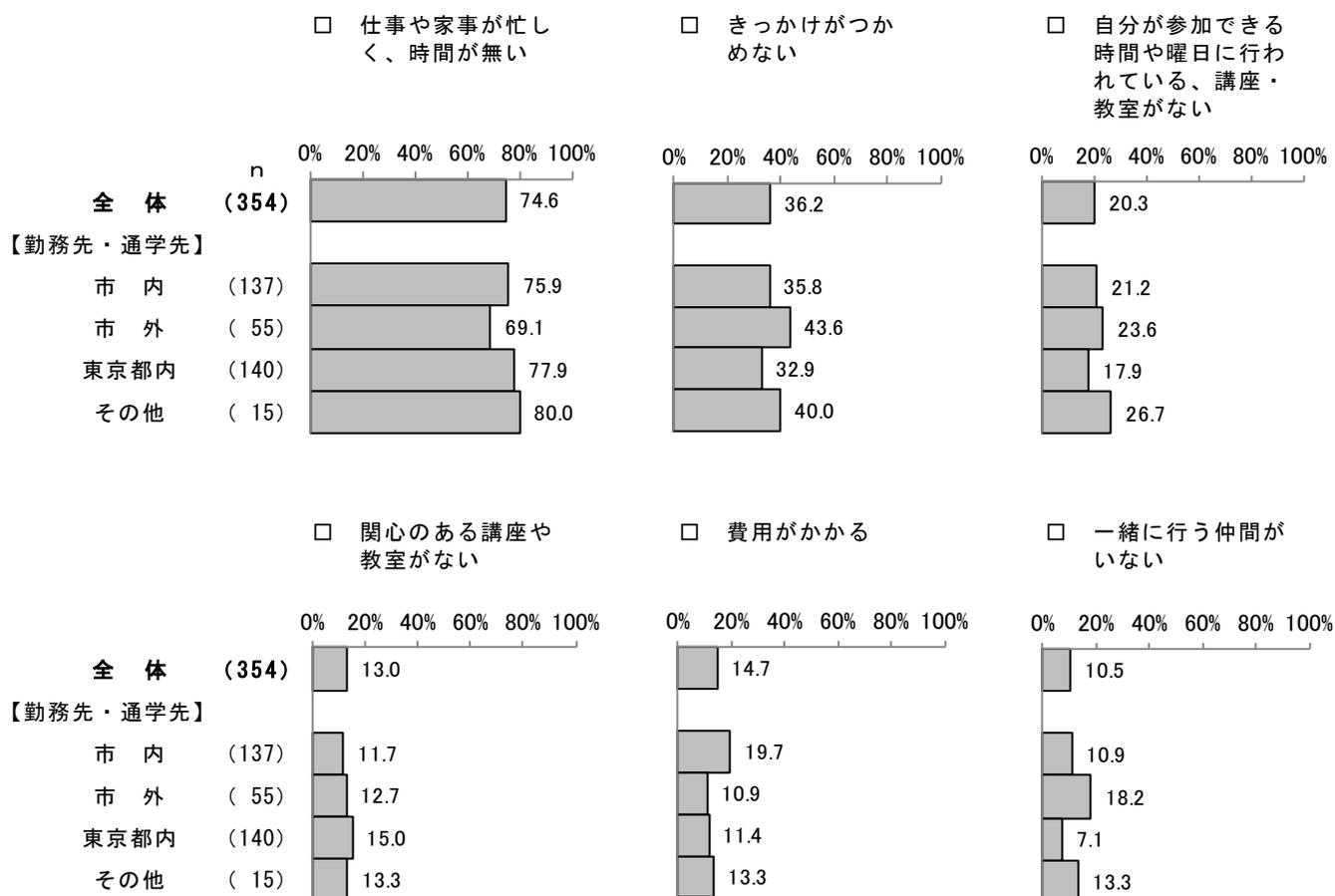
年齢別でみると、「仕事や家事が忙しく、時間が無い」は30歳代で8割強となっている。「自分が参加できる時間や曜日に行われている、講座・教室がない」と「費用がかかる」は50歳代までは年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

図表1-14 生涯学習活動をしなかった理由(性別 年齢別、上位6項目)



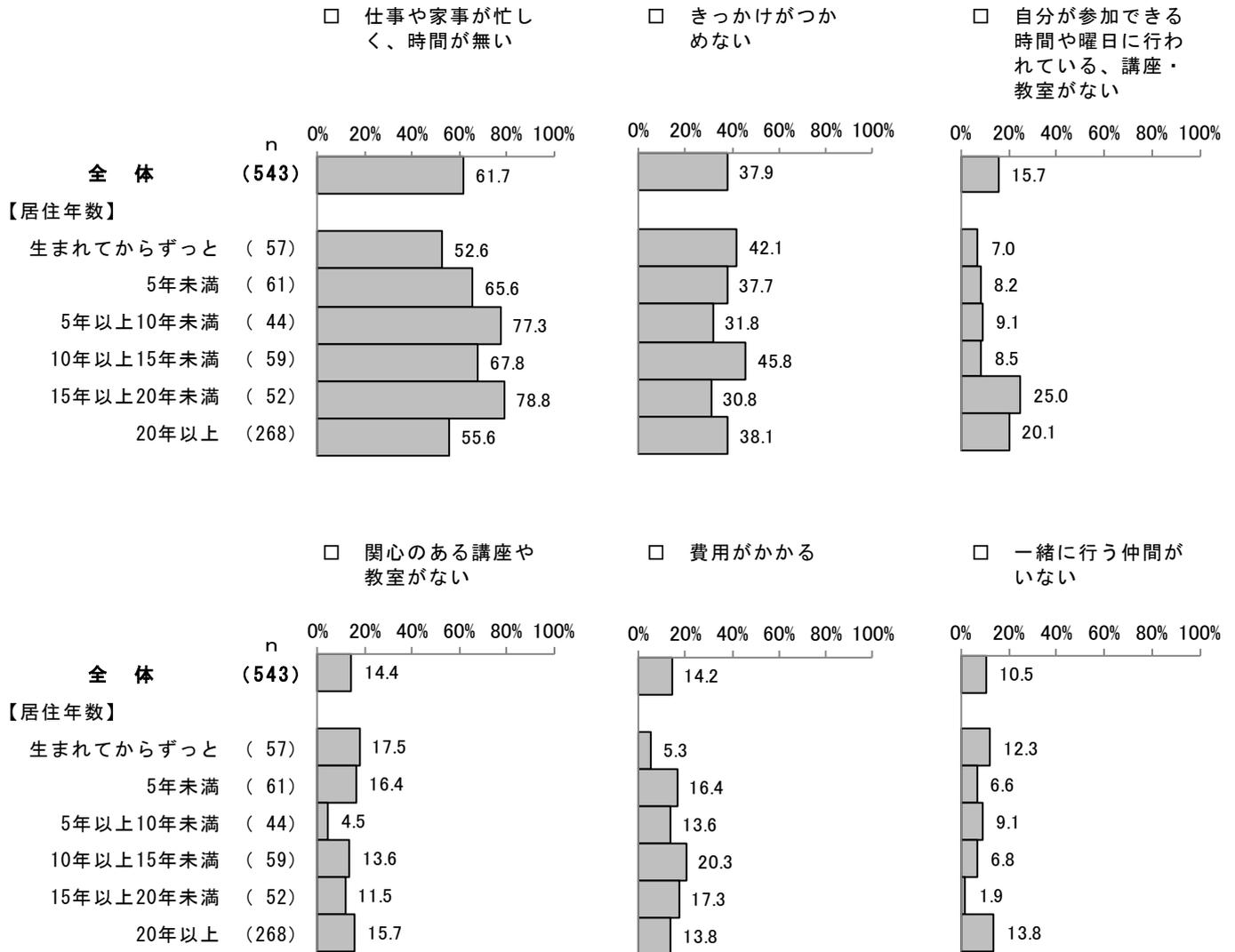
勤務先・通学先別でみると、「仕事や家事が忙しく、時間が無い」は市内と東京都内では7割台半ばを超えている。「きっかけがつかめない」は市外で4割台半ば近くとなっている。

図表 1-15 生涯学習活動をしなかった理由（勤務先・通学先別、上位6項目）



居住年数別でみると、「仕事や家事が忙しく、時間が無い」は15年以上20年未満で8割近く、5年以上10年未満で7割台半ばを超えている。「きっかけがつかめない」は10年以上15年未満で4割台半ば、生まれてからずっとで4割強となっている。

図表1-16 生涯学習活動をしなかった理由（居住年数別、上位6項目）



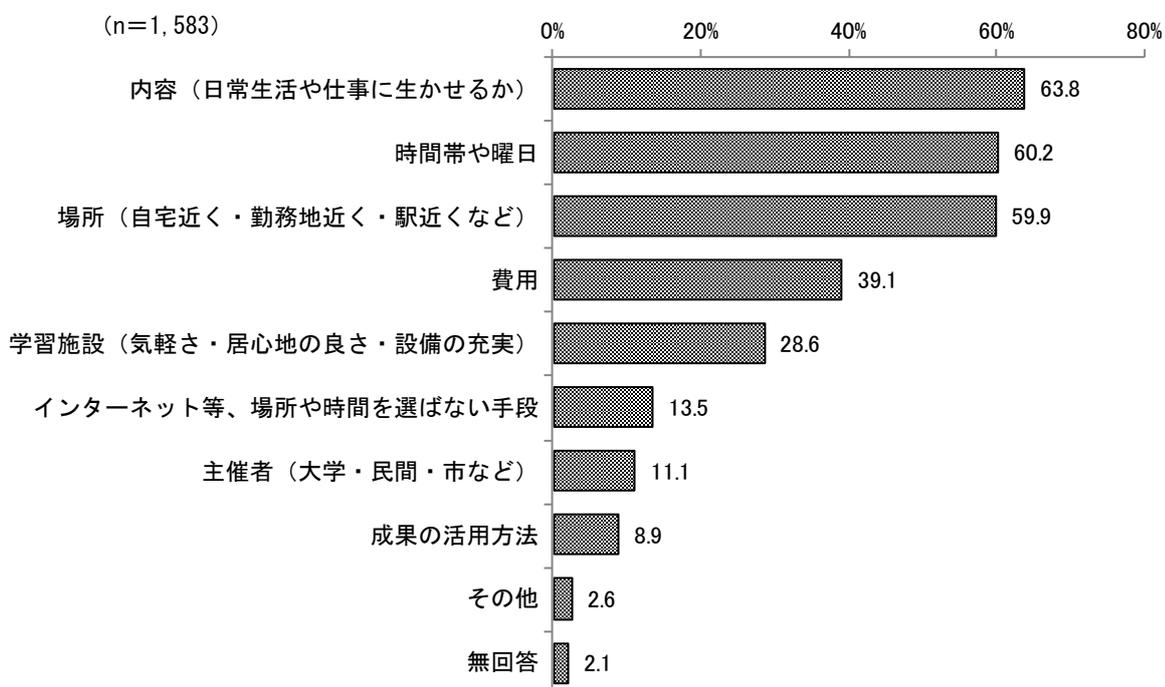
(5) 生涯学習活動に取り組もうとする際に優先すること

◇ 「内容（日常生活や仕事に生かせるか）」が6割台半ば近く

問5 生涯学習活動に取り組もうとする際に優先することは何ですか。あてはまる番号に いくつでも○印をつけてください。

生涯学習活動に取り組もうとする際に優先することについては、「内容（日常生活や仕事に生かせるか）」が63.8%と最も多く、次いで「時間帯や曜日」（60.2%）、「場所（自宅近く・勤務地近く・駅近くなど）」（59.9%）、「費用」（39.1%）、「学習施設（気軽さ・居心地の良さ・設備の充実）」（28.6%）となっている。

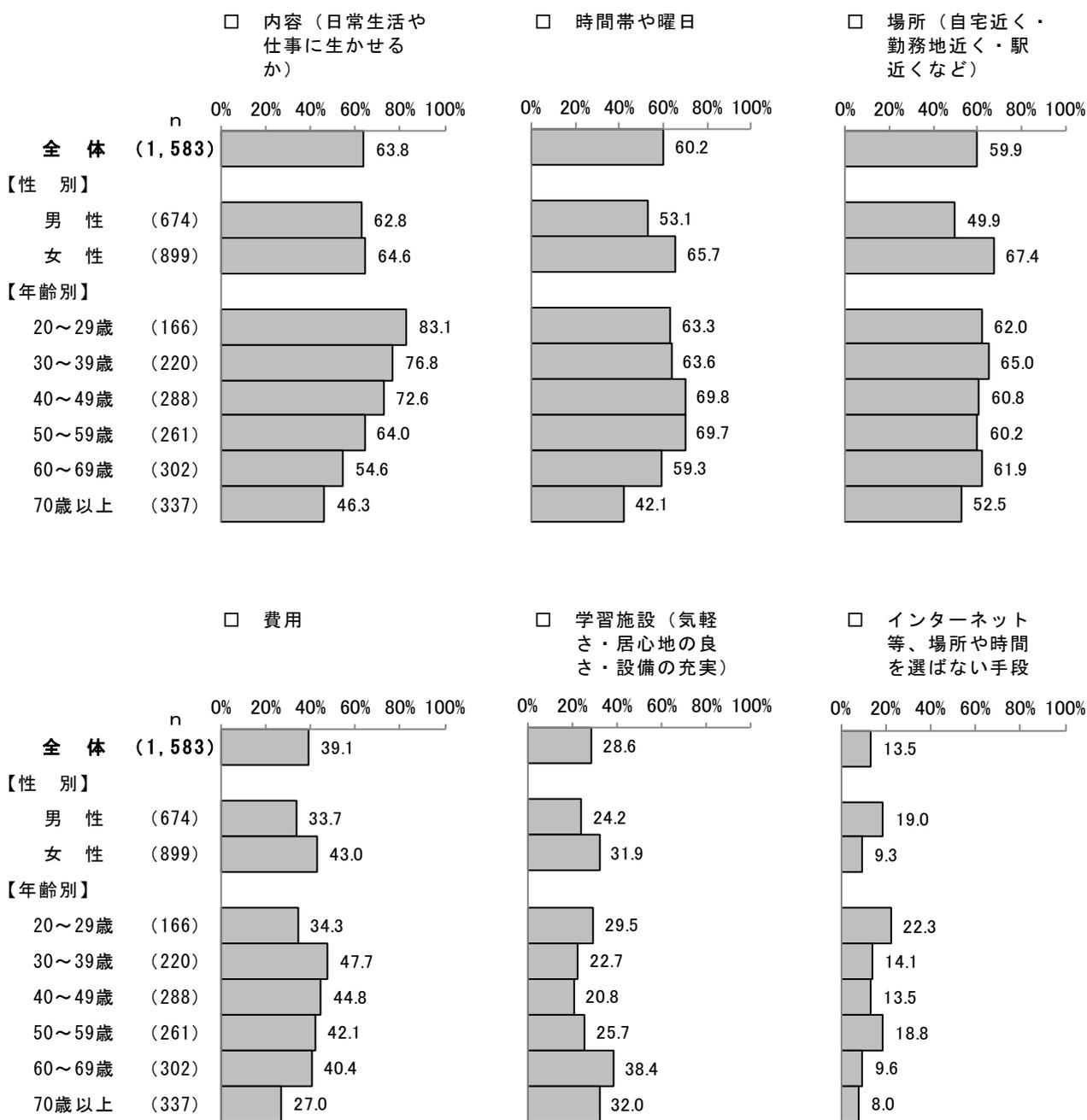
図表 1-17 生涯学習活動に取り組もうとする際に優先すること



性別でみると、「内容（日常生活や仕事に生かせるか）」は男女ともに6割を超えている。「時間帯や曜日」は女性（65.7%）が男性（53.1%）を12.6ポイント上回っている。また「場所（自宅近く・勤務地近く・駅近くなど）」も女性（67.4%）が男性（49.9%）を17.5ポイント上回っている。一方、「インターネット等、場所や時間を選ばない手段」は男性（19.0%）が女性（9.3%）を9.7ポイント上回っている。

年齢別でみると、「内容（日常生活や仕事に生かせるか）」は20歳代では8割台半ば近くとなり、年代が高くなるにつれて割合は低くなっている。「時間帯や曜日」は40歳代と50歳代で7割弱となっている。「場所（自宅近く・勤務地近く・駅近くなど）」は70歳以上を除く年代では6割を超えている。

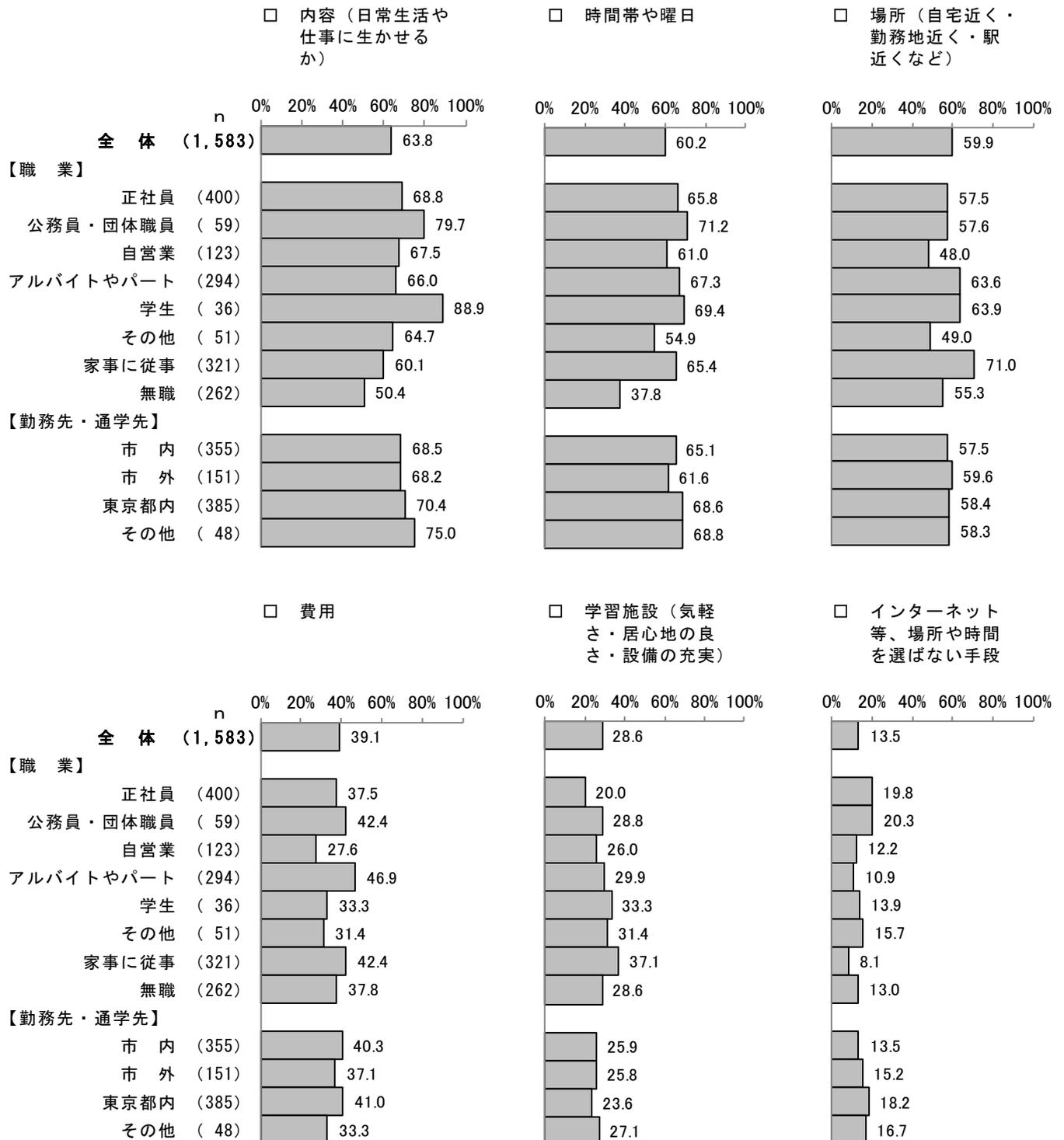
図表1-18 生涯学習活動に取り組もうとする際に優先すること（性別 年齢別、上位6項目）



職業別でみると、「内容（日常生活や仕事に生かせるか）」は学生で9割近く、公務員・団体職員で8割弱となっている。「時間帯や曜日」は公務員・団体職員で7割強、学生で7割弱となっている。「場所（自宅近く・勤務地近く・駅近くなど）」は家事に従事で7割強となっている。

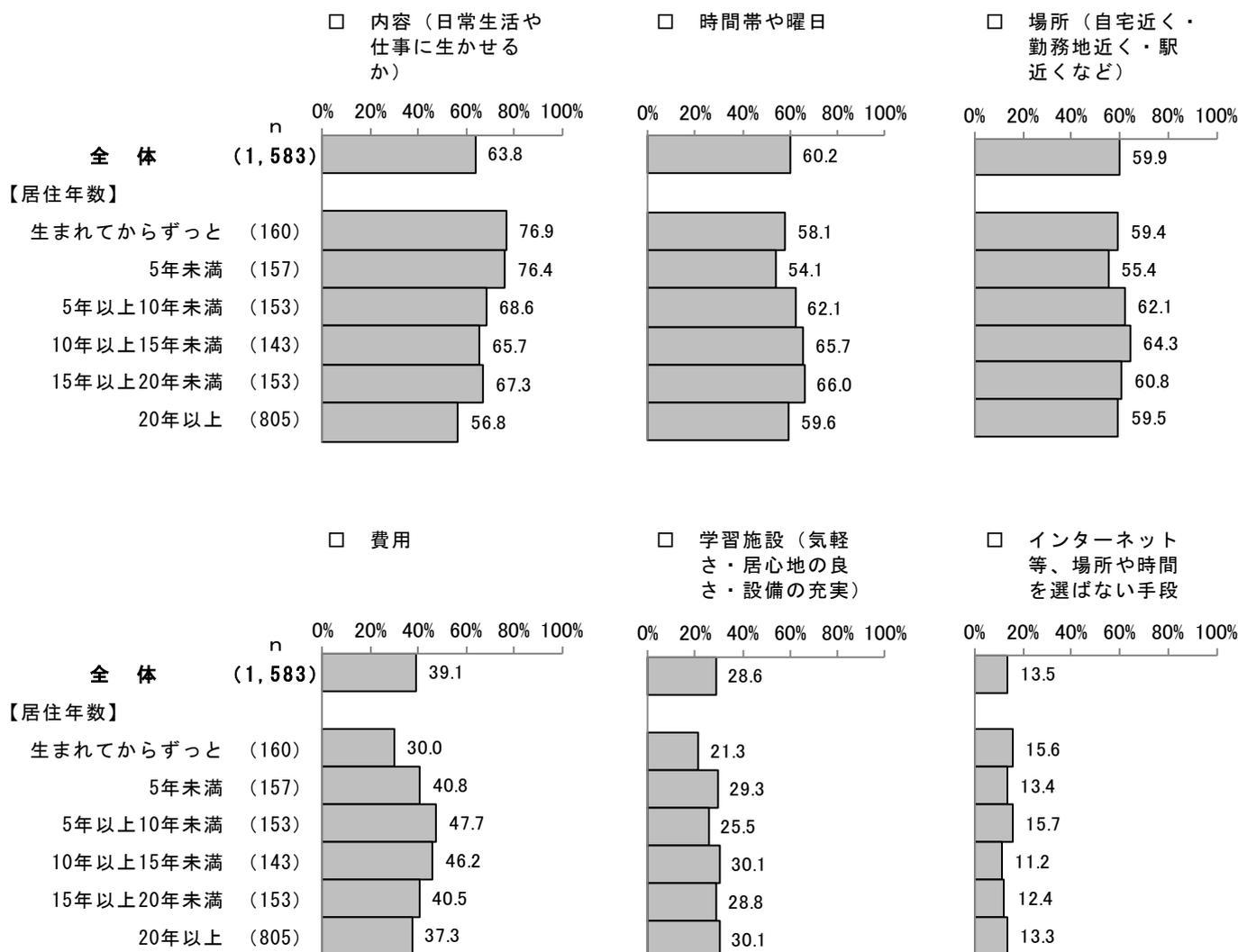
勤務先・通学先別でみると、「内容（日常生活や仕事に生かせるか）」は東京都内で約7割となっている。「時間帯や曜日」でも東京都内では7割近くとなっている。

図表1-19 生涯学習活動に取り組もうとする際に優先すること
(職業別 勤務先・通学先別、上位6項目)



居住年数別でみると、「内容（日常生活や仕事に生かせるか）」は生まれてからずっとと5年未満で7割台半ばを超えている。「時間帯や曜日」は10年以上15年未満と15年以上20年未満では6割台半ばを超えている。「場所（自宅近く・勤務地近く・駅近くなど）」は10年以上15年未満で6割台半ば近くとなっている。

図表1-20 生涯学習活動に取り組もうとする際に優先すること（居住年数別、上位6項目）



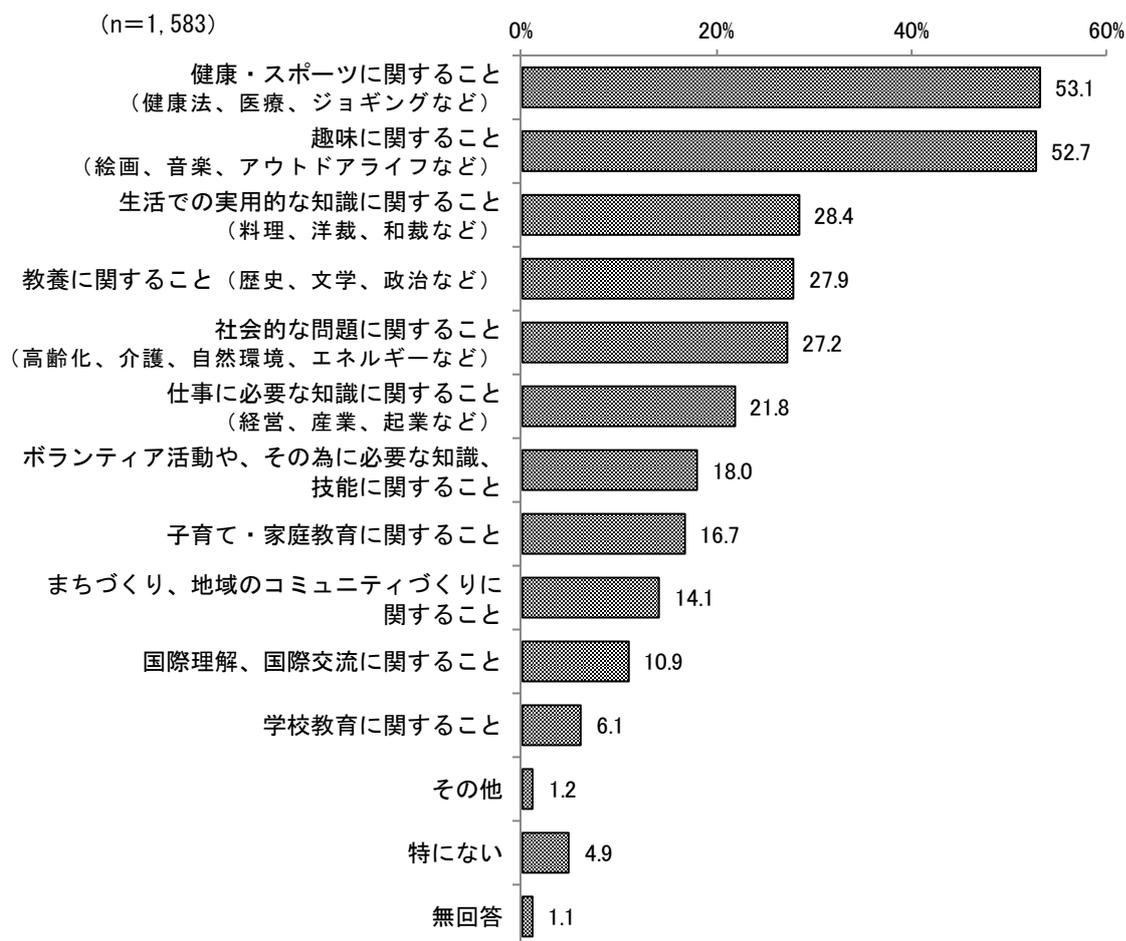
(6) 今後、学びたいこと

- ◇ 「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」と「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」が5割を超えている

問6 今後、どのようなことを学びたいと思いますか。あてはまる番号に いくつでも○印 をつけてください。

今後、学びたいことについては、「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」が53.1%と最も多く、次いで「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」(52.7%)、「生活での実用的な知識に関すること（料理、洋裁、和裁など）」(28.4%)、「教養に関すること（歴史、文学、政治など）」(27.9%)、「社会的な問題に関すること（高齢化、介護、自然環境、エネルギーなど）」(27.2%)となっている。

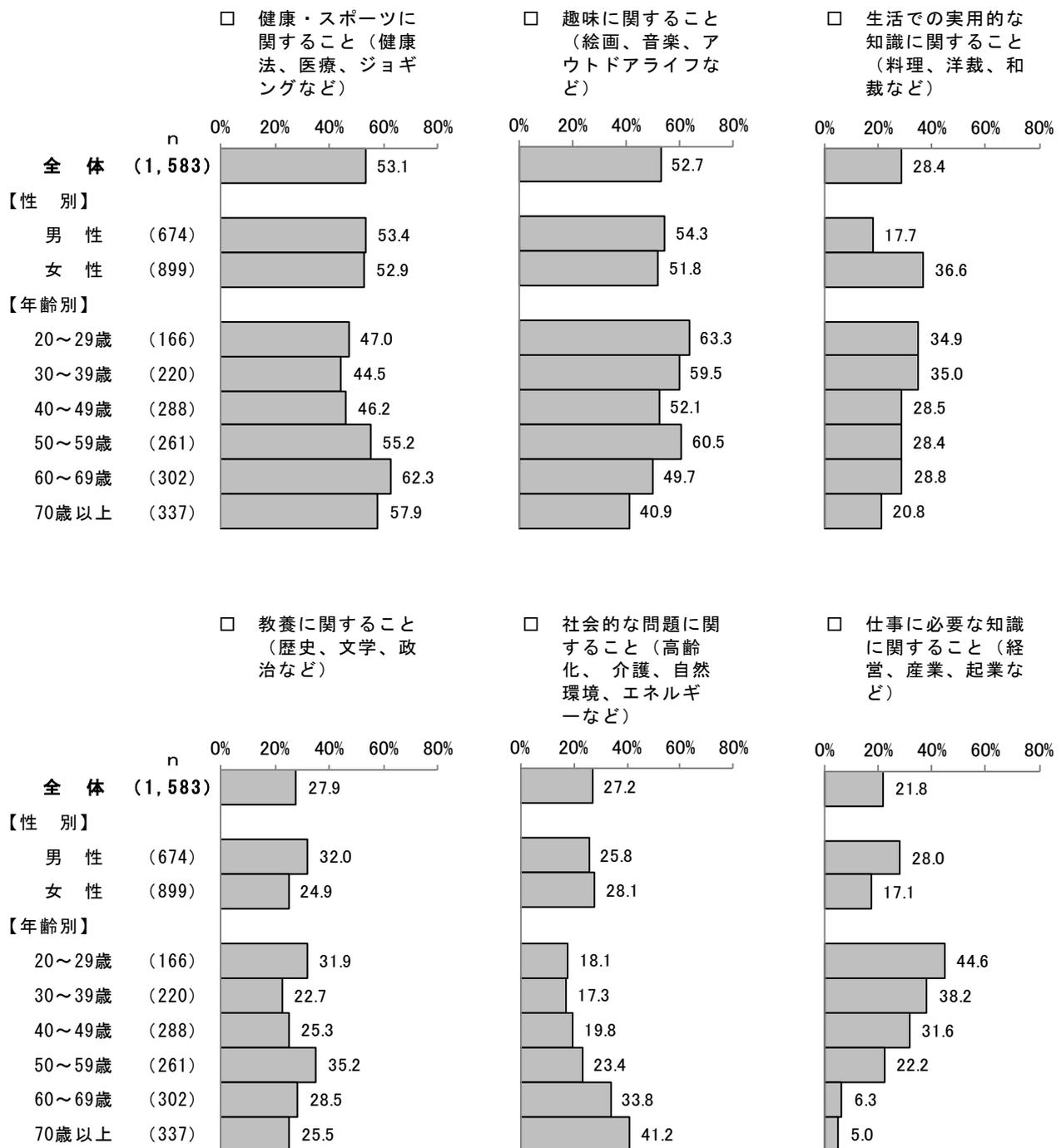
図表1-21 今後、学びたいこと



性別でみると、「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」と「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」は男女ともに5割を超えている。「生活での実用的な知識に関すること（料理、洋裁、和裁など）」は女性（36.6%）が男性（17.7%）を18.9ポイント上回っている。一方、「仕事に必要な知識に関すること（経営、産業、起業など）」は男性（28.0%）が女性（17.1%）を10.9ポイント上回っている。

年齢別でみると、「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」は60歳代で6割強となっている。「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」は20歳代で6割台半ば近くとなっている。「社会的な問題に関すること（高齢化、介護、自然環境、エネルギーなど）」は30歳以上では年代が上がるにつれて割合は高くなっている。一方、「仕事に必要な知識に関すること（経営、産業、起業など）」は20歳代では4割台半ばとなっているが60歳代と70歳以上では1割未満となっており、年代が上がるにつれて割合は低くなっている。

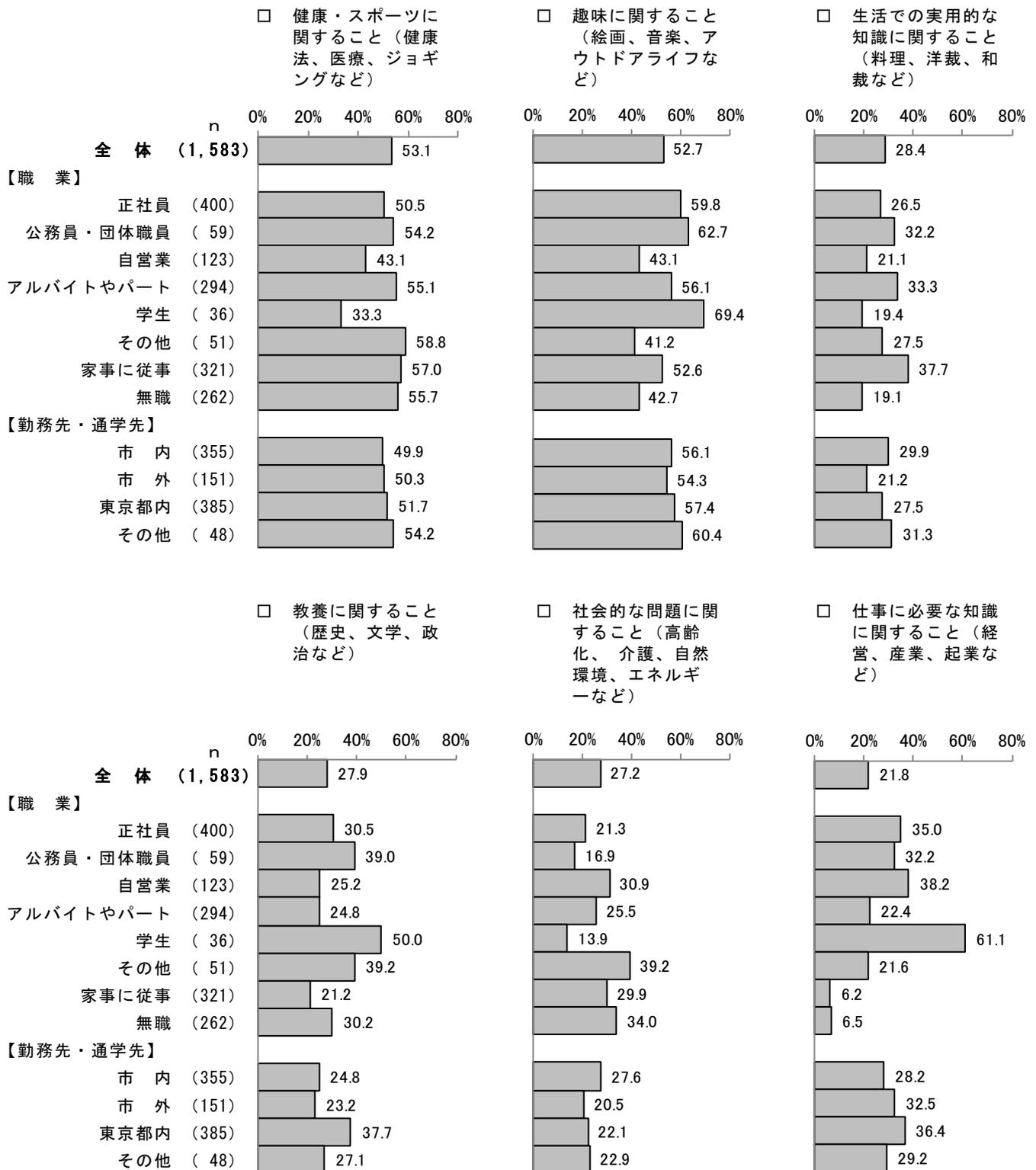
図表1-22 今後、学びたいこと（性別 年齢別、上位6項目）



職業別でみると、「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」は家事に従事と無職で5割台半ばを超えている。「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」は学生で7割弱となっている。また「仕事に必要な知識に関すること（経営、産業、起業など）」も学生では6割強となっている。

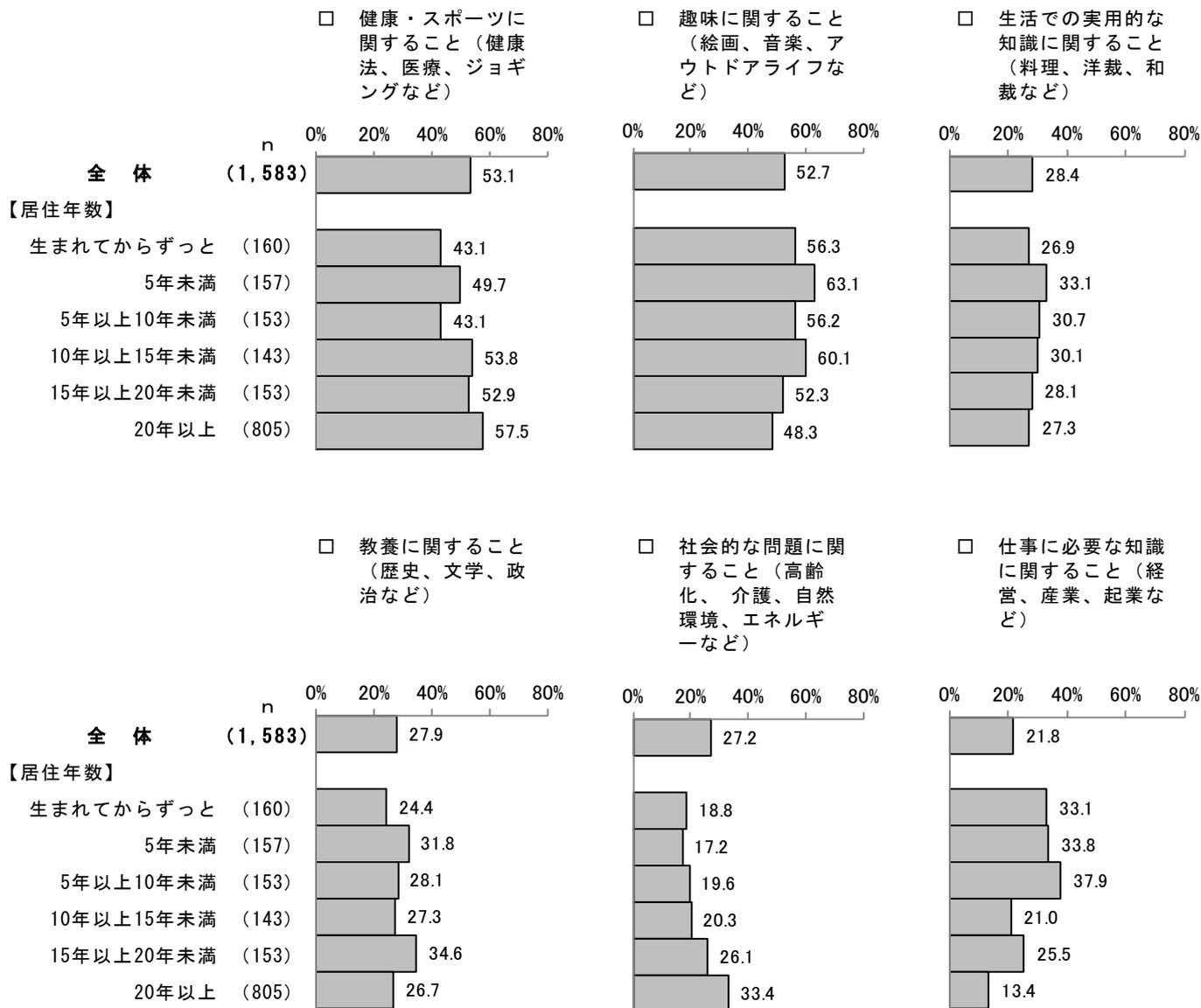
勤務先・通学先別でみると、「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」は東京都内で5割台半ばを超えている

図表 1-23 今後、学びたいこと（職業別 勤務先・通学先別、上位6項目）



居住年数別でみると、「健康・スポーツに関すること（健康法、医療、ジョギングなど）」は20年以上で5割台半ばを超えている。「趣味に関すること（絵画、音楽、アウトドアライフなど）」は5年未満で6割台半ば近くとなっている。

図表1-24 今後、学びたいこと（居住年数別、上位6項目）



2. 生涯学習活動に関する情報について

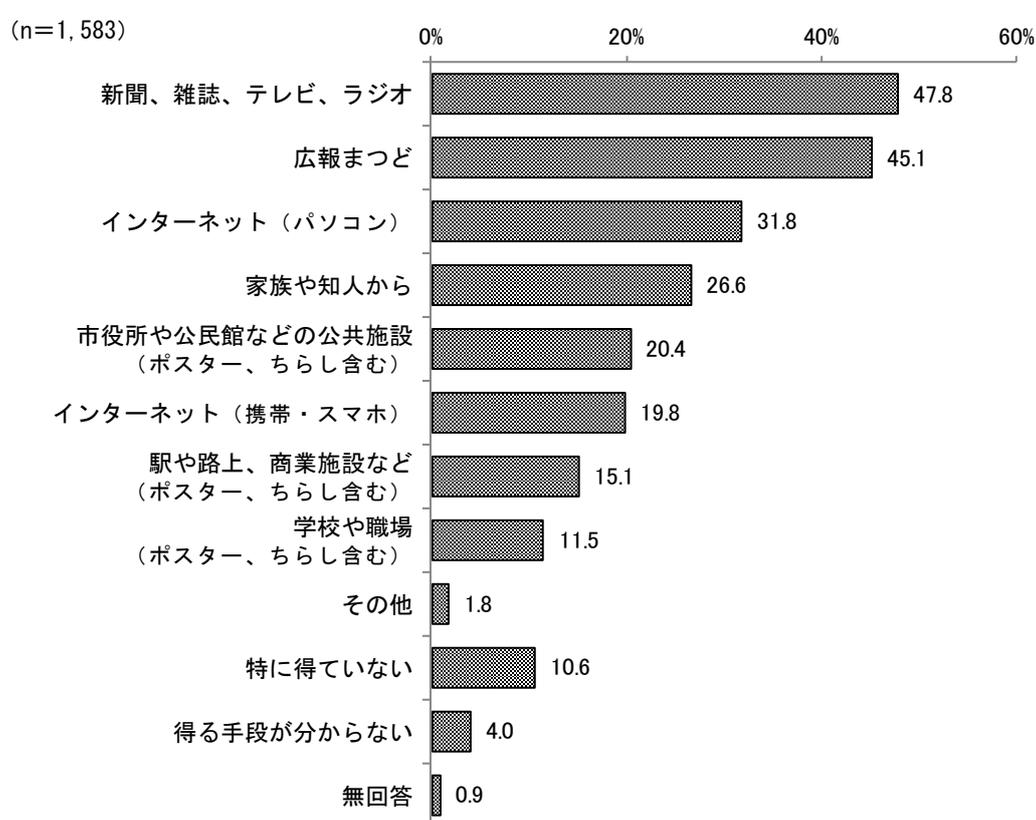
(1) 生涯学習活動に関する情報の入手方法

◇ 「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」と「広報まつど」が4割台半ばを超えている

問7 あなたは、生涯学習に関する情報をどのようにして手に入れていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習活動に関する情報の入手方法については、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」が47.8%と最も多く、次いで「広報まつど」(45.1%)、「インターネット(パソコン)」(31.8%)、「家族や知人から」(26.6%)となっている。

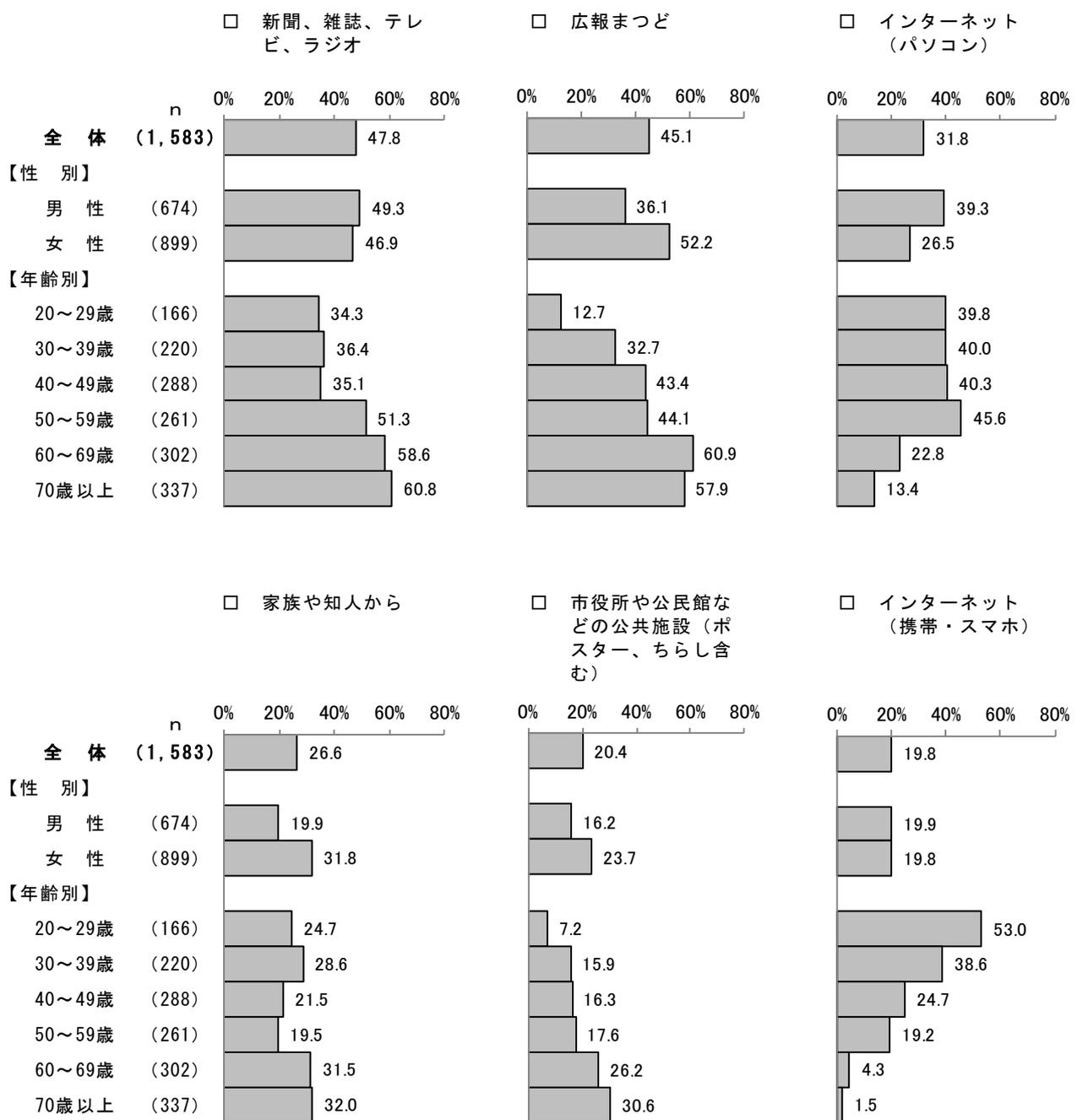
図表2-1 生涯学習活動に関する情報の入手方法



性別でみると、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」は男性が約5割、女性が4割台半ばを超えている。「広報まつど」は女性（52.2%）が男性（36.1%）を16.1ポイント上回っている。同様に「家族や知人から」も女性（31.8%）が男性（19.9%）を11.9ポイント上回っている。一方、「インターネット（パソコン）」は男性（39.3%）が女性（26.5%）を12.8ポイント上回っている。

年齢別でみると、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」は60歳代で6割近く、70歳以上で約6割となっている。「広報まつど」は60歳代で約6割、70歳以上で5割台半ばを超えているが、20歳代では1割強にとどまっている。「市役所や公民館などの公共施設（ポスター、ちらし含む）」は20歳代では1割未満となっているが、70歳以上では約3割となっており、年代が上がるにつれて割合は高くなっている。一方、「インターネット（携帯・スマホ）」は20歳代では5割台半ば近くとなっているが、60歳代と70歳以上では1割未満となっており、年代が上がるにつれて割合は低くなっている。

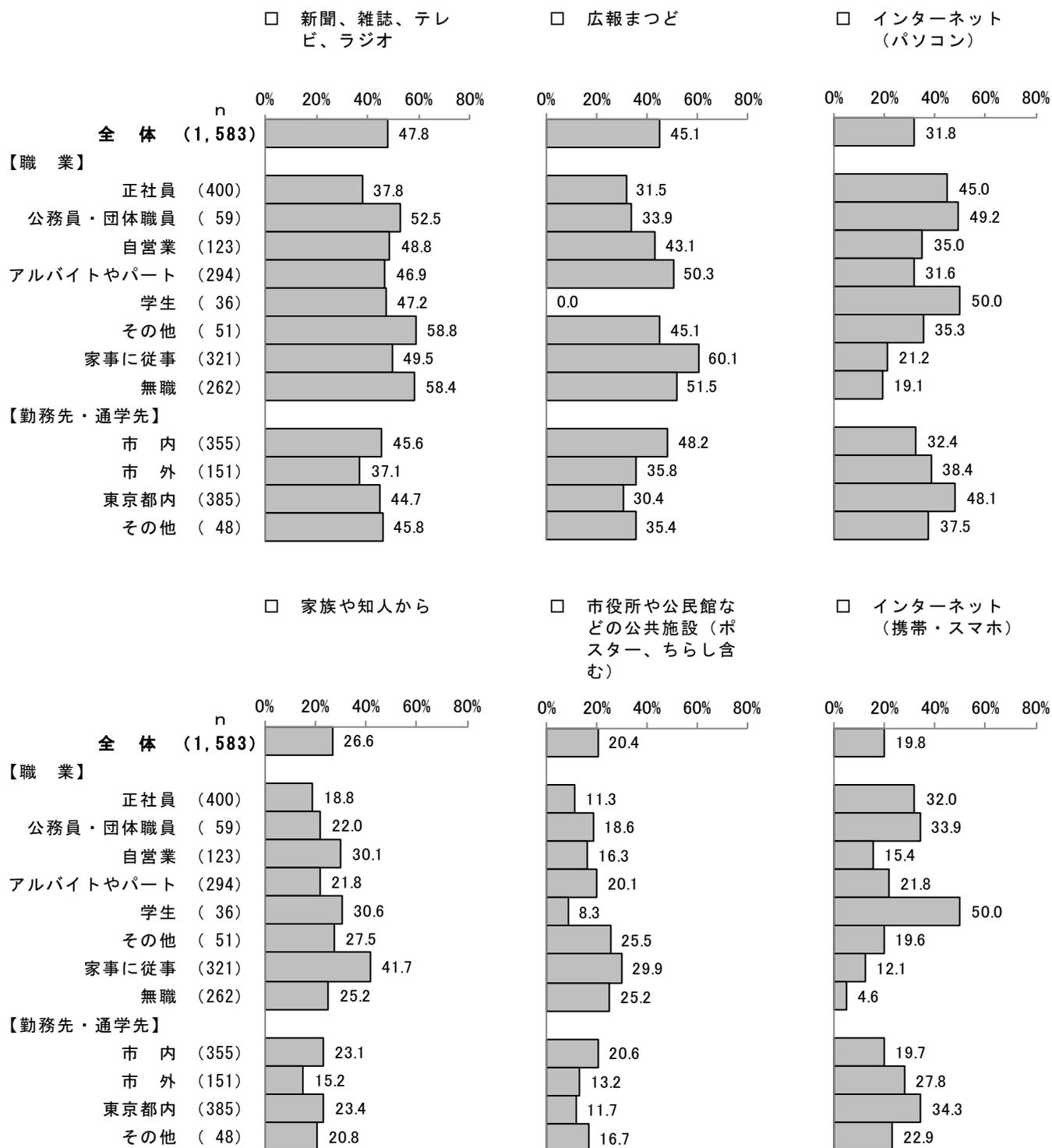
図表2-2 生涯学習活動に関する情報の入手方法（性別 年齢別、上位6項目）



職業別でみると、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」は無職で6割近くとなっている。「広報まつど」は家事に従事で約6割となっている。「インターネット（パソコン）」と「インターネット（携帯・スマホ）」は学生でそれぞれ5割となっている。

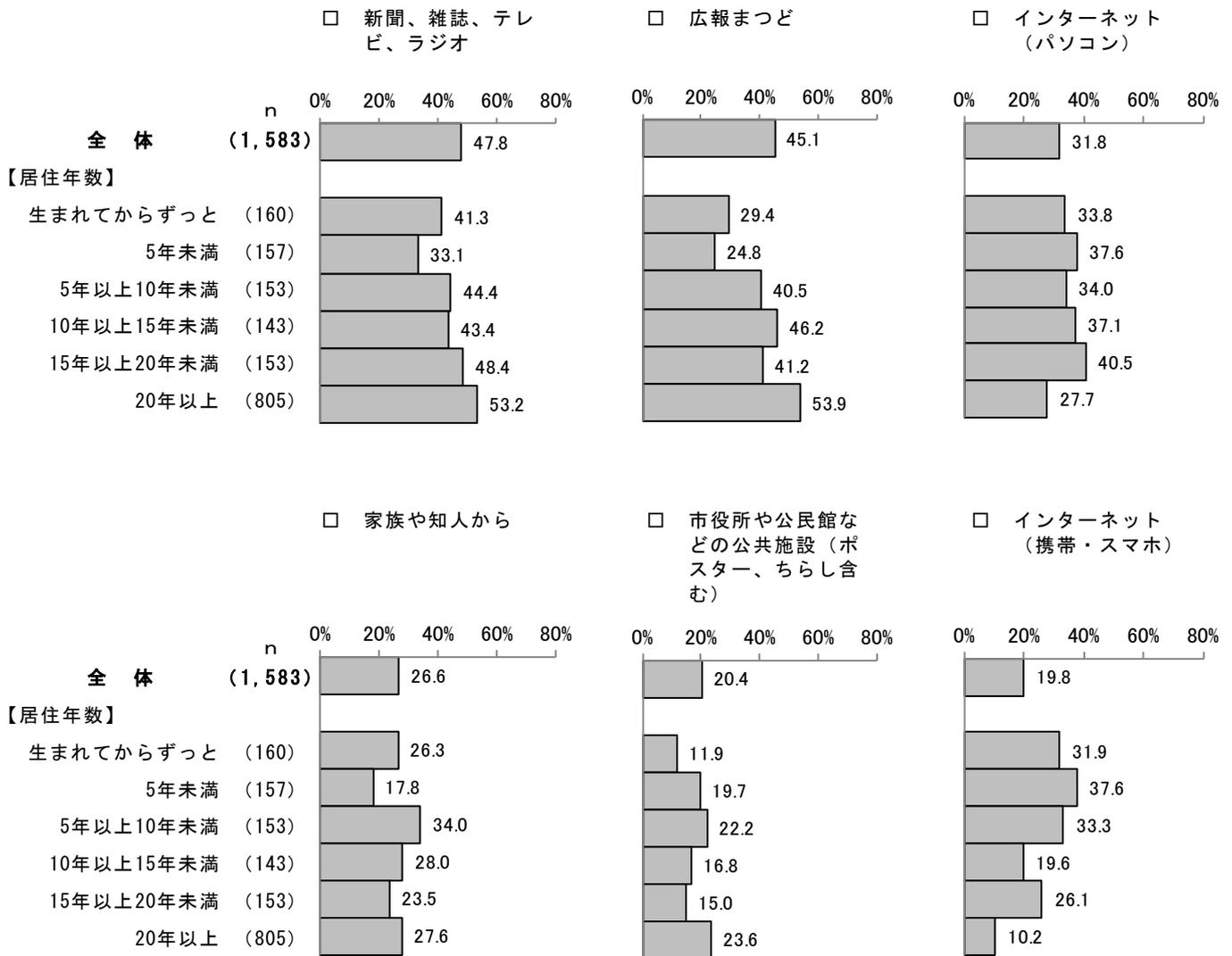
勤務先・通学先別でみると、「広報まつど」は市内で5割近くとなっている。「インターネット（パソコン）」は東京都内で5割近くとなっている。

図表2-3 生涯学習活動に関する情報の入手方法（職業別 勤務先・通学先別、上位6項目）



居住年数別でみると、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」は20年以上で5割台半ばとなっている。
 また「広報まつど」でも20年以上では5割台半ばとなっている。

図表2-4 生涯学習活動に関する情報の入手方法（居住年数別、上位6項目）



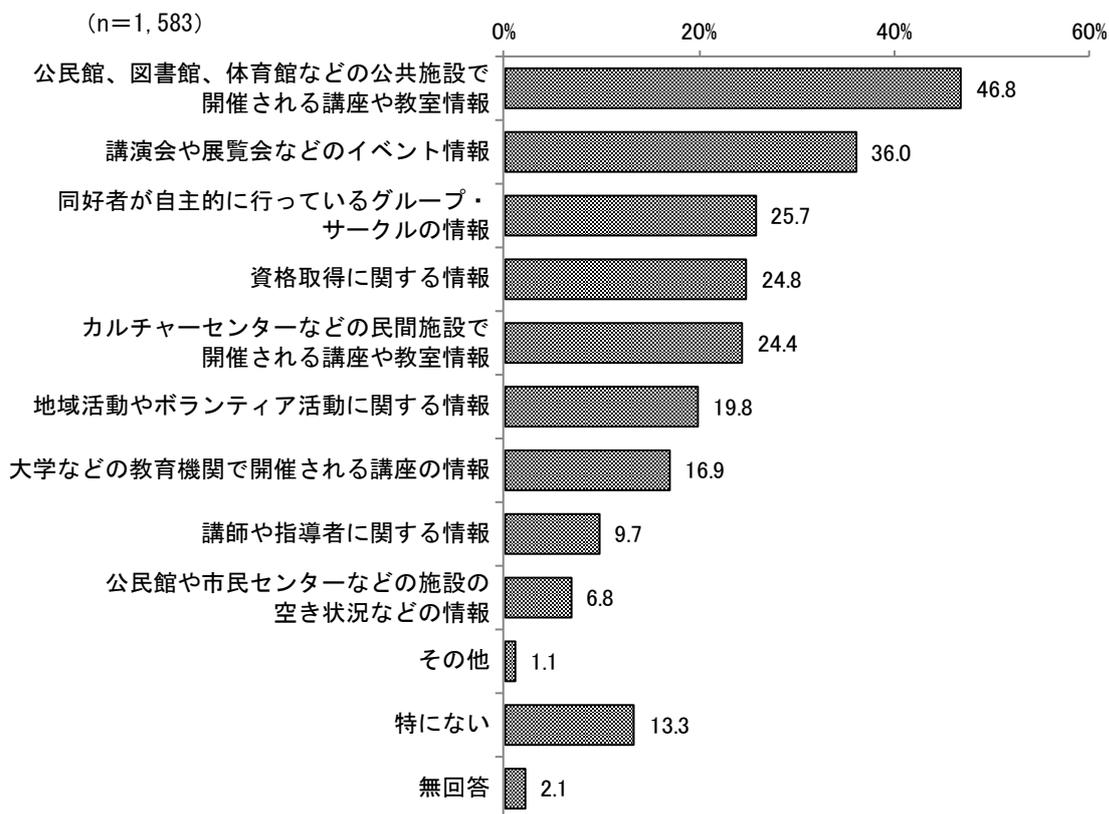
(2) 生涯学習活動に関して知りたい情報

- ◇ 「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室情報」が4割台半ばをこえている

問 8 あなたは、生涯学習に関係するどのような情報を知りたいですか。あてはまる番号に いくつでも○印をつけてください。

生涯学習活動に関して知りたい情報については、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室情報」が46.8%と最も多く、次いで「講演会や展覧会などのイベント情報」(36.0%)、「同好者が自主的に行っているグループ・サークルの情報」(25.7%)、「資格取得に関する情報」(24.8%)、「カルチャーセンターなどの民間施設で開催される講座や教室情報」(24.4%)となっている。

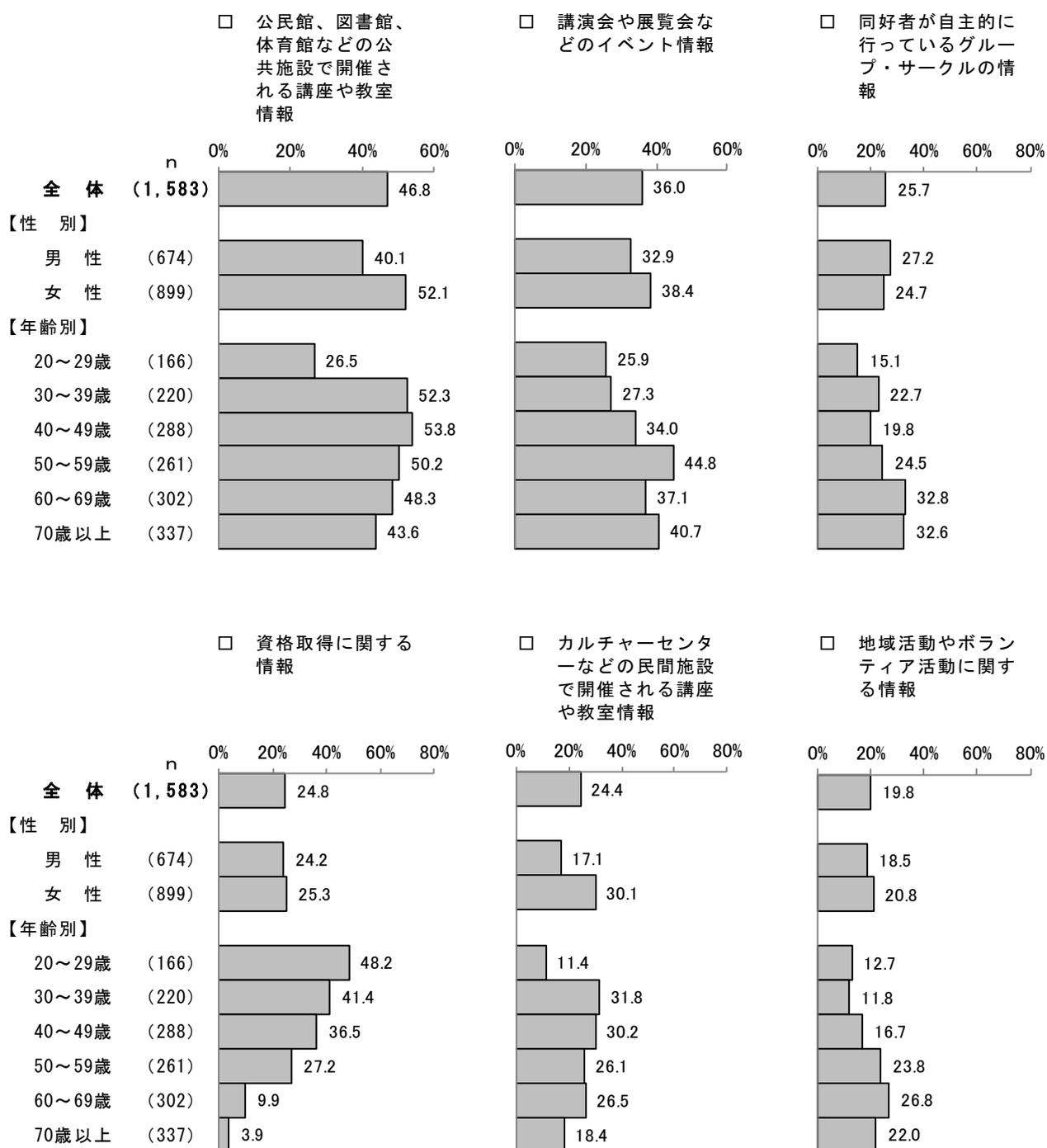
図表 2-5 生涯学習活動に関して知りたい情報



性別でみると、上位6項目のうち5項目は女性が男性を上回っており、特に「カルチャーセンターなどの民間施設で開催される講座や教室情報」は女性（30.1%）と男性（17.1%）の差は13.0ポイント、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室情報」は女性（52.1%）と男性（40.1%）の差は12.0ポイントとなっている。一方、「同好者が自主的に行っているグループ・サークルの情報」は男性（27.2%）が女性（24.7%）を2.5ポイント上回っている。

年齢別でみると、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室情報」は40歳代で5割台半ば近く、30歳代では5割強となっている。「講演会や展覧会などのイベント情報」は50歳代までは年代が上がるにつれて割合も高くなっており、50歳代では4割台半ば近くとなっている。一方、「資格取得に関する情報」は20歳代では5割近くとなっているが、60歳代と70歳以上では1割未満となっており、年代が上がるにつれて割合は低くなっている。

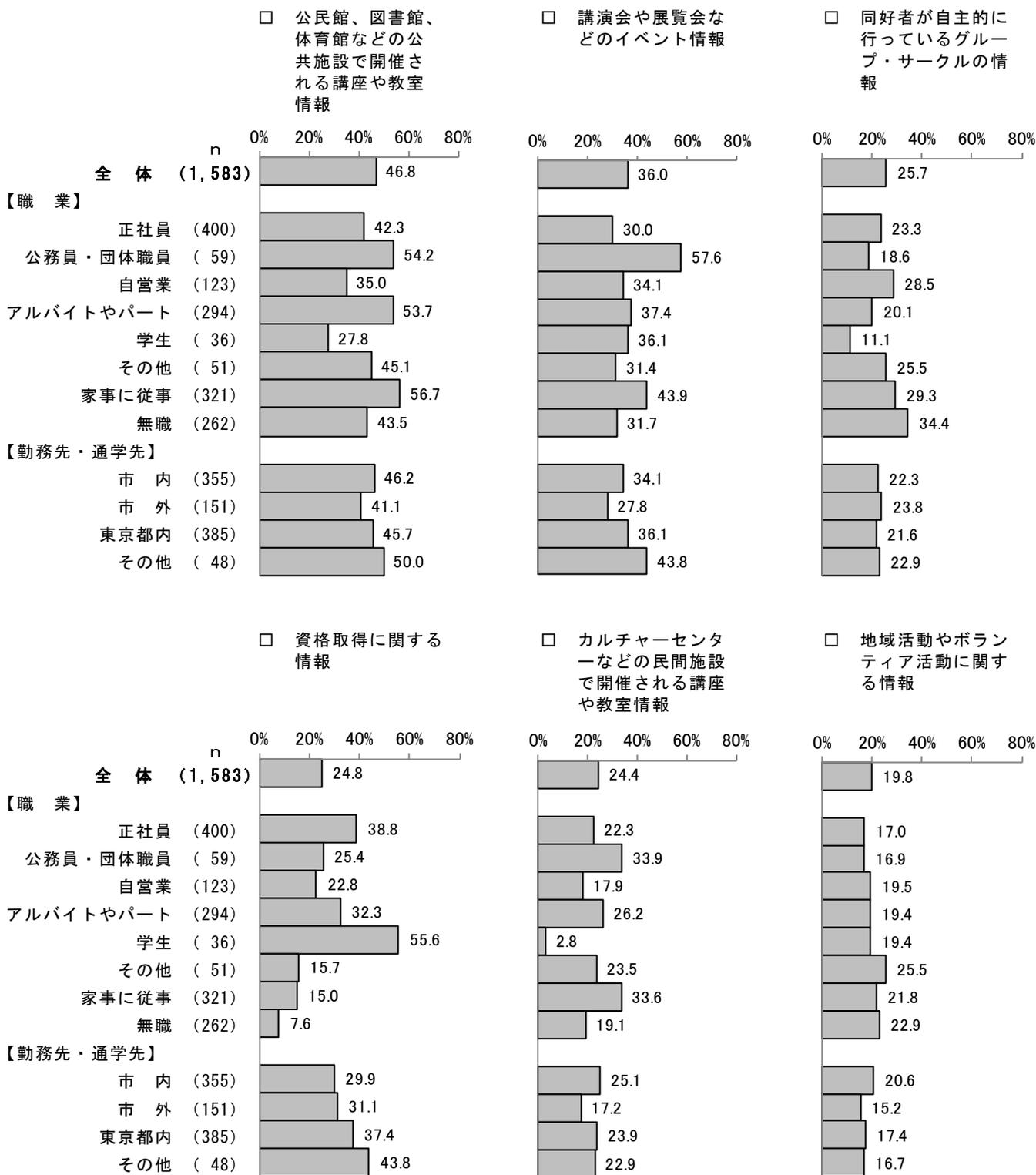
図表2-6 生涯学習活動に関して知りたい情報（性別 年齢別、上位6項目）



職業別でみると、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室情報」は家事に従事で5割台半ばを超え、公務員・団体職員とアルバイトやパートで5割台半ば近くとなっている。

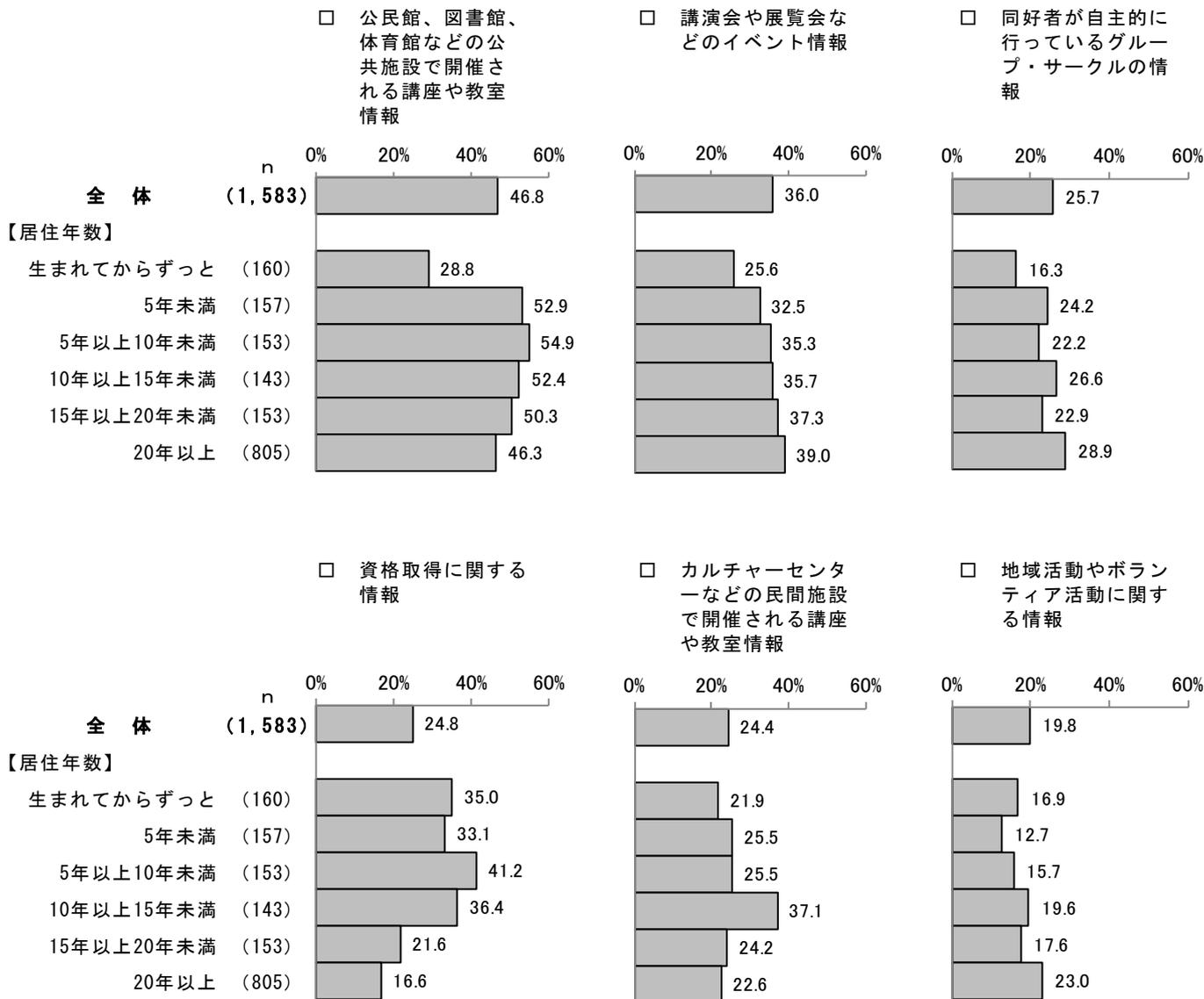
勤務先・通学先別でみると、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室情報」は市内と東京都内で4割台半ばを超えている。「資格取得に関する情報」は東京都内で3割台半ばを超えている。

図表 2-7 生涯学習活動に関して知りたい情報（職業別 勤務先・通学先別、上位6項目）



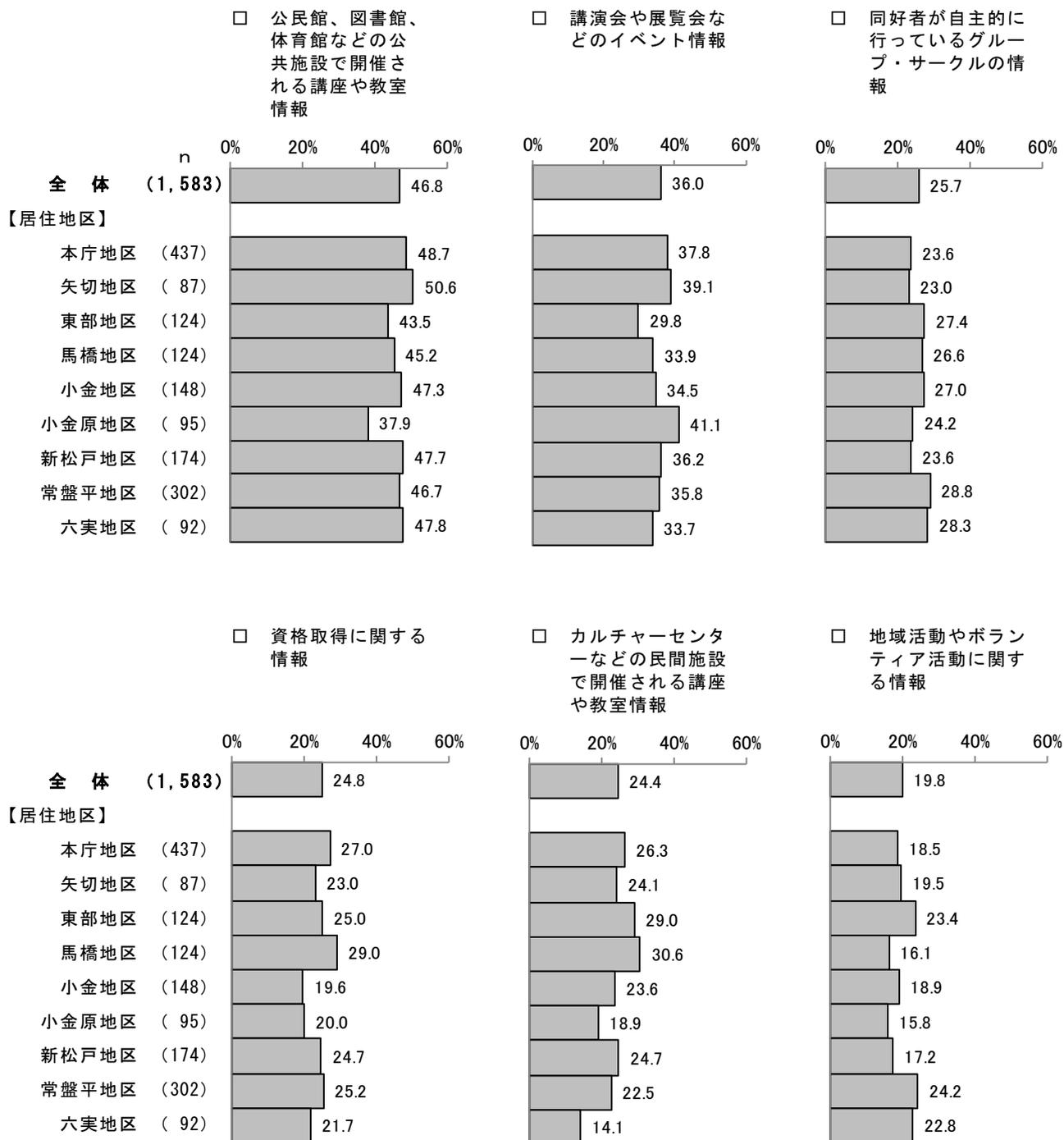
居住年数別でみると、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室情報」は5年以上10年未満で5割台半ば近くとなっているが、生まれてからずっとでは3割に満たない。「講演会や展覧会などのイベント情報」は20年以上で4割弱となっている。

図表 2-8 生涯学習活動に関して知りたい情報（居住年数別、上位6項目）



居住地区別でみると、「公民館、図書館、体育館などの公共施設で開催される講座や教室情報」は矢切地区で約5割となっている。「講演会や展覧会などのイベント情報」は小金原地区で4割強となっている。「カルチャーセンターなどの民間施設で開催される講座や教室情報」は馬橋地区で約3割、東部地区で3割弱となっている。

図表 2-9 生涯学習活動に関して知りたい情報（居住地区別、上位6項目）



3. これからの、生涯学習活動における現状や課題について

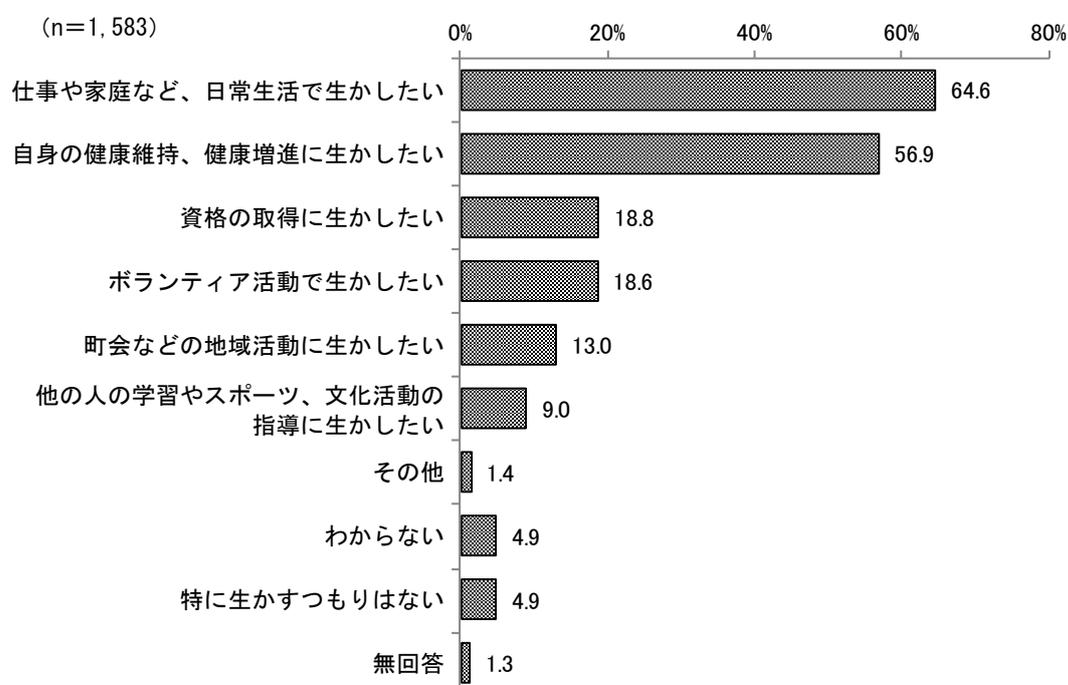
(1) 生涯学習活動を通じて身につけた知識や技能、経験の生かし方

◇ 「仕事や家庭など、日常生活で生かしたい」が6割台半ば近く

問9 あなたは、「生涯学習活動」を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように生かしたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習活動を通じて身につけた知識や技能、経験の生かし方については、「仕事や家庭など、日常生活で生かしたい」が64.6%と最も多く、次いで「自身の健康維持、健康増進に生かしたい」(56.9%)となっており、上位2項目が5割台半ばを超えている。

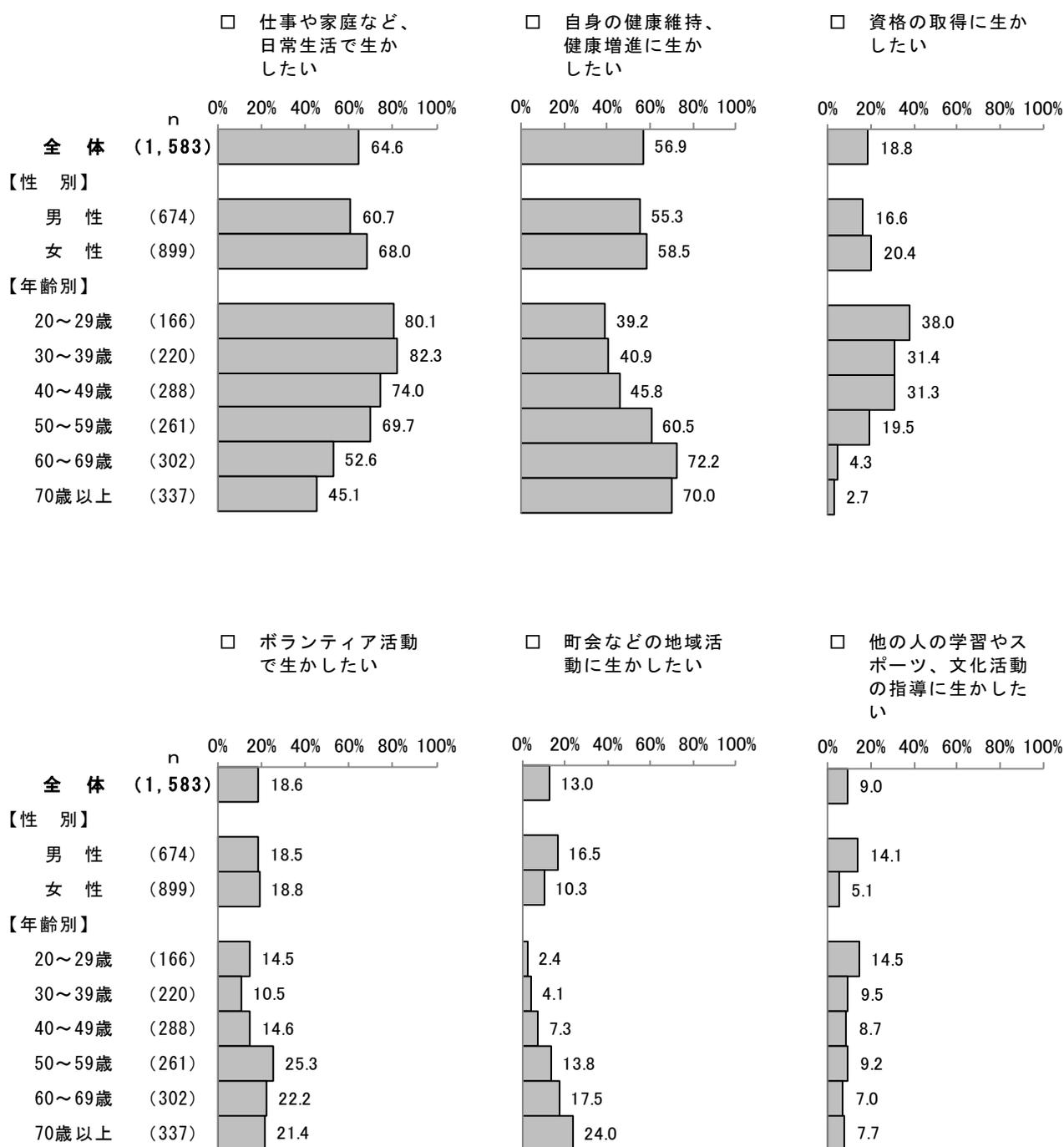
図表3-1 生涯学習活動を通じて身につけた知識や技能、経験の生かし方



性別で見ると、「仕事や家庭など、日常生活で生かしたい」は女性が68.0%と7割近くとなっており、男性（60.7%）を7.3ポイント上回っている。一方、「他の人の学習やスポーツ、文化活動の指導に生かしたい」は男性（14.1%）が女性（5.1%）を9.0ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「仕事や家庭など、日常生活で生かしたい」は20歳代と30歳代では8割を超えている。「自身の健康維持、健康増進に生かしたい」は60歳代で7割強、70歳以上で7割となっている。「資格の取得に生かしたい」は20歳代では4割近くとなっているが、60歳代と70歳以上では1割未満となっており、年代が上がるにしたがって割合は低くなっている。一方、「町会などの地域活動に生かしたい」は年代が上がるにつれて割合も高くなっている。

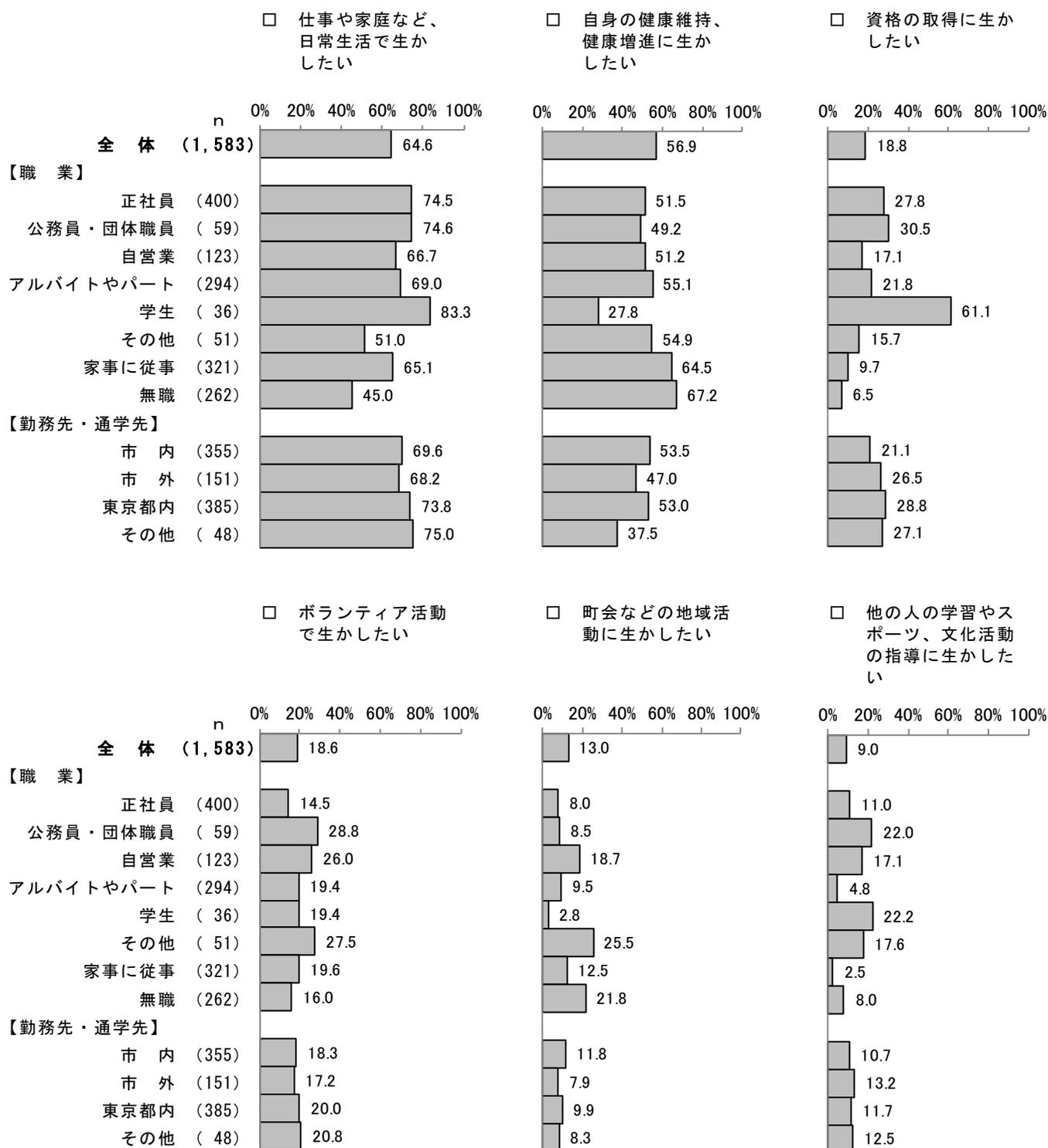
図表3-2 生涯学習活動を通じて身につけた知識や技能、経験の生かし方
(性別 年齢別、上位6項目)



職業別でみると、「仕事や家庭など、日常生活で生かしたい」は学生で8割台半ば近く、正社員と公務員・団体職員は7割台半ば近くとなっている。「自身の健康維持、健康増進に生かしたい」は無職で6割台半ばを超え、家事に従事で6割台半ば近くとなっている。「資格の取得に生かしたい」は学生で6割強となっている。

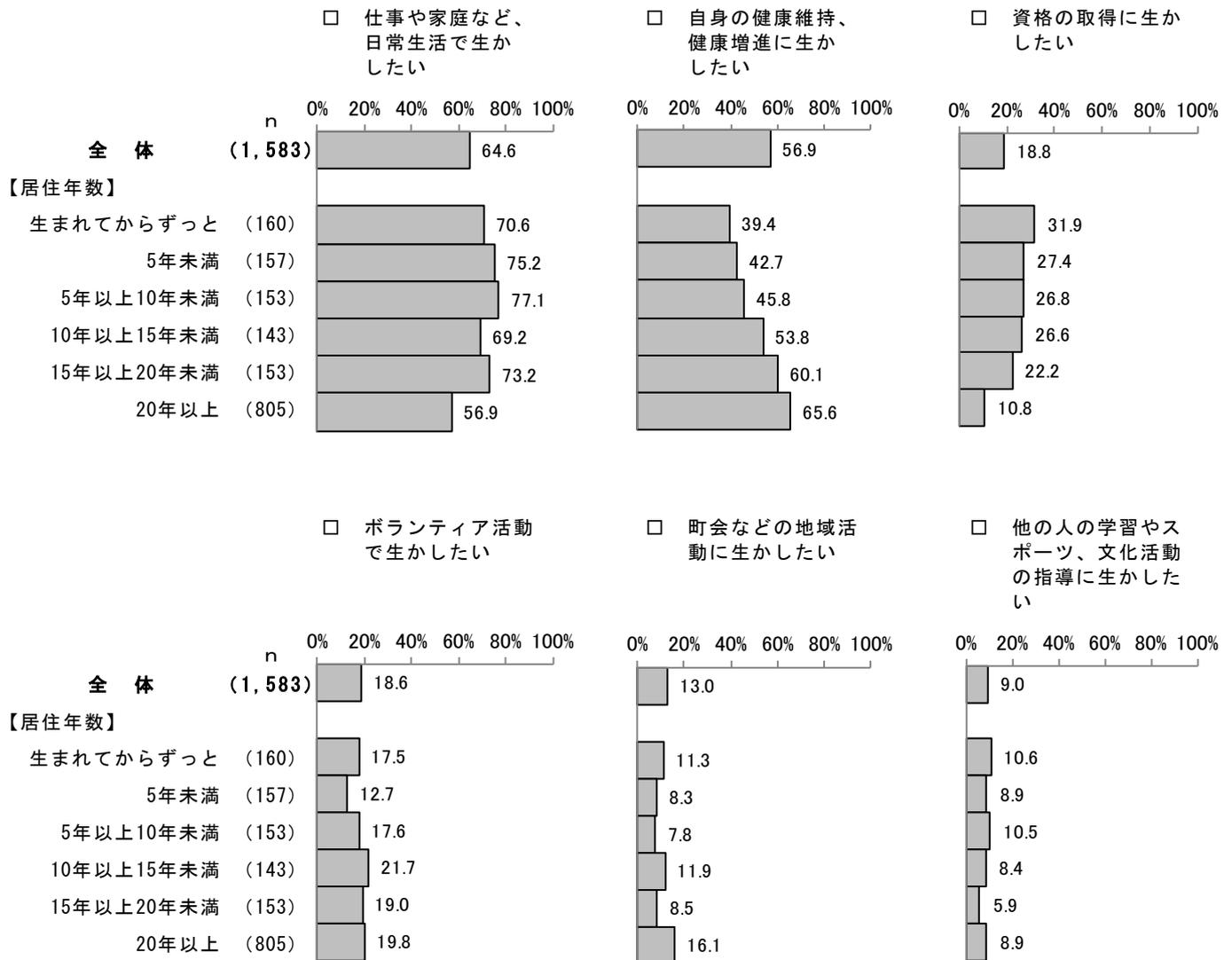
勤務先・通学先別でみると、「仕事や家庭など、日常生活で生かしたい」は東京都内で7割台半ば近くとなっている。「自身の健康維持、健康増進に生かしたい」は市内と東京都内で5割台半ば近くとなっている。

図表3-3 生涯学習活動を通じて身につけた知識や技能、経験の生かし方
(職業別 勤務先・通学先別、上位6項目)



居住年数別でみると、「仕事や家庭など、日常生活で生かしたい」は5年未満と5年以上10年未満で7割台半ばを超えている。「自身の健康維持、健康増進に生かしたい」は20年以上で6割台半ばを超えている。

図表3-4 生涯学習活動を通じて身につけた知識や技能、経験の生かし方
(居住年数別、上位6項目)



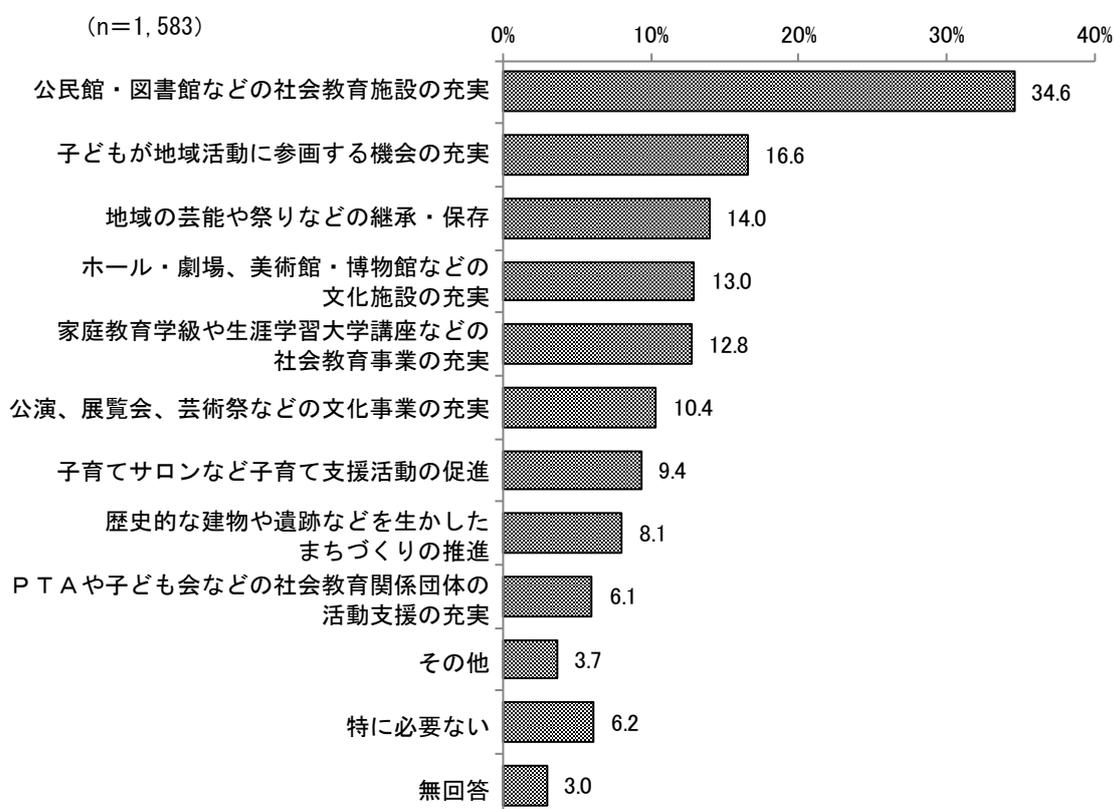
(2) 地域の学習環境を充実させるために必要なこと

◇ 「公民館・図書館などの社会教育施設の充実」が3割台半ば近く

問 10 地域の学習環境を充実させるために何が重要だと思いますか。あてはまる番号に※1つ〇印をつけてください。

地域の学習環境を充実させるために必要なことについては、「公民館・図書館などの社会教育施設の充実」が34.6%と最も多く、次いで「子どもが地域活動に参画する機会の充実」(16.6%)、「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」(14.0%)、「ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実」(13.0%)、「家庭教育学級や生涯学習大学講座などの社会教育事業の充実」(12.8%)となっている。

図表3-5 地域の学習環境を充実させるために必要なこと

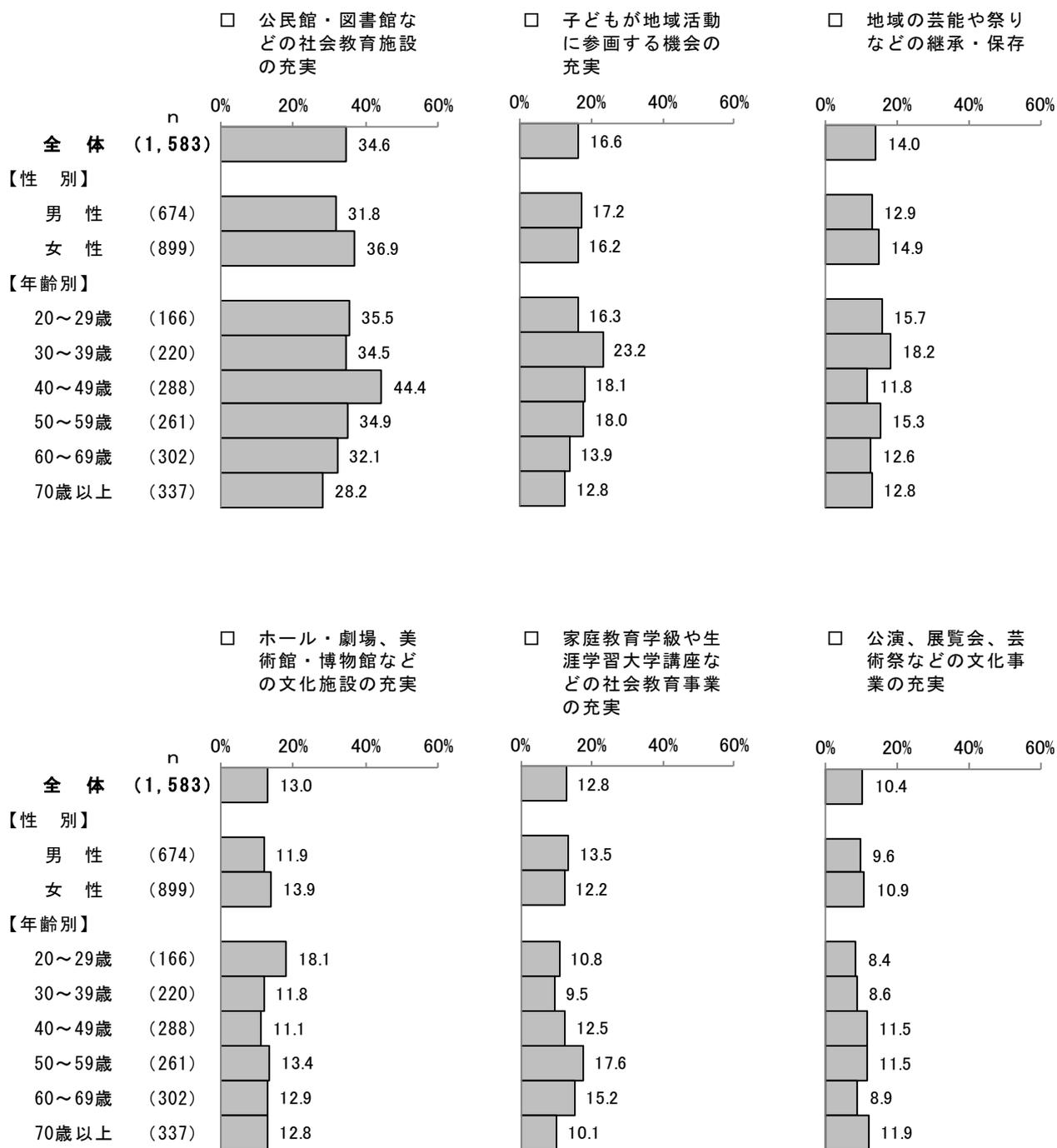


※設問では1つ〇印としましたが、複数回答の方が多く、ニーズ把握のためすべての回答を有効とした結果です。

性別でみると、「公民館・図書館などの社会教育施設の充実」は、女性が36.9%と3割台半ばを超え、男性（31.8%）を5.1ポイント上回っている。

年齢別でみると、「公民館・図書館などの社会教育施設の充実」は40歳代で4割台半ば近くとなっている。「子どもが地域活動に参画する機会の充実」は30歳代で2割半ば近くとなっている。

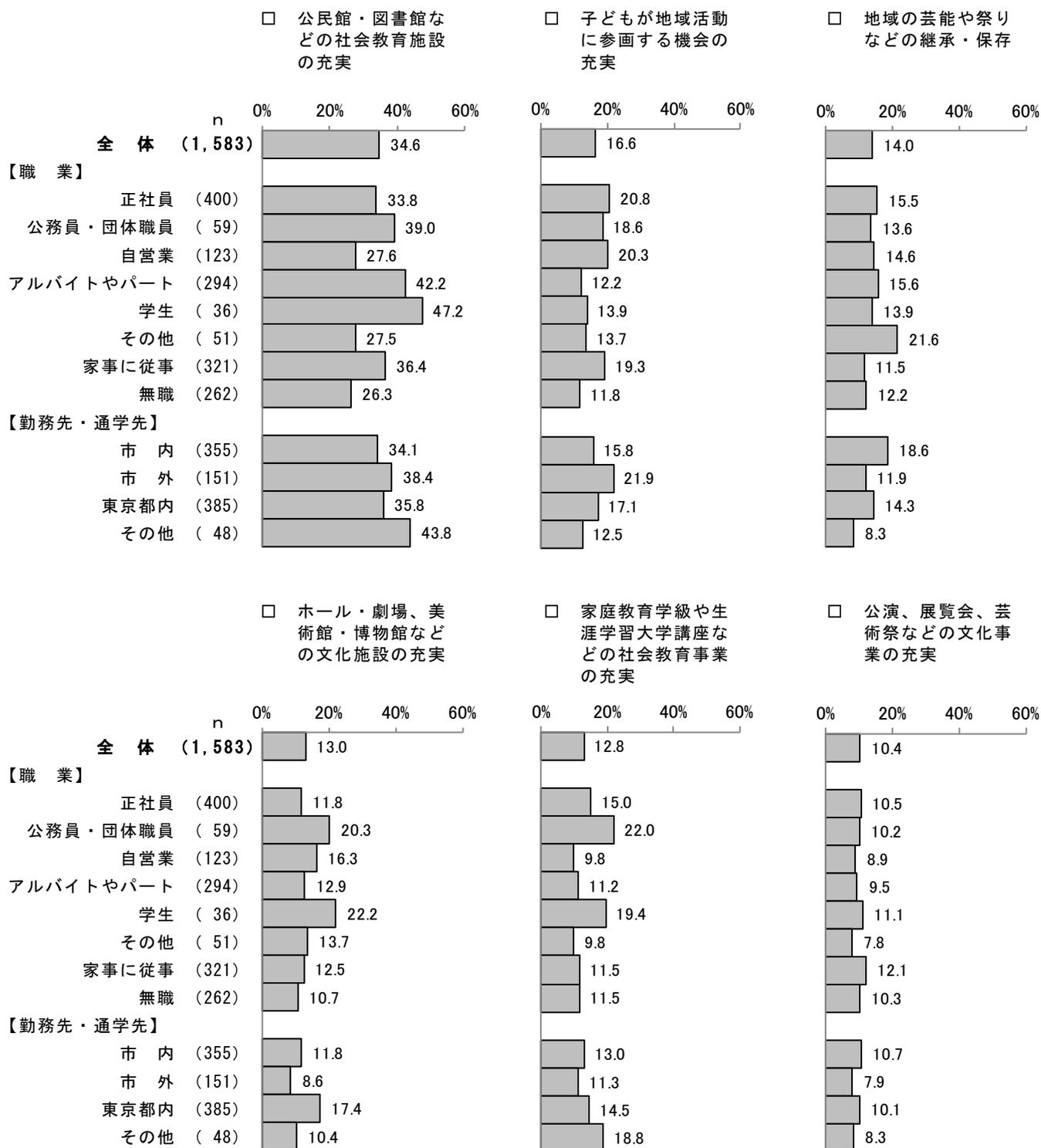
図表3-6 地域の学習環境を充実させるために必要なこと（性別 年齢別、上位6項目）



職業別でみると、「公民館・図書館などの社会教育施設の充実」は学生で4割台半ばを超え、アルバイトやパートでは4割強となっている。

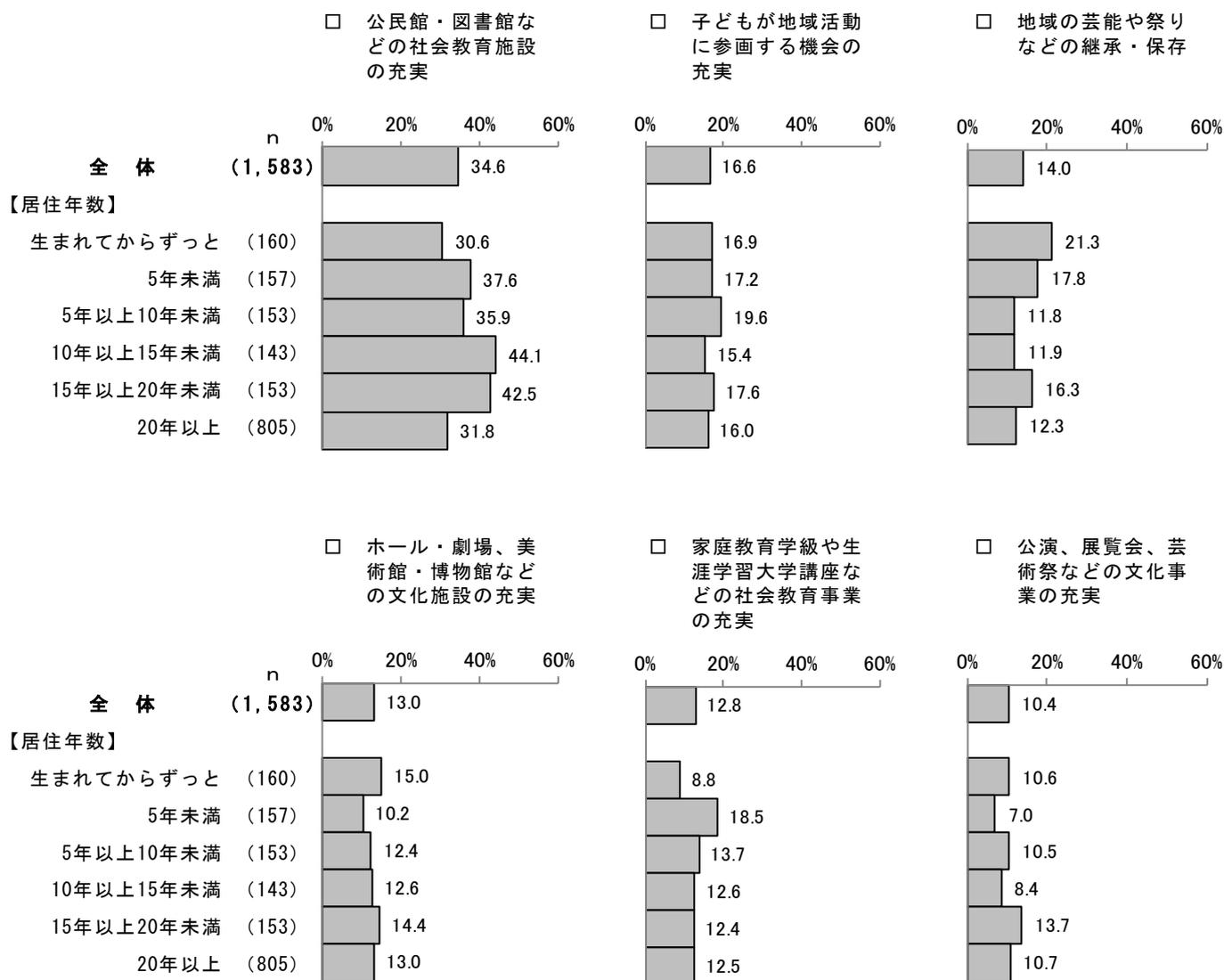
勤務先・通学先別でみると、「公民館・図書館などの社会教育施設の充実」は市外で4割近くとなっている。

図表3-7 地域の学習環境を充実させるために必要なこと
(職業別 勤務先・通学先別、上位6項目)



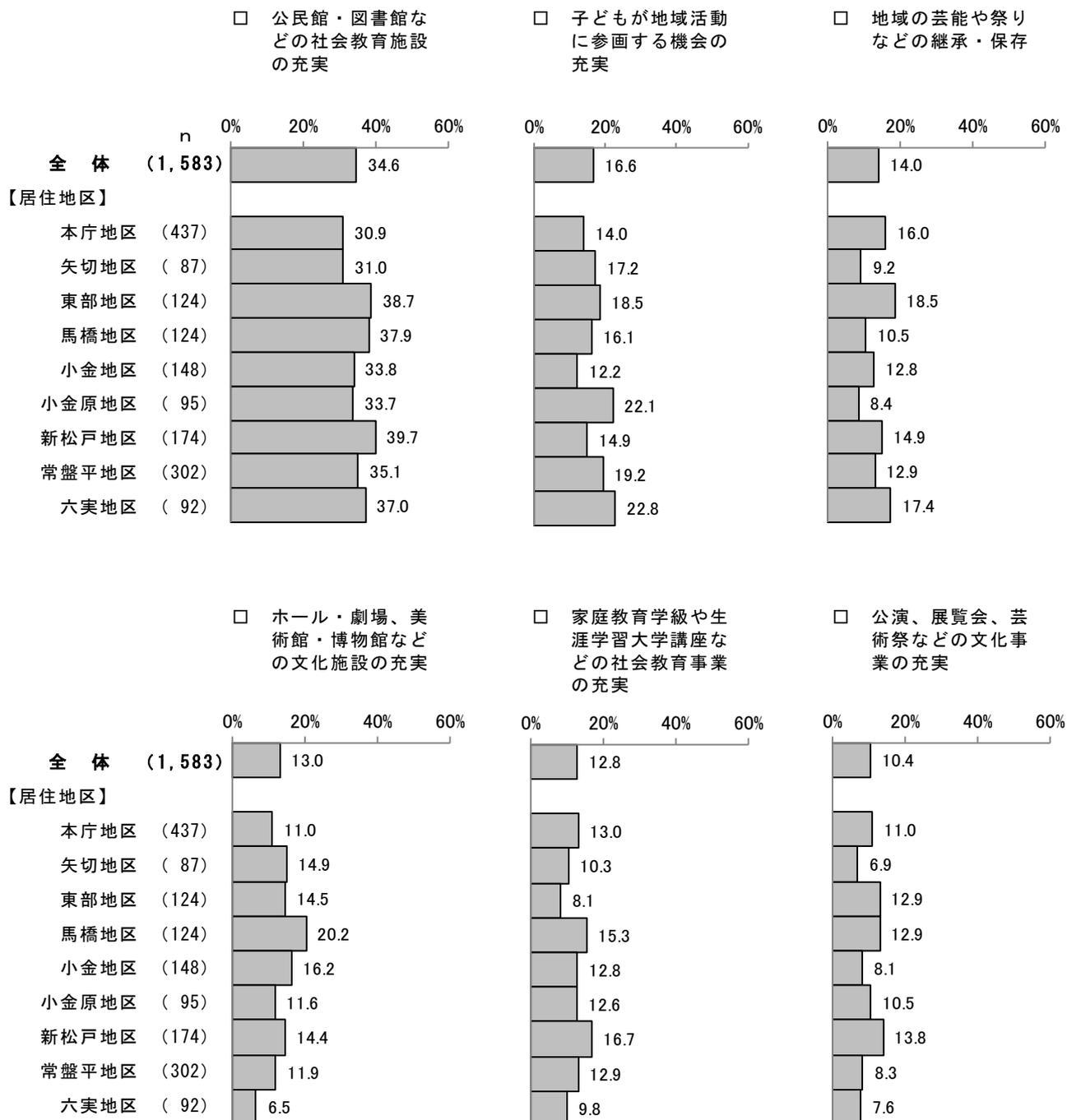
居住年数別でみると、「公民館・図書館などの社会教育施設の充実」は10年以上15年未満で4割台半ば近く、15年以上20年未満で4割強となっている。

図表3-8 地域の学習環境を充実させるために必要なこと
(居住年数別、上位6項目)



居住地区別でみると、「公民館・図書館などの社会教育施設の充実」は、新松戸地区で4割弱、東部地区で4割近くとなっている。「子どもが地域活動に参画する機会の充実」は小金原地区と六実地区で2割を超えている。「ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実」は馬橋地区で2割強となっている。

図表3-9 地域の学習環境を充実させるために必要なこと（居住地区別、上位6項目）



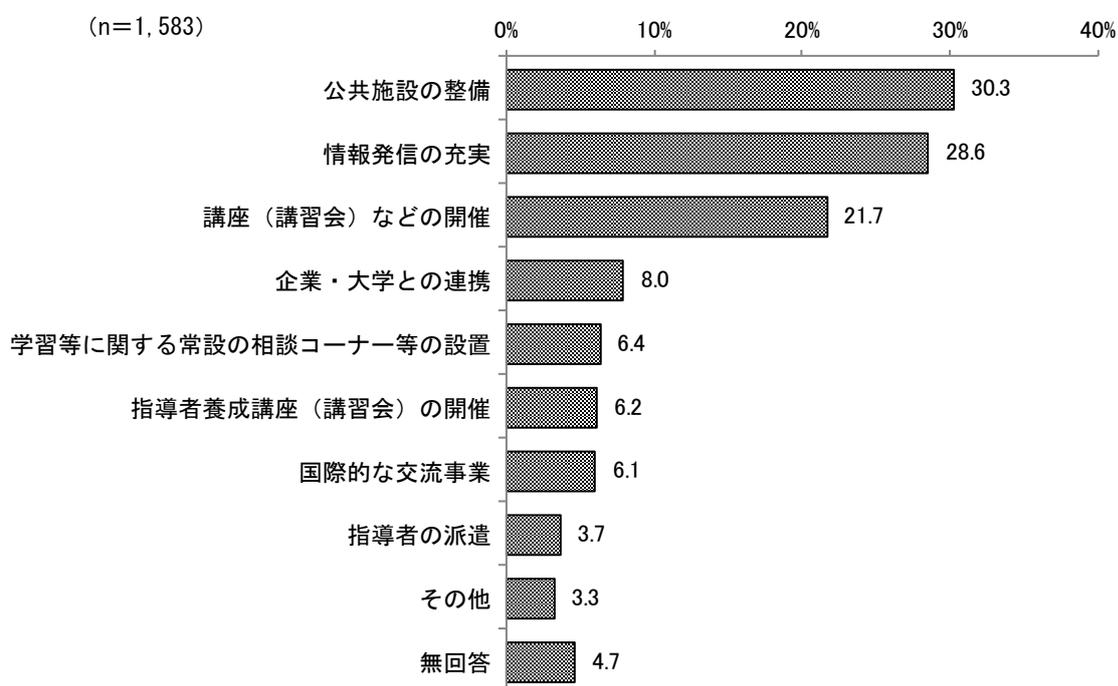
(3) 生涯学習事業について、市に力を入れてほしいこと

◇ 「公共施設の整備」が約3割、「情報発信の充実」が3割弱

問 11 今後、松戸市の生涯学習事業について、市はどのような点に力を入れると良いと思いますか。
あてはまる番号に 1つ〇印 をつけてください。

地域の学習環境を充実させるために必要だと思うことについては、「公共施設の整備」が30.3%と最も多く、次いで「情報発信の充実」(28.6%)、「講座(講習会)などの開催」(21.7%)となっており、上位3項目以外は1割未満となっている。

図表3-10 生涯学習事業について、市に力を入れてほしいこと

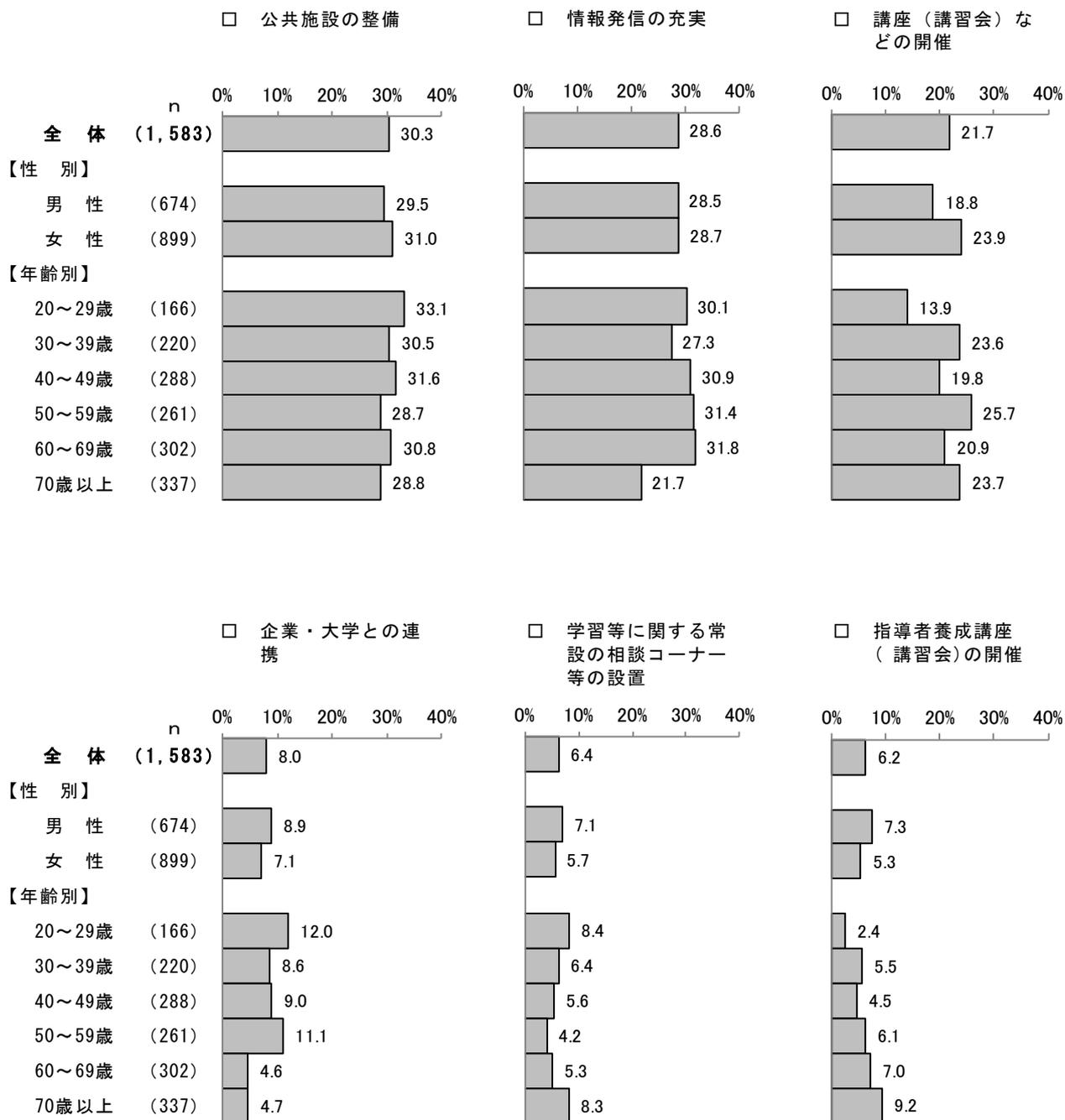


※設問では 1つ〇印 としましたが、複数回答の方が多く、ニーズ把握のためすべての回答を有効とした結果です。

性別でみると、「公共施設の整備」と「情報発信の充実」は男女ともに3割前後となっている。「講座（講習会）などの開催」は女性（23.9%）が男性（18.8%）を5.1ポイント上回っている。

年齢別でみると、「公共施設の整備」は20歳代で3割台半ば近くとなっている。「情報発信の充実」は70歳以上を除くすべての年代で2割台半ばを超えている。

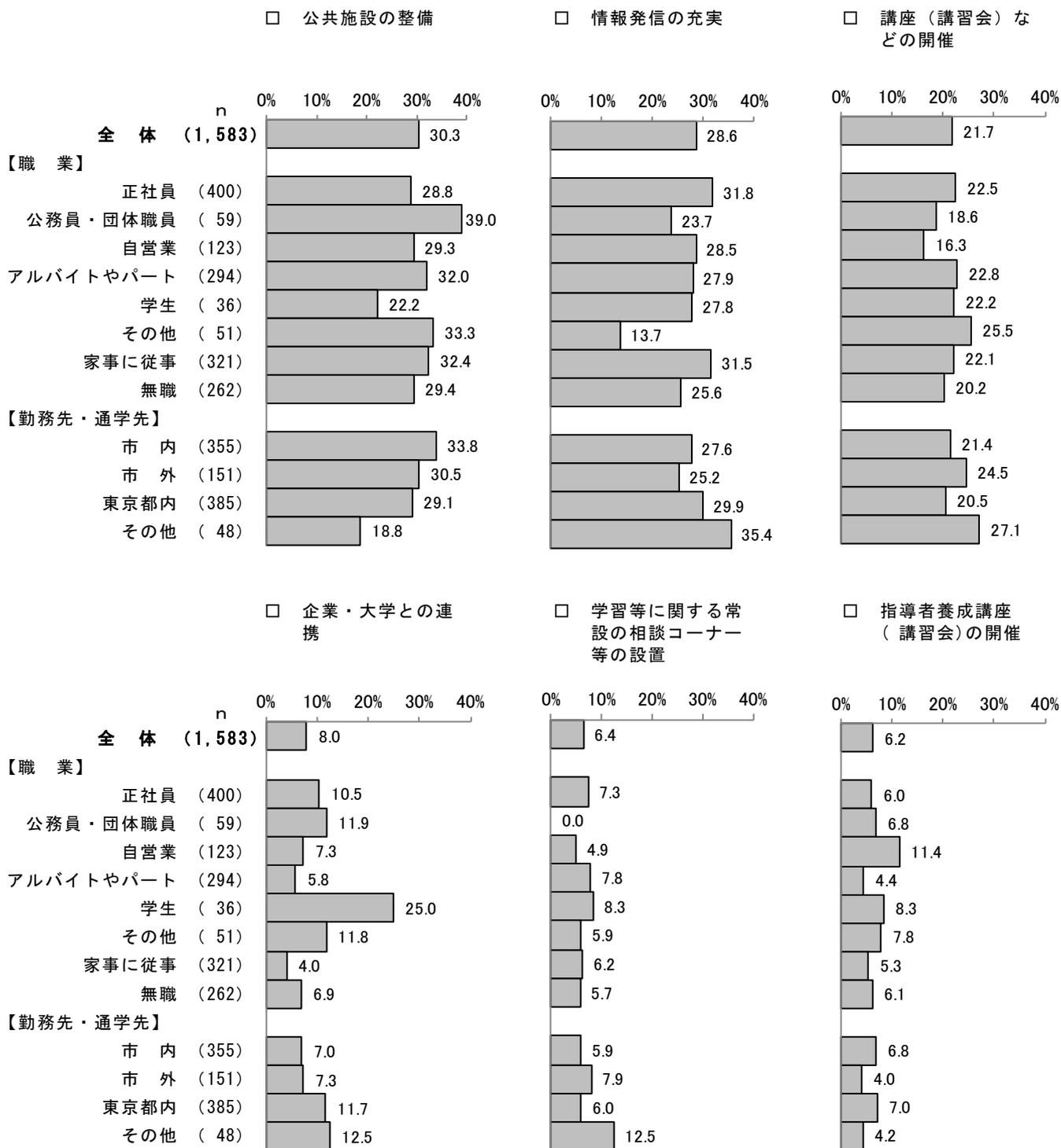
図表3-11 生涯学習事業について、市に力を入れてほしいこと（性別 年齢別）



職業別でみると、「公共施設の整備」は公務員・団体職員は4割弱となっている。「情報発信の充実」は正社員と家事に従事で3割強となっている。「企業・大学との連携」は学生で2割台半ばとなっている。

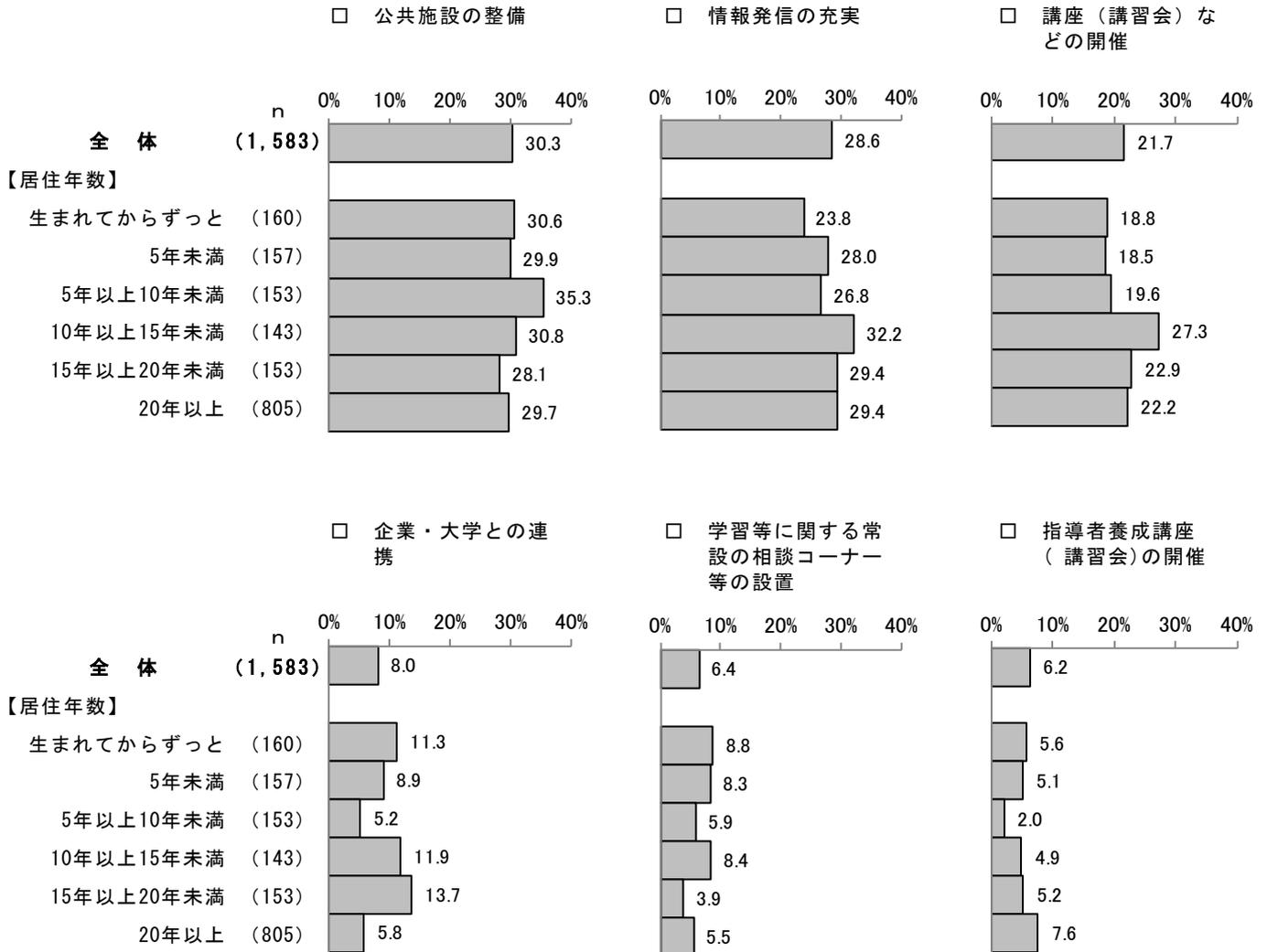
勤務先・通学先別でみると、「公共施設の整備」は市内で3割台半ば近く、市外で約3割となっている。「情報発信の充実」は東京都内で3割弱となっている。

図表3-12 生涯学習事業について、市に力を入れてほしいこと（職業別 勤務先・通学先別）



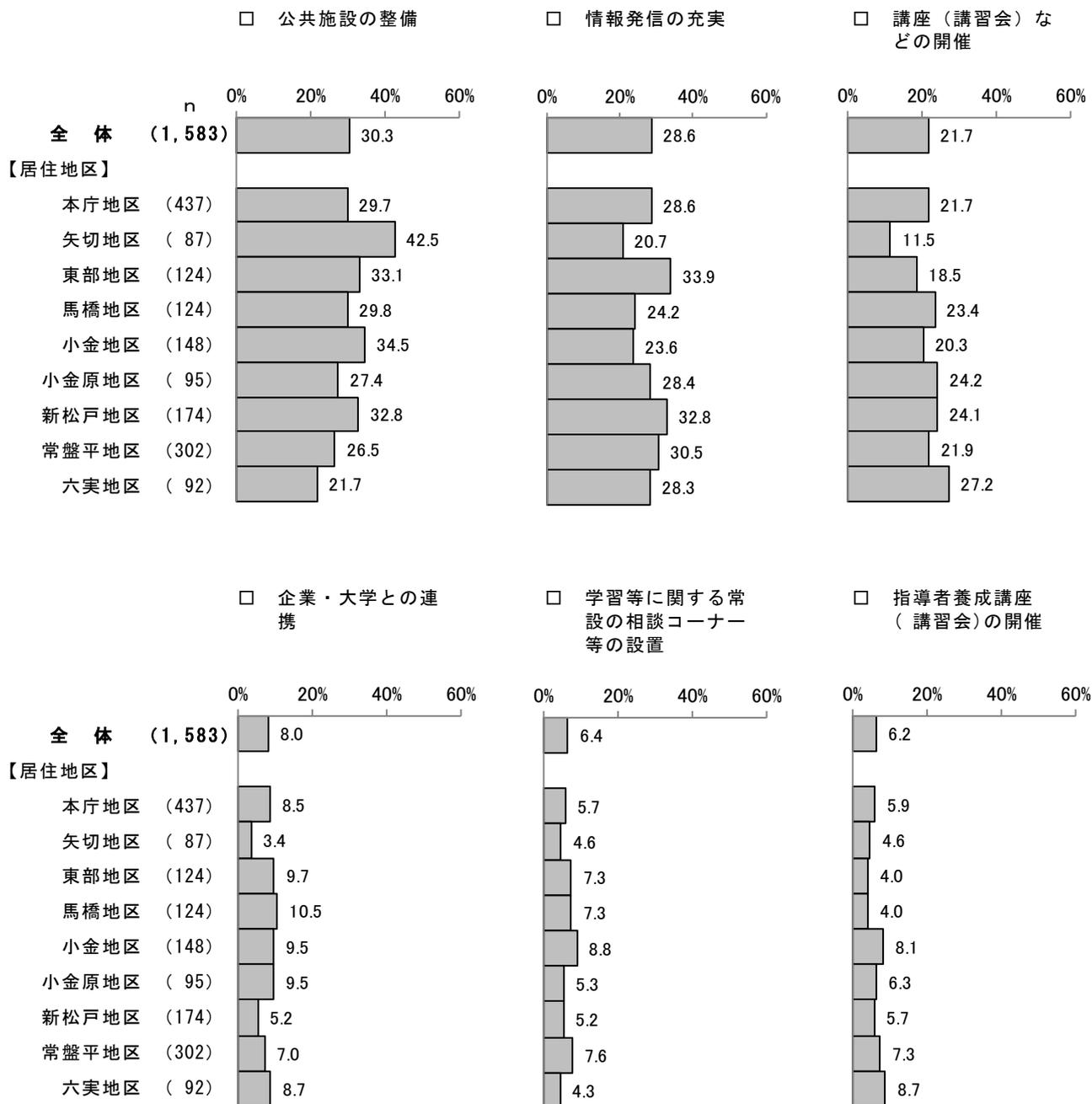
居住年数別でみると、「公共の施設の整備」は5年以上10年未満で3割台半ばとなっている。「情報発信の充実」は10年以上15年未満で3割強となっており、「講座（講習会）などの開催」でも10年以上15年未満で2割台半ばとなっている。

図表3-13 生涯学習事業について、市に力を入れてほしいこと（居住年数別）



居住地区別でみると、「公共施設の整備」は矢切地区で4割強となっている。「情報発信の充実」は東部地区で3割台半ばを超え、新松戸地区で3割強となっている。「講座（講習会）などの開催」は六実地区で2割台半ばを超えている。

図表3-14 生涯学習事業について、市に力を入れてほしいこと（居住地区別）



4. 地域の子どもたち（青少年）に対する考えについて

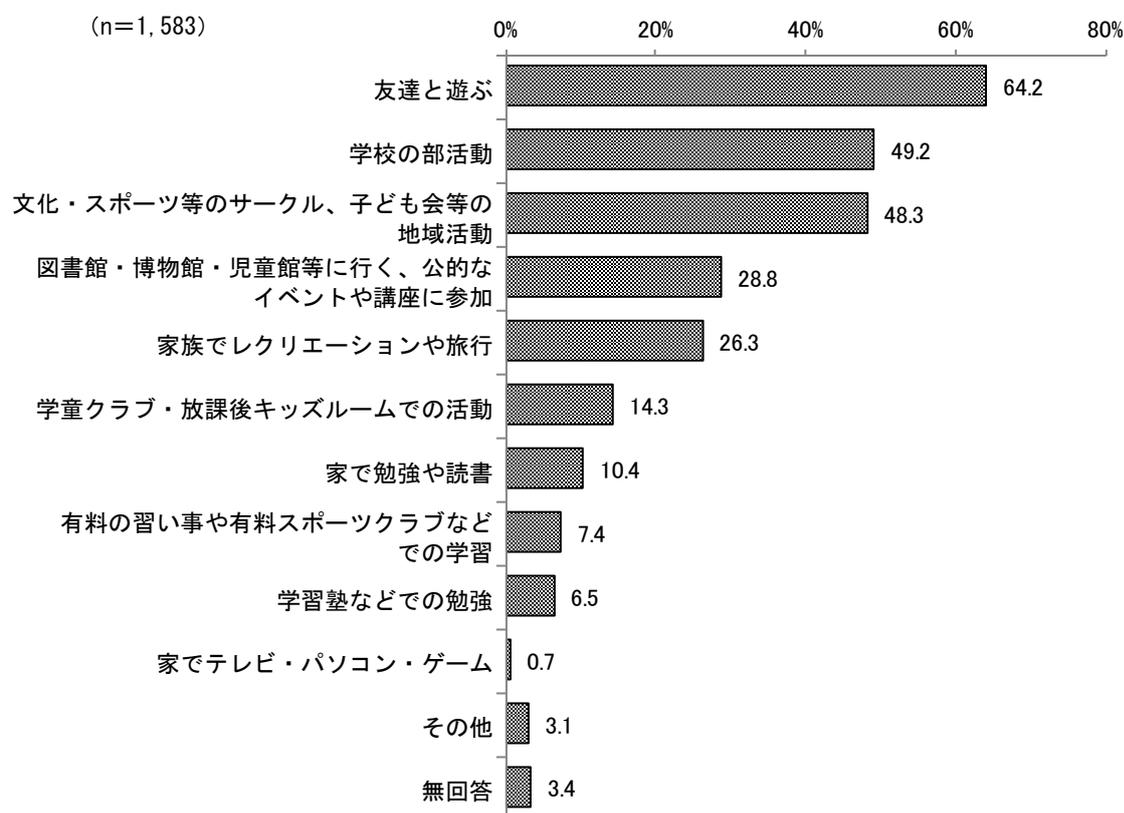
（1）地域の子どもたちに望む放課後や休日の過ごし方

◇ 「友達と遊ぶ」が6割台半ば近く

問 12 あなたは、地域の子どもたちに、放課後や休日をどのように過ごしてほしいと思いますか。
あてはまる番号に3つまで〇印をつけてください。

地域の子どもたちに望む放課後や休日の過ごし方については、「友達と遊ぶ」が64.2%と最も多く、次いで「学校の部活動」(49.2%)、「文化・スポーツ等のサークル、子ども会等の地域活動」(48.3%)、「図書館・博物館・児童館等に行く、公的なイベントや講座に参加」(28.8%)、「家族でレクリエーションや旅行」(26.3%)となっている。

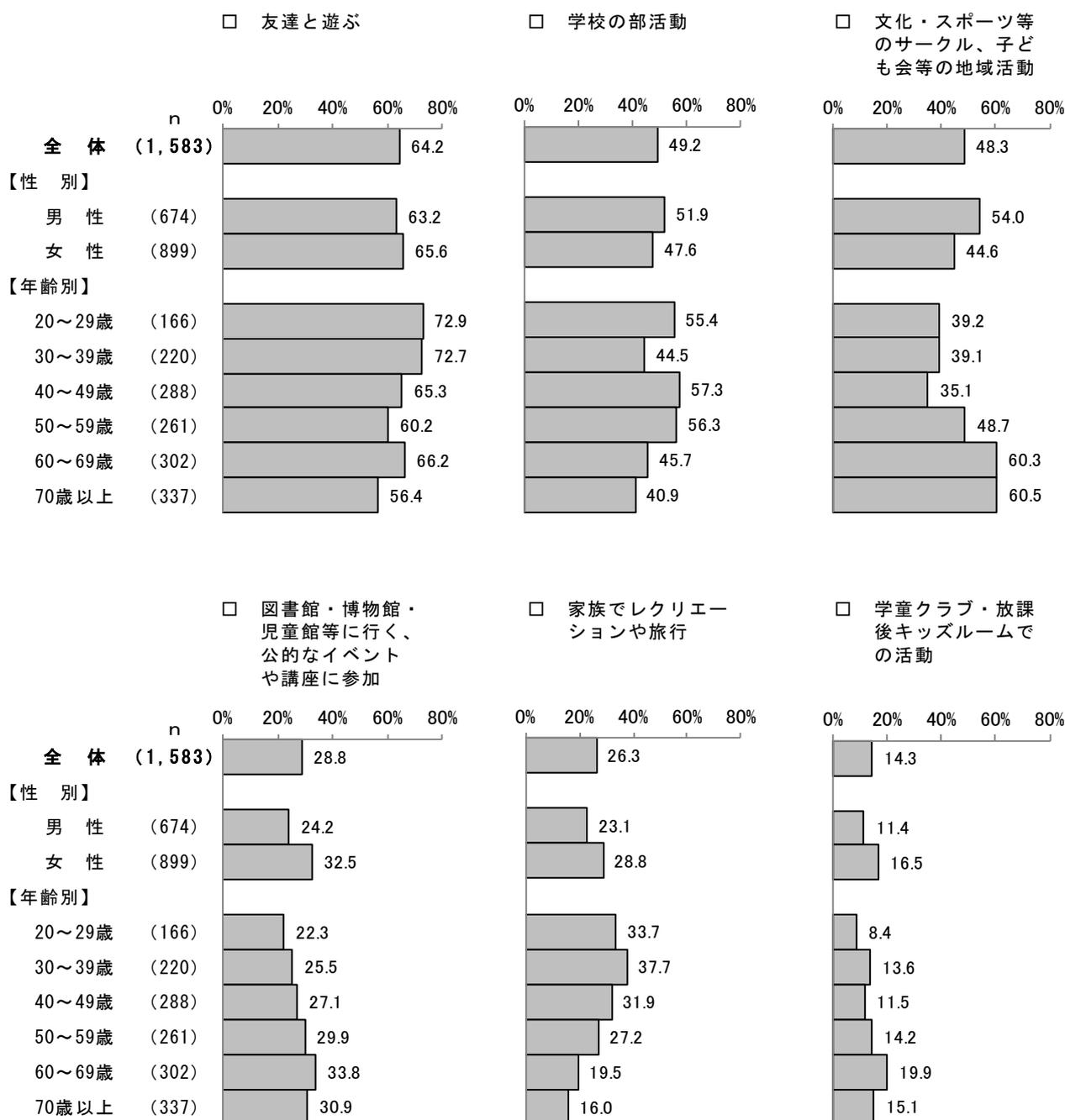
図表4-1 地域の子どもたちに望む放課後や休日の過ごし方



性別で見ると、「友達と遊ぶ」は男女ともに6割を超えている。「文化・スポーツ等のサークル、子ども会等の地域活動」は男性(54.0%)が女性(44.6%)を9.4ポイント上回っている。一方、「図書館・博物館・児童館等に行く、公的なイベントや講座に参加」は女性(32.5%)が男性(24.2%)を8.3ポイント上回っている。

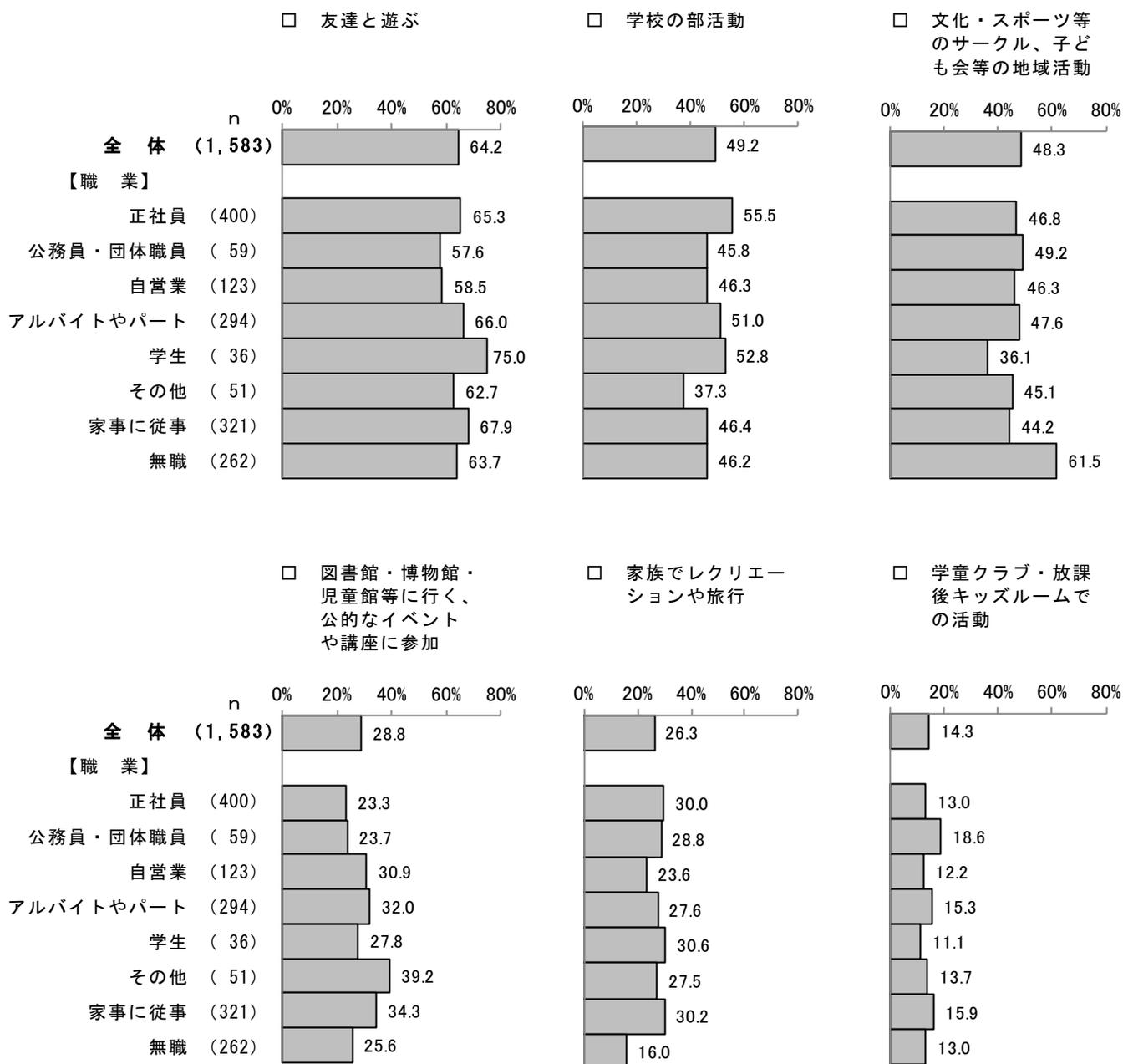
年齢別で見ると、「友達と遊ぶ」は20歳代と30歳代では7割強となっている。「文化・スポーツ等のサークル、子ども会等の地域活動」は60歳代と70歳以上では約6割となっている。「家族でレクリエーションや旅行」は30歳代では3割台半ばを超えている。

図表4-2 地域の子どもたちに望む放課後や休日の過ごし方(性別 年齢別、上位6項目)



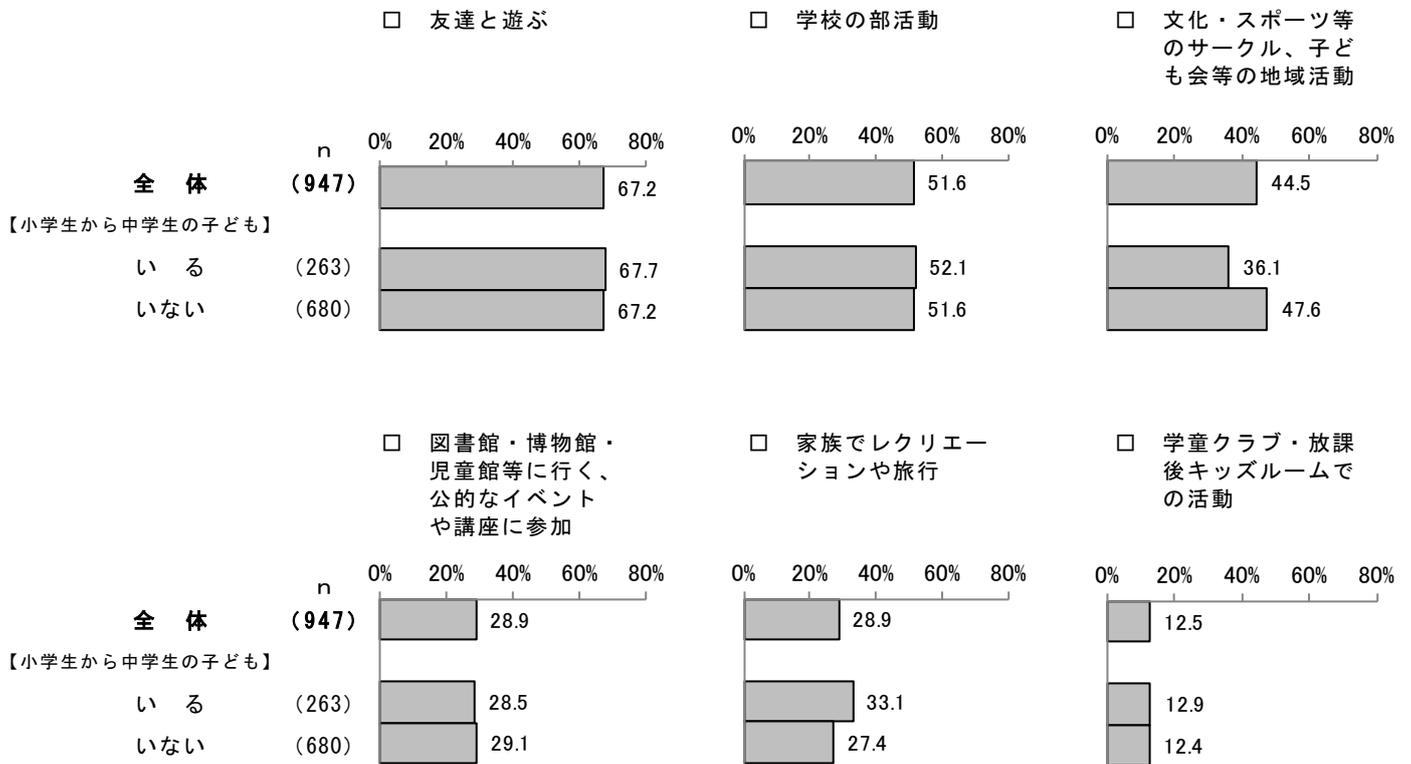
職業別でみると、「友達と遊ぶ」は学生で7割台半ばとなっている。「学校の部活動」は正社員で5割台半ば、学生で5割台半ば近くとなっている。「文化・スポーツ等のサークル、子ども会等の地域活動」は無職で6割強となっている。

図表4-3 地域の子どもたちに望む放課後や休日の過ごし方（職業別、上位6項目）



小学生から中学生の子どもの有無別でみると、「文化・スポーツ等のサークル、子ども会等の地域活動」は「いない」(47.6%)が「いる」(36.1%)を11.5ポイント上回っている。一方、「家族でレクリエーションや旅行」は「いる」(33.1%)が「いない」(27.4%)を5.7ポイント上回っている。

図表4-4 地域の子どもたちに望む放課後や休日の過ごし方
(小学生から中学生の子どもの有無別、上位6項目)



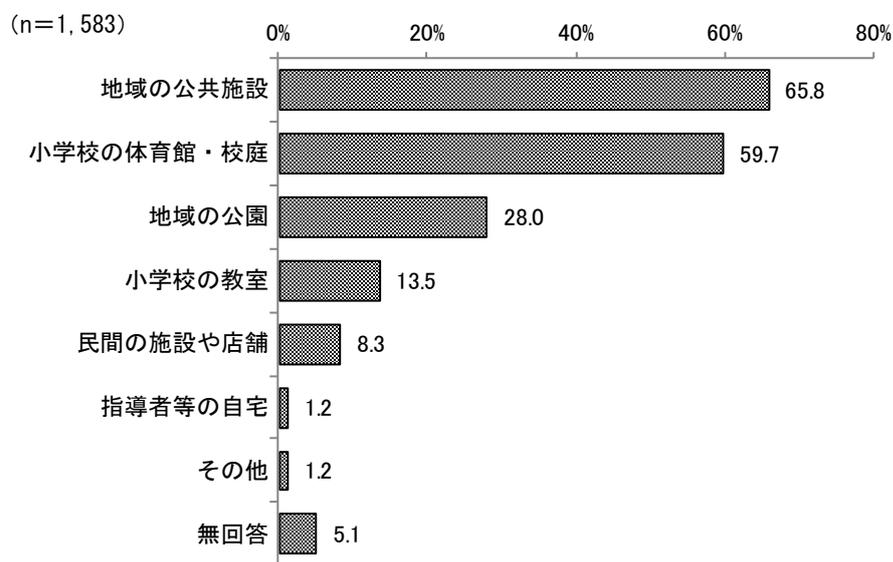
(2) 放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動をするのにふさわしい場所

◇ 「地域の公共施設」が6割台半ば、「小学校の体育館・校庭」が6割弱

問 13 放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動(文化・スポーツ・レクリエーション等)をするにはどの場所がふさわしいと思いますか。あてはまる番号に 2つまで〇印 をつけてください。

放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動をするのにふさわしい場所については、「地域の公共施設」が65.8%と最も多く、次いで「小学校の体育館・校庭」(59.7%)、「地域の公園」(28.0%)となっている。

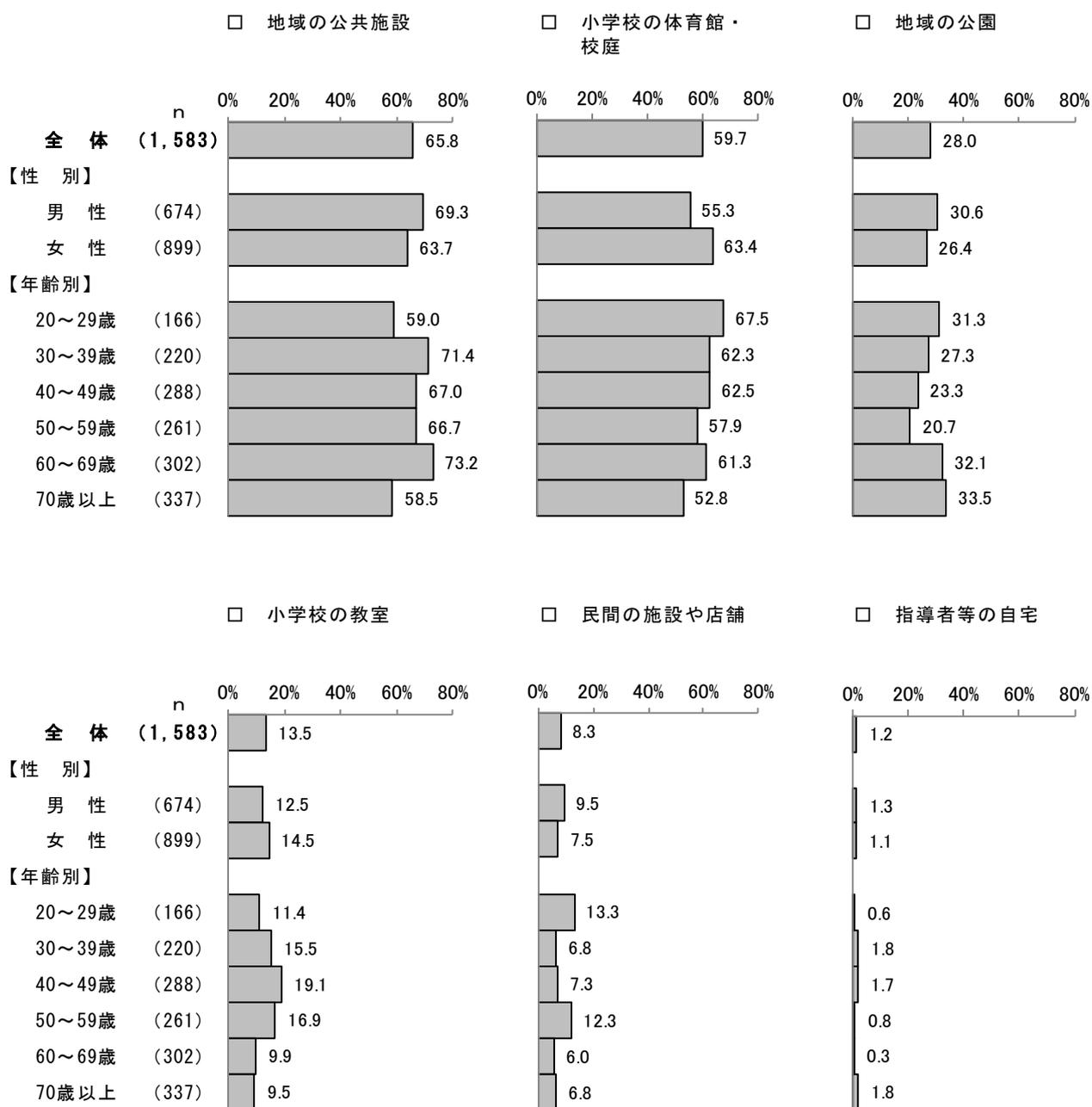
図表 4-5 放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動をするのにふさわしい場所



性別で見ると、「地域の公共施設」は男性（69.3%）が女性（63.7%）を5.6ポイント上回っている。また「地域の公園」も男性（30.6%）が女性（26.4%）を4.2ポイント上回っている。一方、「小学校の体育館・校庭」は女性（63.4%）が男性（55.3%）を8.1ポイント上回っている。

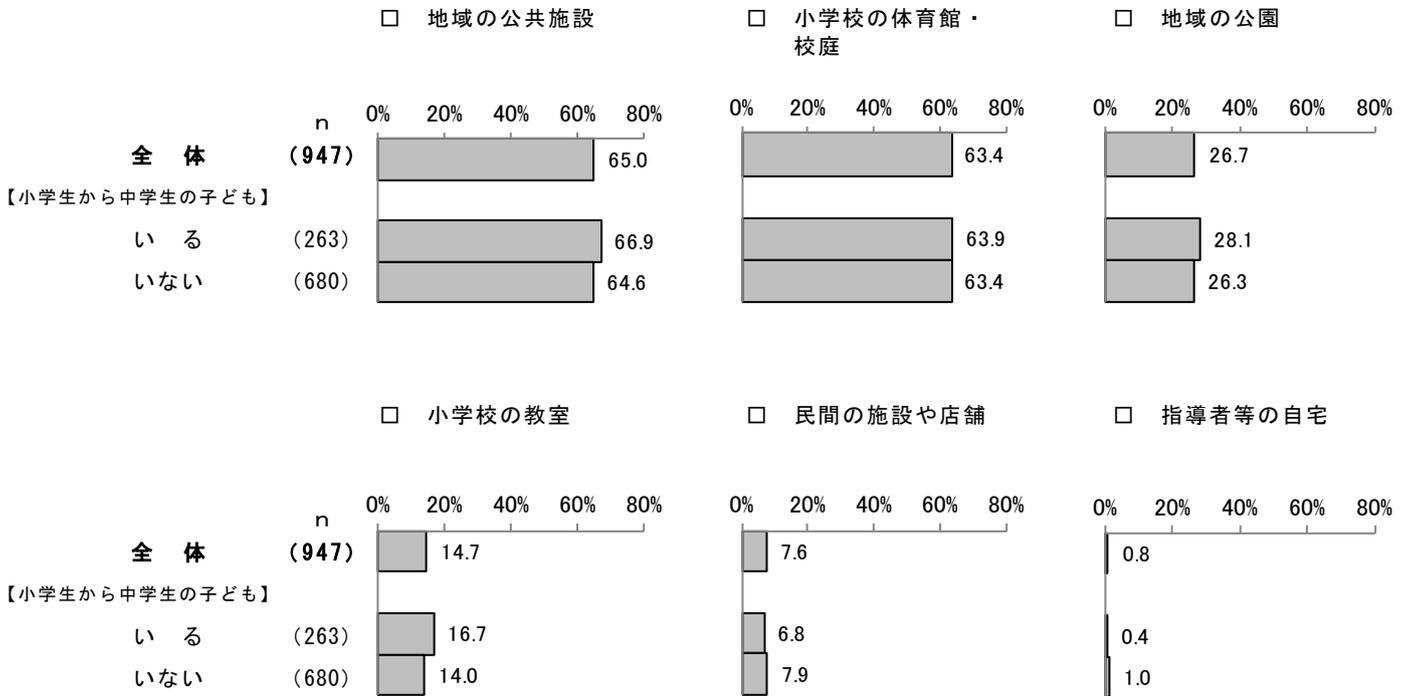
年齢別で見ると、「地域の公共施設」は60歳代で7割台半ば近く、30歳代で7割強となっている。「小学校の体育館・校庭」は20歳代で6割台半ばを超えている。

図表4-6 放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動をするのにふさわしい場所
(性別 年齢別、上位6項目)



小学生から中学生の子どもの有無別でみると、大きな違いはみられない。

図表 4-7 放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動をするのにふさわしい場所
(小学生から中学生の子どもの有無別、上位6項目)



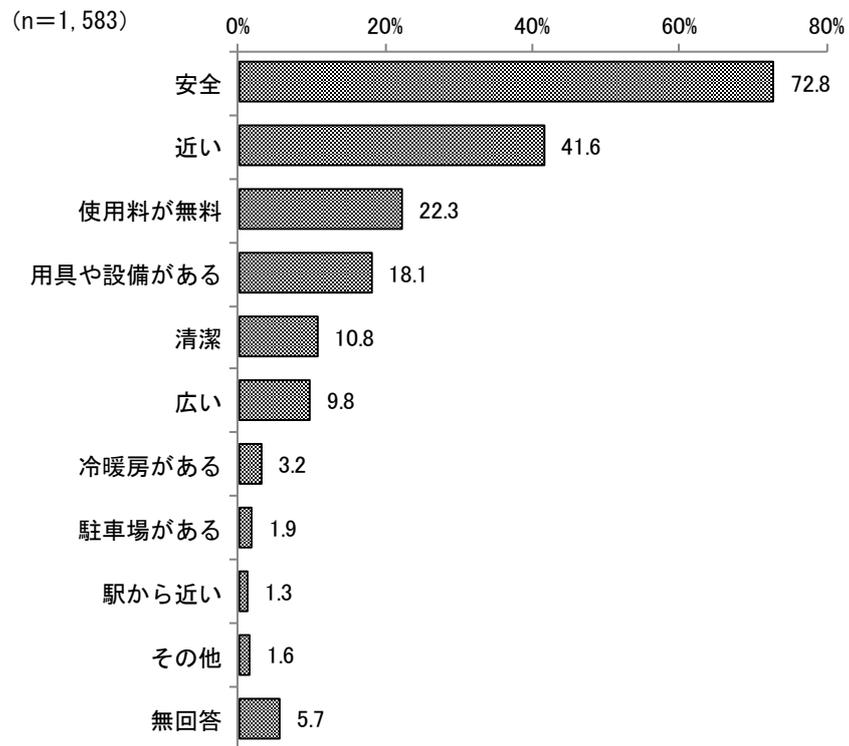
(3) 子どもの活動場所に求めること

◇ 「安全」が7割強

問 14 問 13 の子どもの活動場所に求めることは何ですか？あてはまる番号に 2つまで〇印 をつけてください。

子どもの活動場所に求めることについては、「安全」が72.8%と最も多く、次いで「近い」(41.6%)、「使用料が無料」(22.3%)、「用具や設備がある」(18.1%)となっている。

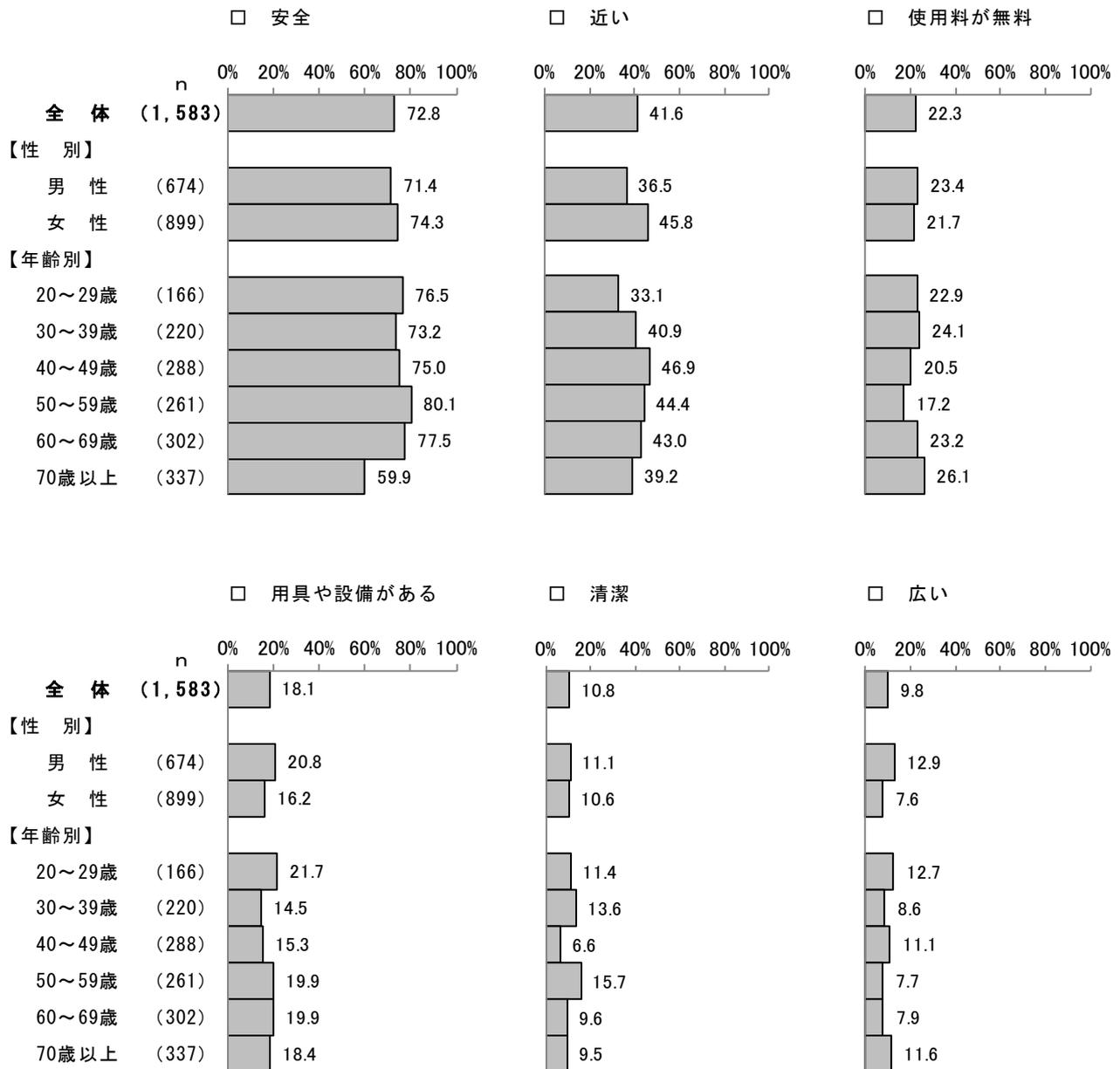
図表 4-8 子どもの活動場所に求めること



性別でみると、「安全」は男女ともに7割を超えている。「近い」は女性(45.8%)が男性(36.5%)を9.3ポイント上回っている。

年齢別でみると、「安全」は70歳以上を除く年代では7割を超え、特に50歳代では約8割となっている。「近い」は40歳代で4割台半ばを超え、50歳代と60歳代では4割台半ば近くとなっている。

図表4-9 子どもの活動場所に求めること(性別 年齢別、上位6項目)



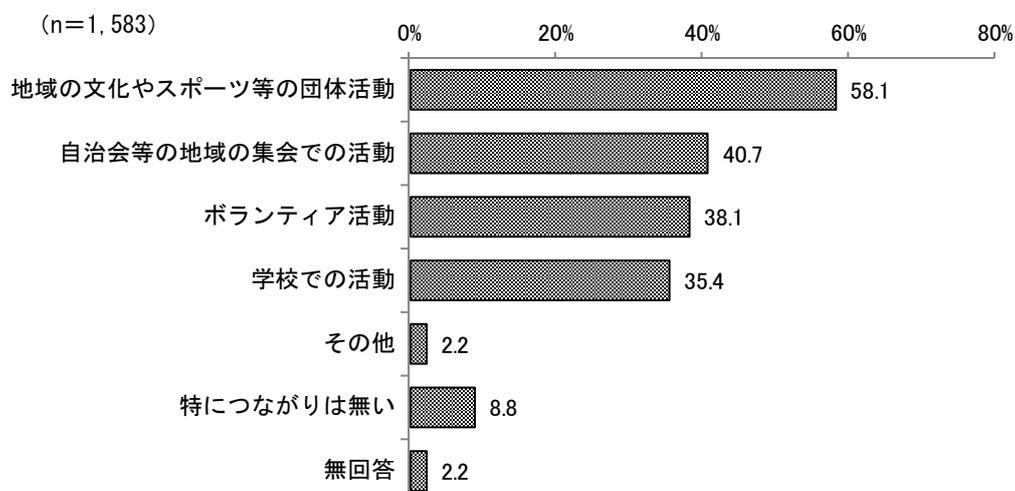
(4) 地域の住民と小中学生とがつながる機会

◇ 「地域の文化やスポーツ等の団体活動」が6割近く

問 15 あなたは、地域の住民と小中学生とが、つながる機会にはどのようなものがあると思いますか。あてはまる番号に いくつでも○印 をつけてください。

地域の住民と小中学生とがつながる機会については、「地域の文化やスポーツ等の団体活動」は58.1%と最も多く、次いで「自治会等の地域の集会での活動」(40.7%)、「ボランティア活動」(38.1%)、「学校での活動」(35.4%)となっている。また「特につながりはない」は1割未満となっている。

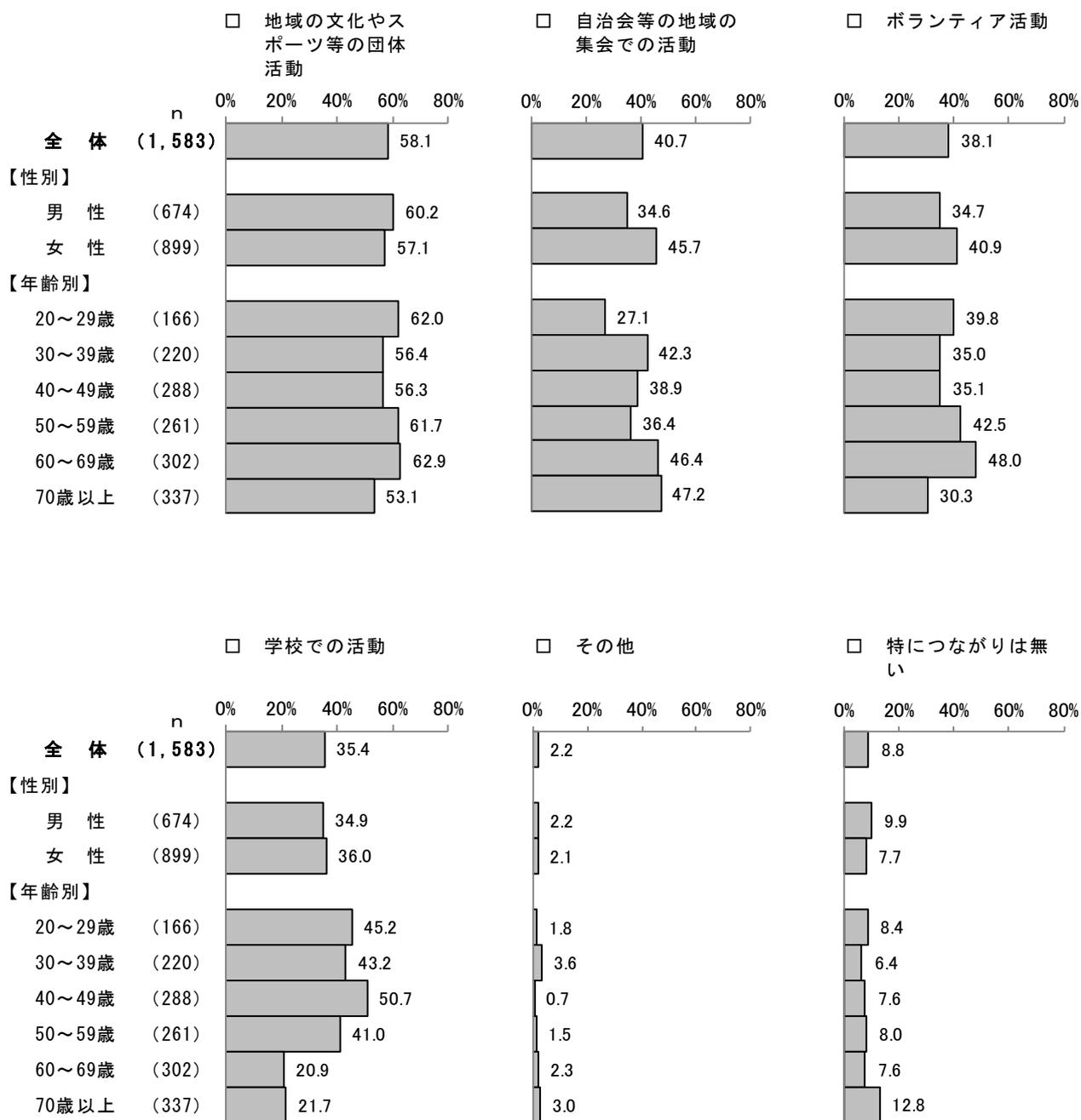
図表4-10 地域の住民と小中学生とがつながる機会



性別でみると、「地域の文化やスポーツ等の団体活動」は男性（60.2%）が女性（57.1%）を3.1ポイント上回っている。一方、「自治会等の地域の集会での活動」は女性（45.7%）が男性（34.6%）を11.1ポイント上回っている。また「ボランティア活動」も女性（40.9%）が男性（34.7%）を6.2ポイント上回っている。

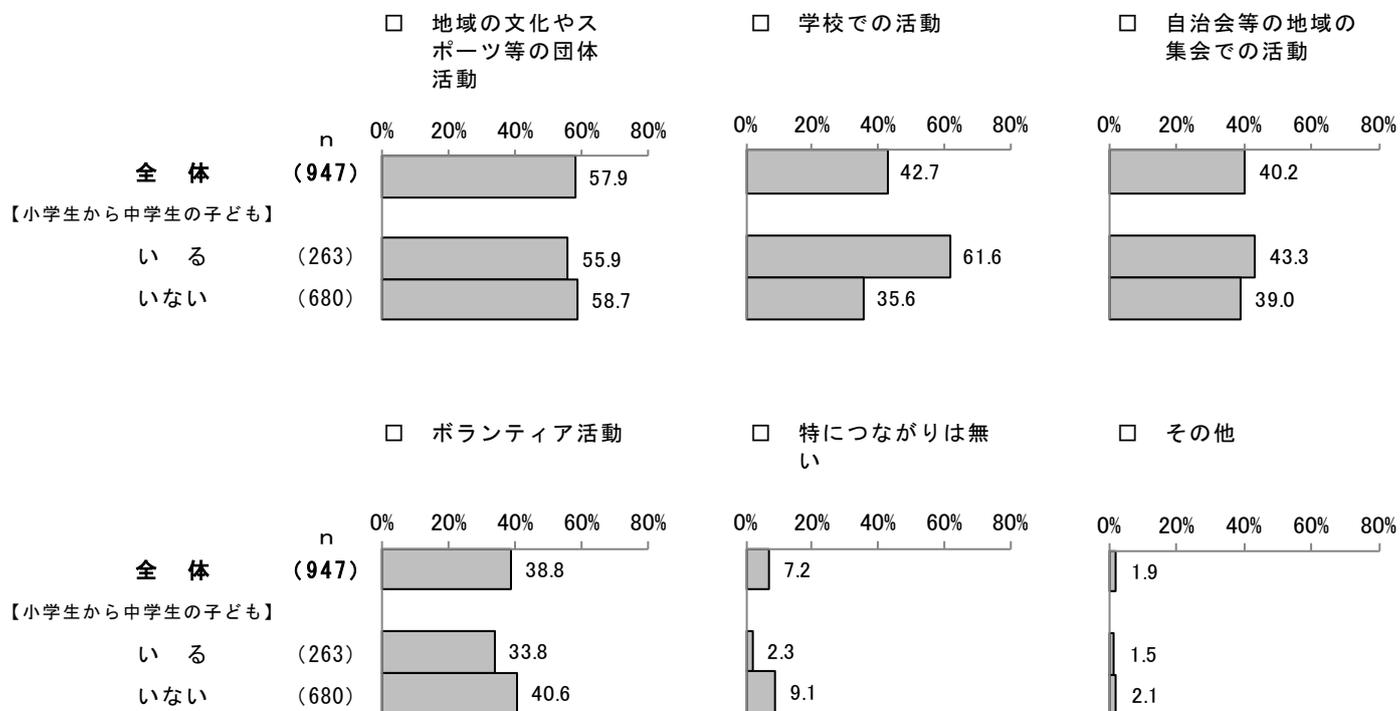
年齢別でみると、「地域の文化やスポーツ等の団体活動」は70歳以上を除く年代で5割台半ばを超えている。「自治会等の地域の集会での活動」は20歳代を除く年代で3割台半ばを超え、特に60歳代と70歳以上で4割台半ばを超えている。「ボランティア活動」は60歳代で5割近くとなっている。「学校での活動」は40歳代で約5割となっている。

図表4-11 地域の住民と小中学生とがつながる機会（性別 年齢別）



小学生から中学生の子どもの有無別でみると、「学校での活動」はいる(61.6%)がいない(35.6%)よりも26.0ポイント上回っている。一方、「ボランティア活動」はいない(40.6%)がいる(33.8%)よりも6.8ポイント上回っている。

図表4-12 地域の住民と小中学生とがつながる機会（小学生から中学生の子どもの有無別）



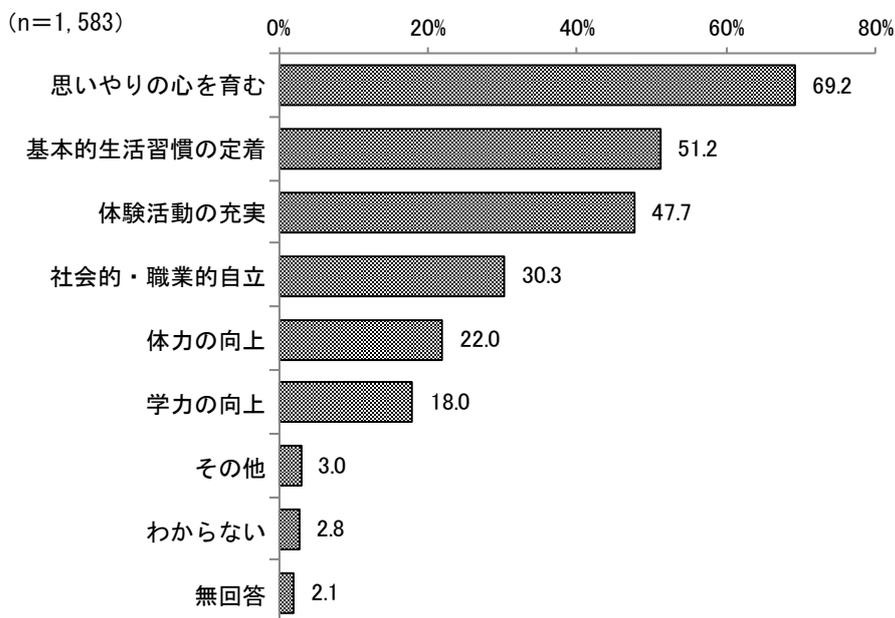
(5) 地域、学校、家庭が連携して小中学生の学びを支援することで期待できる効果

◇ 「思いやりの心を育む」が7割弱

問 16 地域、学校、家庭が連携して小中学生の学びを支援することで、小中学生にとって、もっとも期待できる効果とはどのようなことでしょうか。あてはまる番号に いくつでも○印 をつけてください。

地域、学校、家庭が連携して小中学生の学びを支援することで期待できる効果については、「思いやりの心を育む」が69.2%と最も多く、次いで「基本的生活習慣の定着」(51.2%)、「体験活動の充実」(47.7%)、「社会的・職業的自立」(30.3%)となっている。

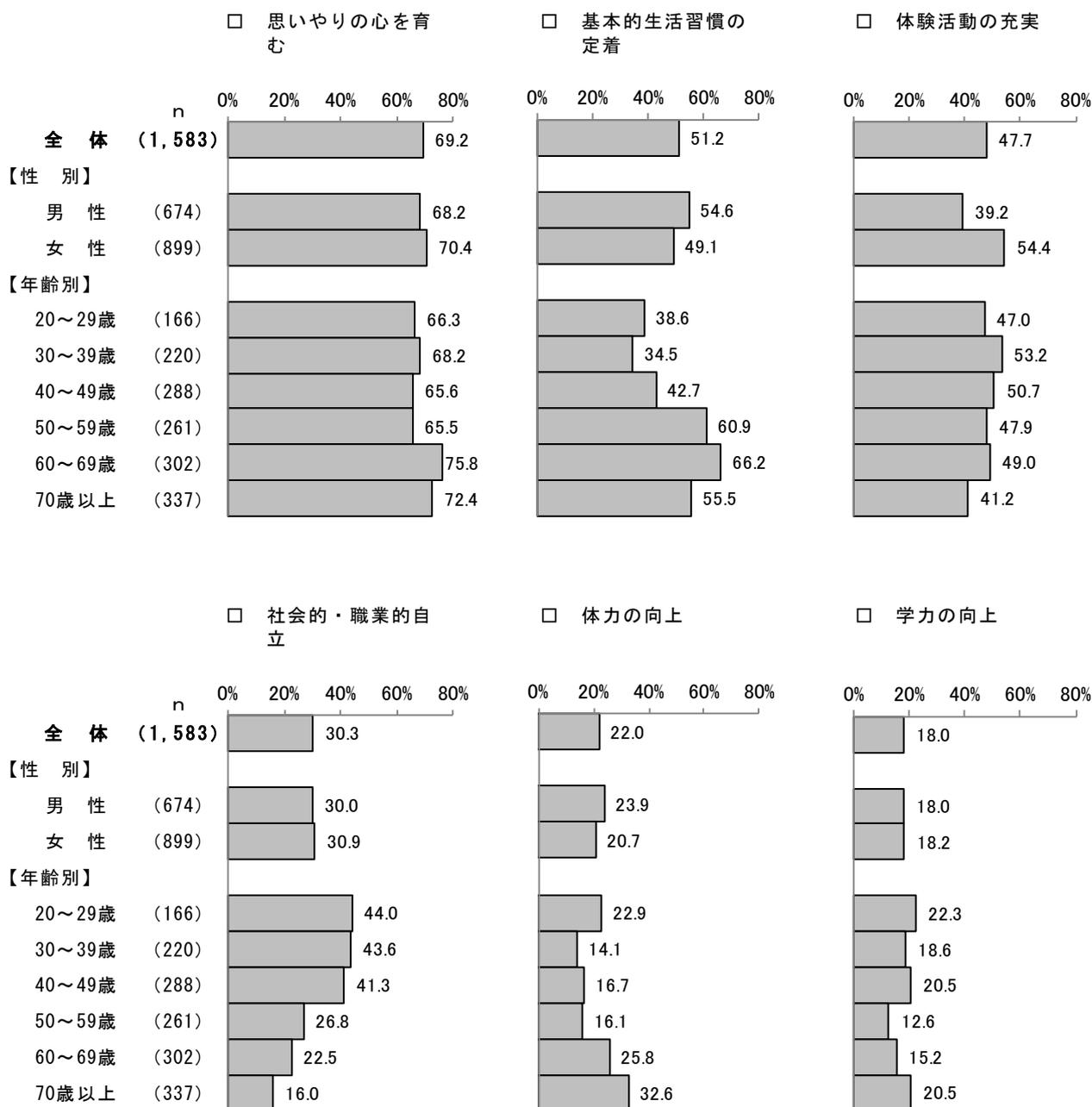
図表 4-13 地域、学校、家庭が連携して小中学生の学びを支援することで期待できる効果



性別で見ると、「思いやりの心を育む」は女性が約7割、男性が7割近くとなっている。「基本的な生活習慣の定着」は男性（54.6%）が女性（49.1%）を5.5ポイント上回っている。一方、「体験活動の充実」は女性（54.4%）が男性（39.2%）を15.2ポイント上回っている。

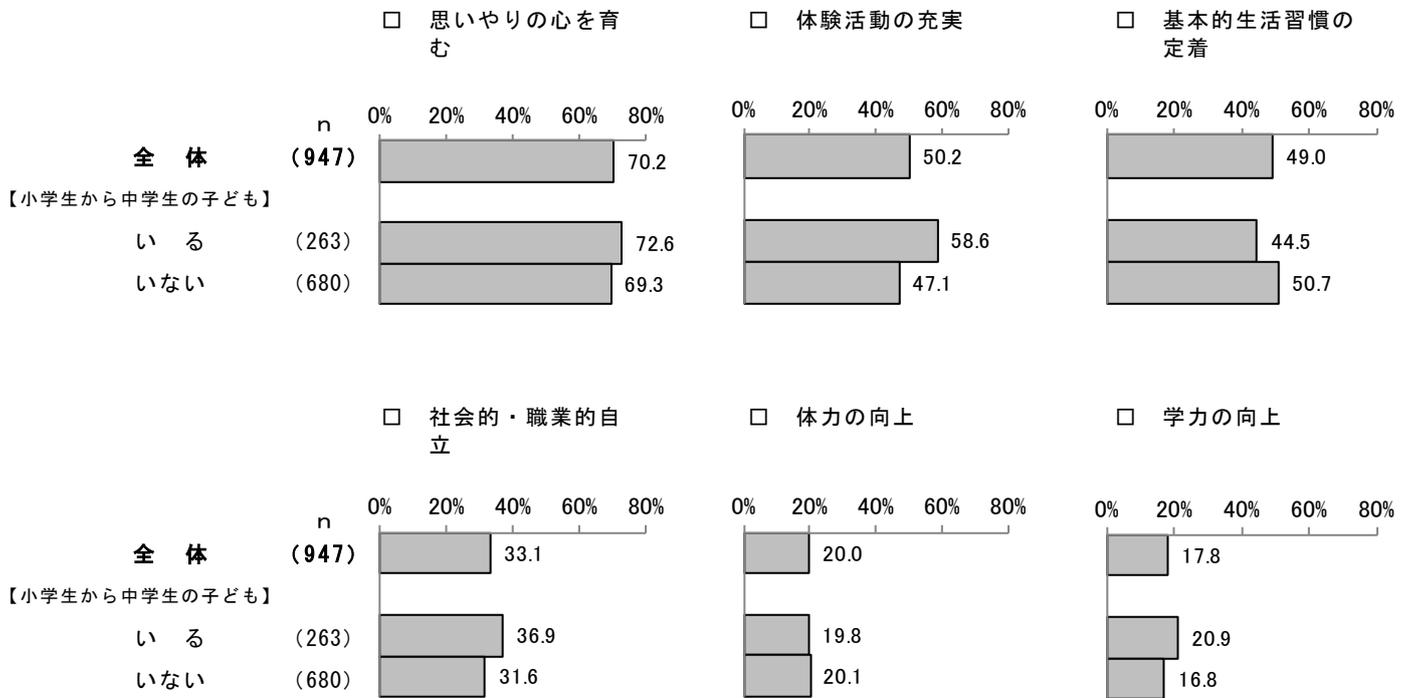
年齢別で見ると、「思いやりの心を育む」は60歳代で7割台半ばを超え、70歳以上では7割台半ば近くとなっている。「基本的な生活習慣の定着」は60歳代で6割台半ばを超えている。「社会的・職業的自立」は20歳代で4割台半ばとなっており、年代が上がるにつれて割合は低くなっている。

図表4-14 地域、学校、家庭が連携して小中学生の学びを支援することで期待できる効果
(性別 年齢別、上位6項目)



小学生から中学生の子どもの有無別でみると、「体験活動の充実」はいる(58.6%)がいない(47.1%)よりも11.5ポイント上回っている。一方、「基本的生活習慣の定着」はいない(50.7%)がいる(44.5%)よりも6.2ポイント上回っている。

図表4-15 地域、学校、家庭が連携して小中学生の学びを支援することで期待できる効果
(小学生から中学生の子どもの有無別、上位6項目)



(6) 小中学校でのボランティア活動の参加

◇ 小中学校でのボランティア活動に参加したことがない人が約7割

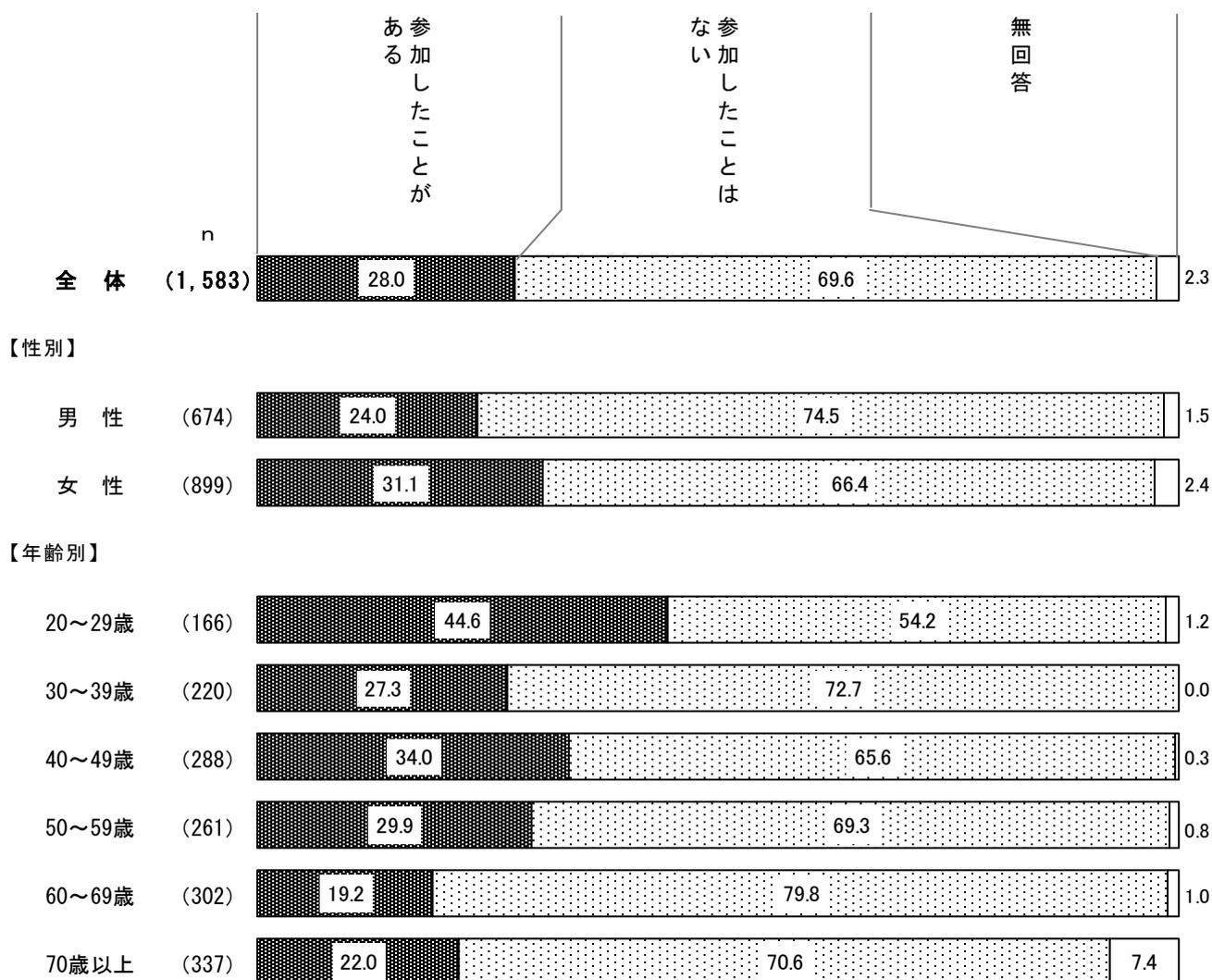
問 17 あなたは、小中学校で、ボランティア活動に参加したことがありますか。あてはまる番号に 1つ〇印 をつけてください。

小中学校でのボランティア活動の参加については、「参加したことがある」が 28.0%、「参加したことはない」が 69.6%となっている。

性別で見ると、「参加したことがある」は女性（31.1%）が男性（24.0%）を 7.1 ポイント上回っている。

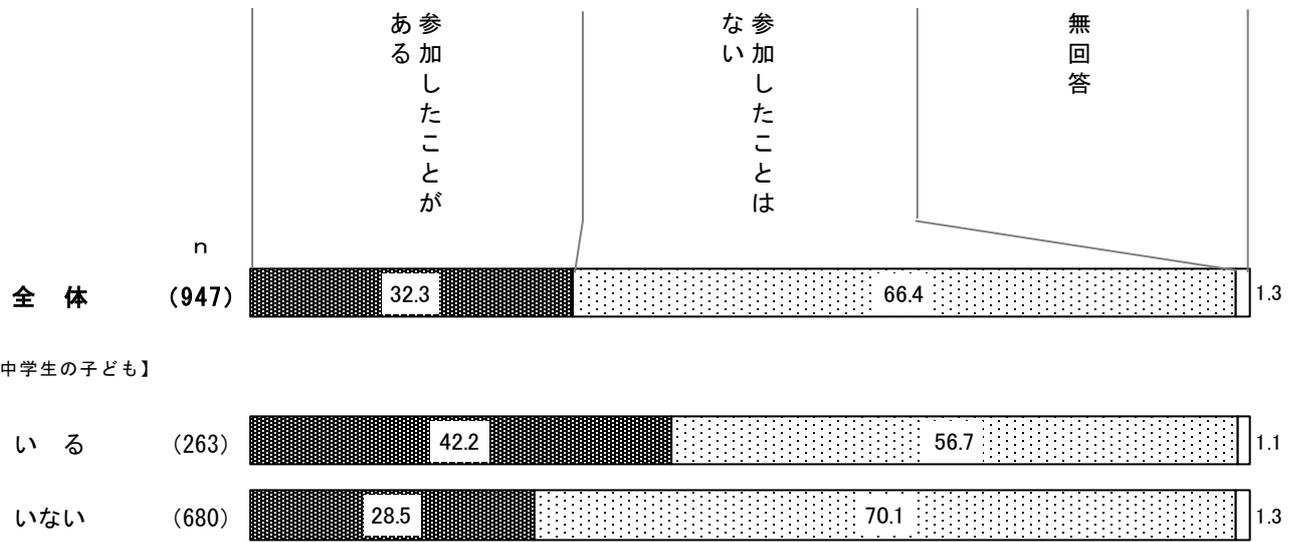
年齢別で見ると、すべての年齢層で「参加したことはない」が5割を超え、特に 60～69 歳では8割弱となっている。20～29 歳では「参加したことがある」が4割台半ば近くとなっており、他の年齢層と比べると多くなっている。

図表 4-16 小中学校でのボランティア活動の参加（全体・性別 年齢別）



小学生から中学生の子どもの有無別でみると、「参加したことがある」はいる（42.2%）がいない（28.5%）よりも13.7ポイント上回っている。

図表4-17 小中学校でのボランティア活動の参加（小学生から中学生の子どもの有無別）



(7) 学校のボランティア活動に参加しなかった理由

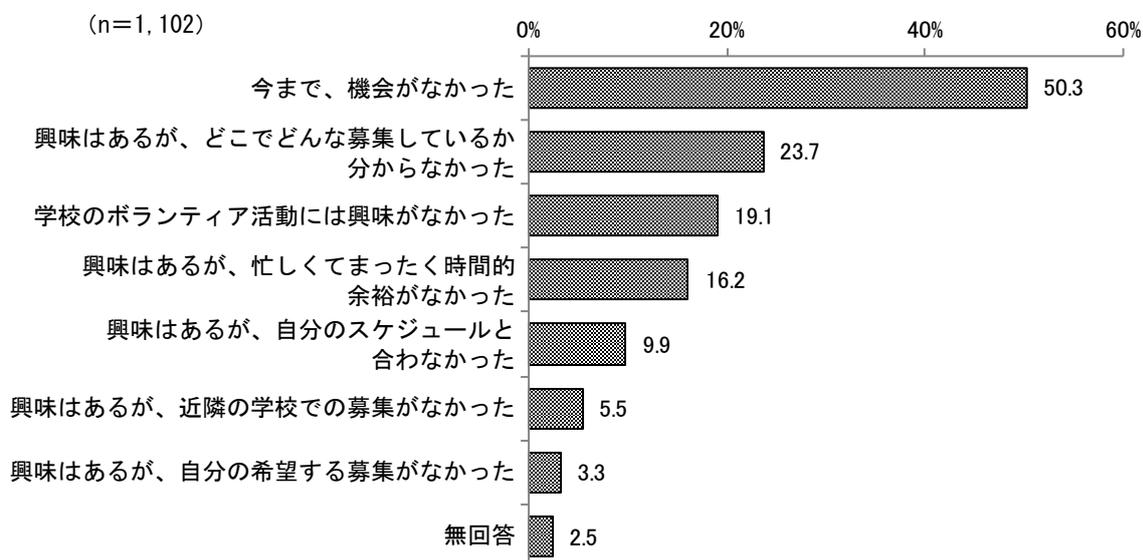
◇ 「今まで、機会がなかった」が約5割

【問 17 の質問で「2 (いいえ)」と回答した方にうかがいます。】

問 18 学校のボランティア活動に参加しなかった理由は何ですか。あてはまる番号に いくつでも ○印をつけてください。

学校のボランティア活動に参加しなかった理由については、「今まで、機会がなかった」が50.3%と最も多く、次いで「興味はあるが、どこでどんな募集しているか分からなかった」(23.7%)、「学校のボランティア活動には興味はなかった」(19.1%)、「興味はあるが、忙しくてまったく時間的余裕がなかった」(16.2%)となっている。

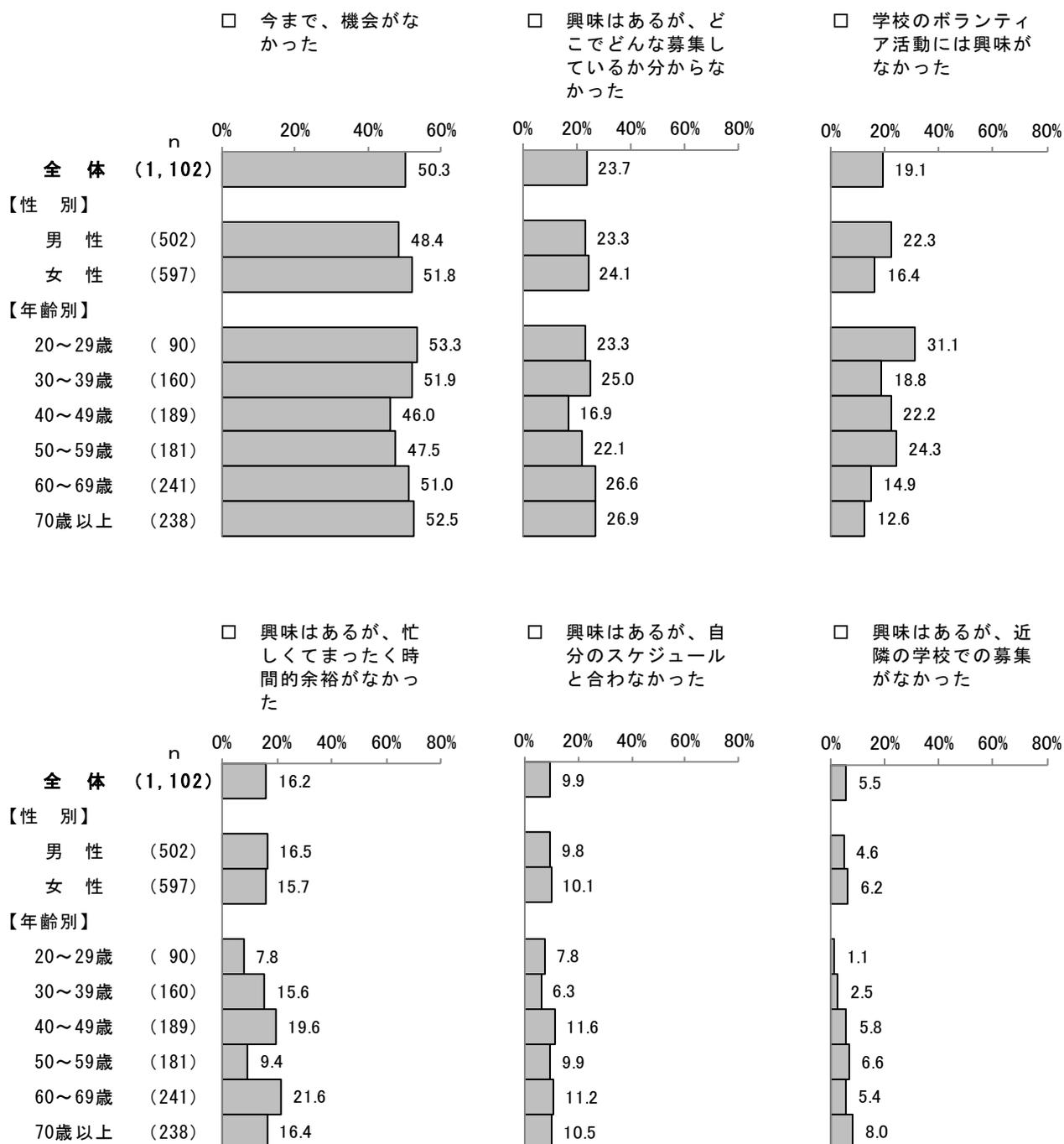
図表 4-18 学校のボランティア活動に参加しなかった理由



性別で見ると、「今まで、機会がなかった」は女性（51.8%）が男性（48.4%）を3.4ポイント上回っている。一方、「学校のボランティア活動には興味がなかった」は男性（22.3%）が女性（16.4%）を5.9ポイント上回っている。

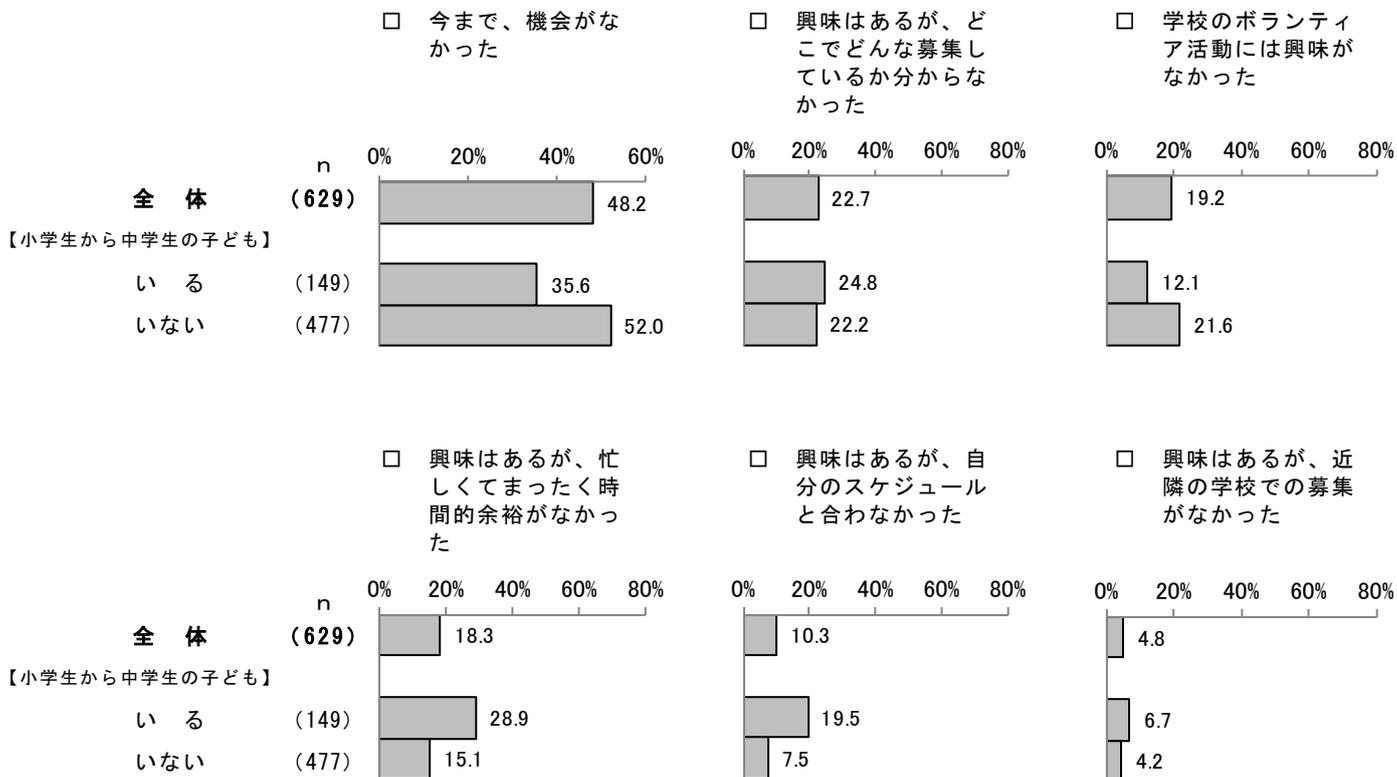
年齢別で見ると、「今まで、機会がなかった」はすべての年代で4割台半ばを超えており、特に20歳代では5割台半ば近くとなっている。「興味はあるが、どこでどんな募集しているか分からなかった」は60歳代と70歳代以上で2割台半ばを超えている。「学校のボランティア活動には興味がなかった」は20歳代で3割強となっている。

図表4-19 学校のボランティア活動に参加しなかった理由（性別 年齢別、上位6項目）



小学生から中学生の子どもの有無別でみると、「今まで、機会がなかった」は「いない（52.0%）」よりも16.4ポイント上回っている。一方、「興味はあるが、忙しくてまったく時間的余裕がなかった」は「いる（28.9%）」よりも13.8ポイント上回っている

図表4-20 学校のボランティア活動に参加しなかった理由
（小学生から中学生の子どもの有無別、上位6項目）



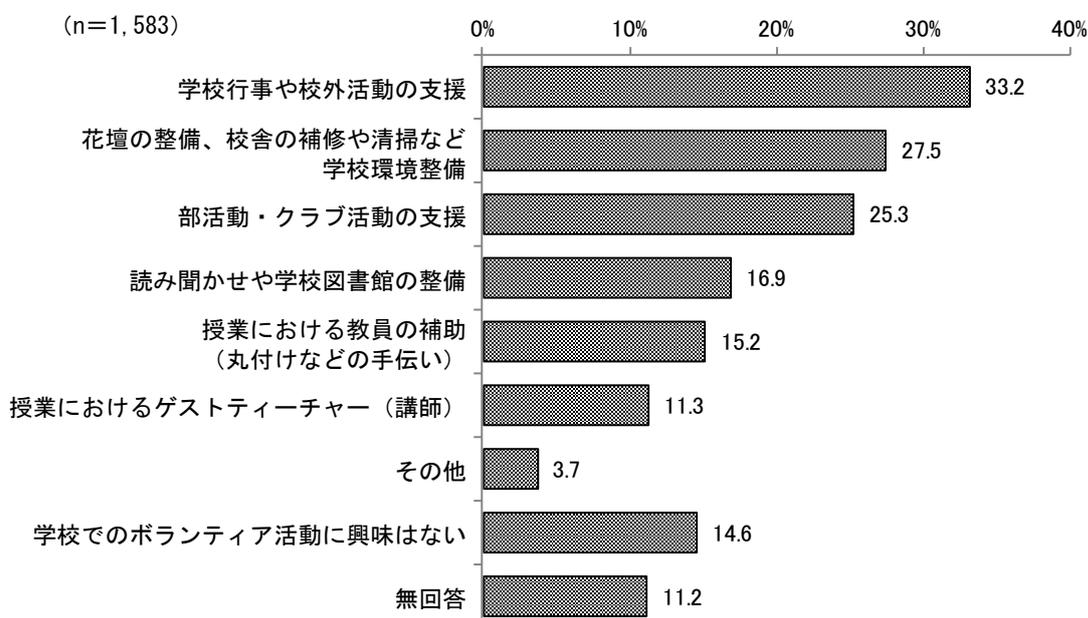
(8) 興味がある小中学校のボランティア活動

◇ 「学校行事や校外活動の支援」が3割台半ば近く

問 19 あなたが小中学校でボランティア活動を支援するとしたなら、どのような活動に興味がありますか。あてはまる番号に いくつでも○印 をつけてください。

興味がある小中学校のボランティア活動については、「学校行事や校外活動の支援」が 33.2%と最も多く、次いで「花壇の整備、校舎の補修や清掃など学校環境整備」(27.5%)、「部活動・クラブ活動の支援」(25.3%)となっている。一方、「学校でのボランティア活動に興味はない」は 14.6%と1割台半ば近くとなっている。

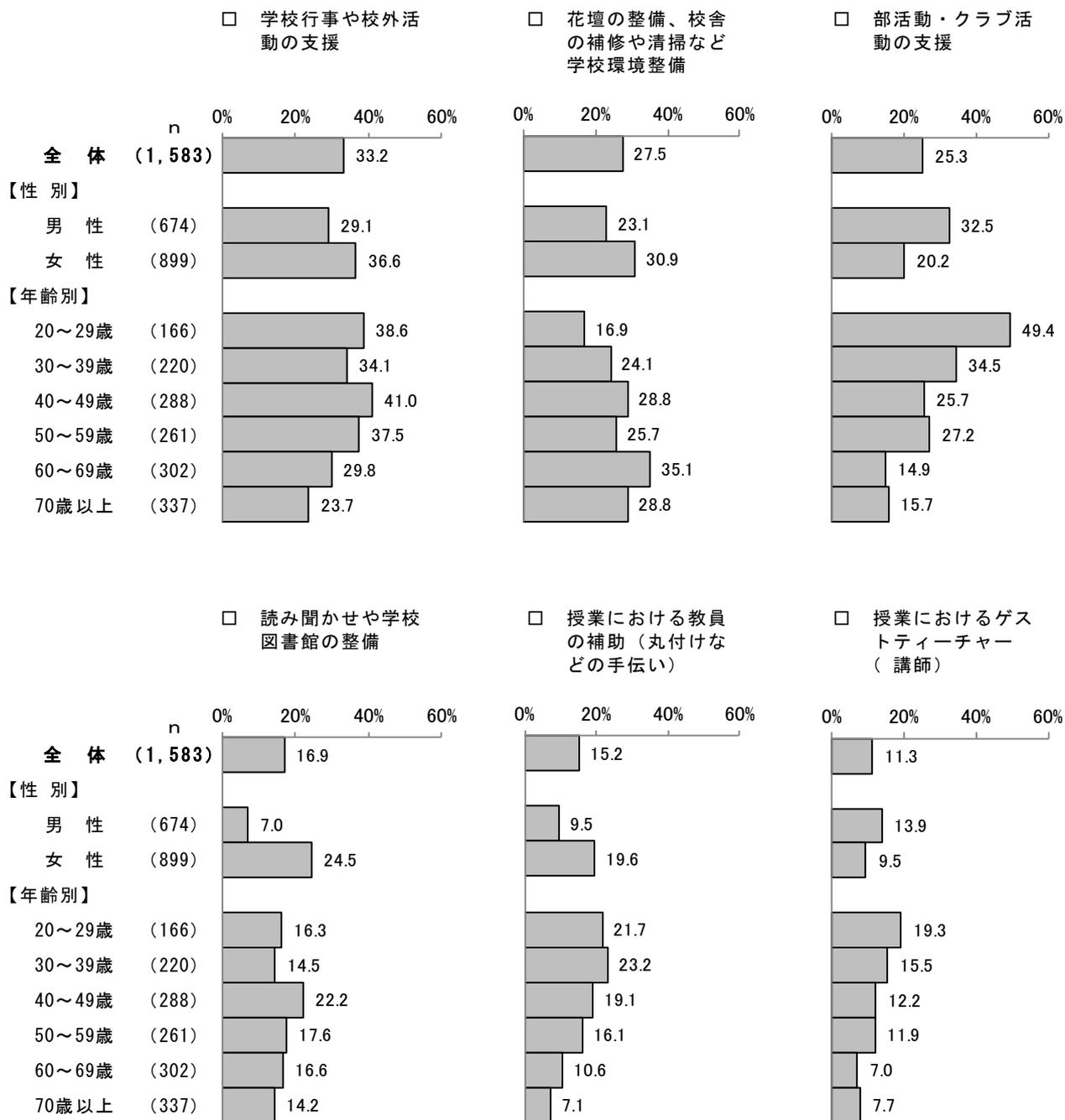
図表 4-21 興味がある小中学校のボランティア活動



性別で見ると、「読み聞かせや学校図書館の整備」は女性（24.5%）が男性（7.0%）を17.5ポイント上回っている。また「授業における教員の補助（丸付けなどの手伝い）」も女性（19.6%）が男性（9.5%）を10.1ポイント上回っている。一方、「部活動・クラブ活動の支援」は男性（32.5%）が女性（20.2%）を12.3ポイント上回っている。

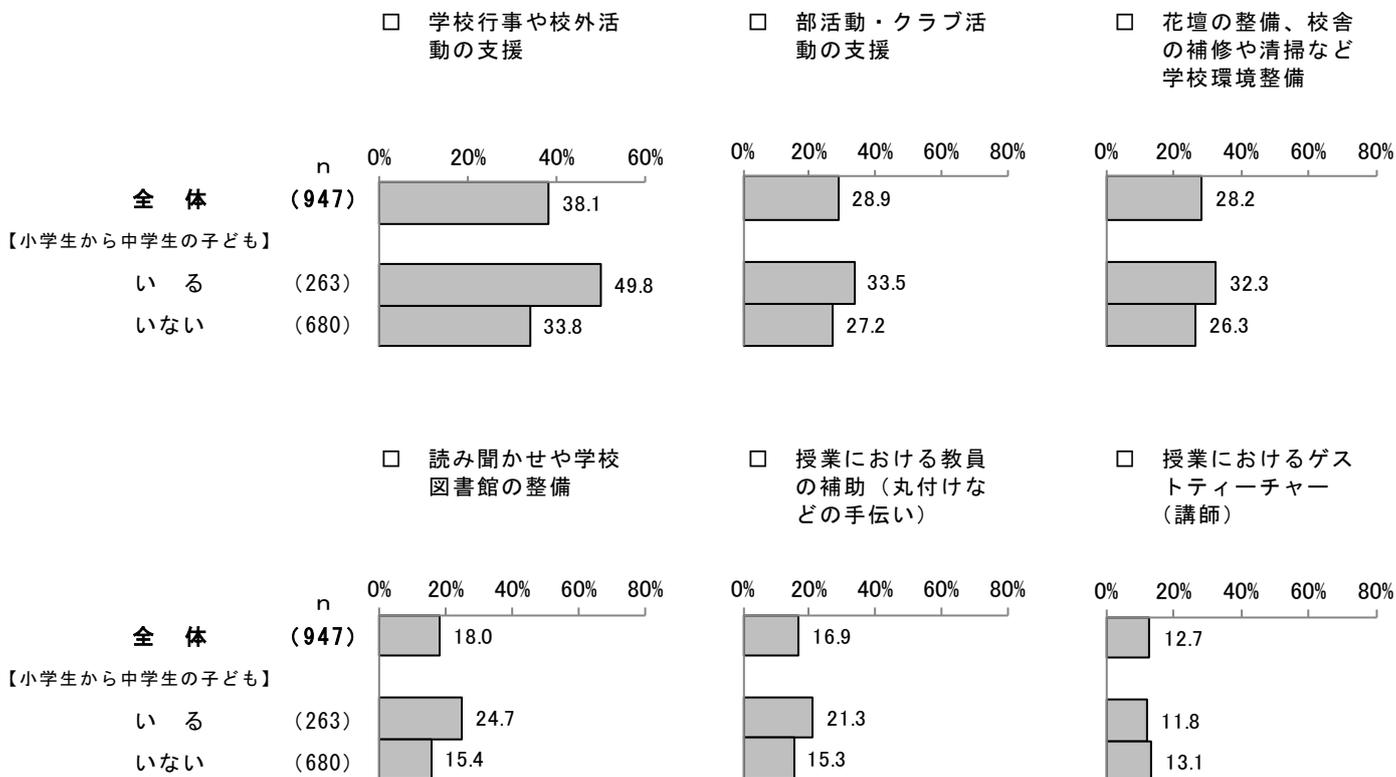
年齢別で見ると、「学校行事や校外活動の支援」は40歳代で4割強となっている。「花壇の整備、校舎の補修や清掃など学校環境整備」は60歳代で3割台半ばとなっている。「部活動・クラブ活動の支援」は20歳代で5割弱となっている。

図表4-22 興味がある小中学校のボランティア活動（性別 年齢別、上位6項目）



小学生から中学生の子どもの有無別でみると、上位6項目のうち5項目はいるがいないよりも上回っている。特に「学校行事や校外活動の支援」では、いる(49.8%)がいない(33.8%)よりも16.0ポイント上回っている。

図表4-23 興味がある小中学校のボランティア活動
(小学生から中学生の子どもの有無別、上位6項目)



5. 松戸市の図書館について

(1) 図書館の利用頻度

◇ 「年に数回程度」が2割強、「利用したことがない」が4割近く

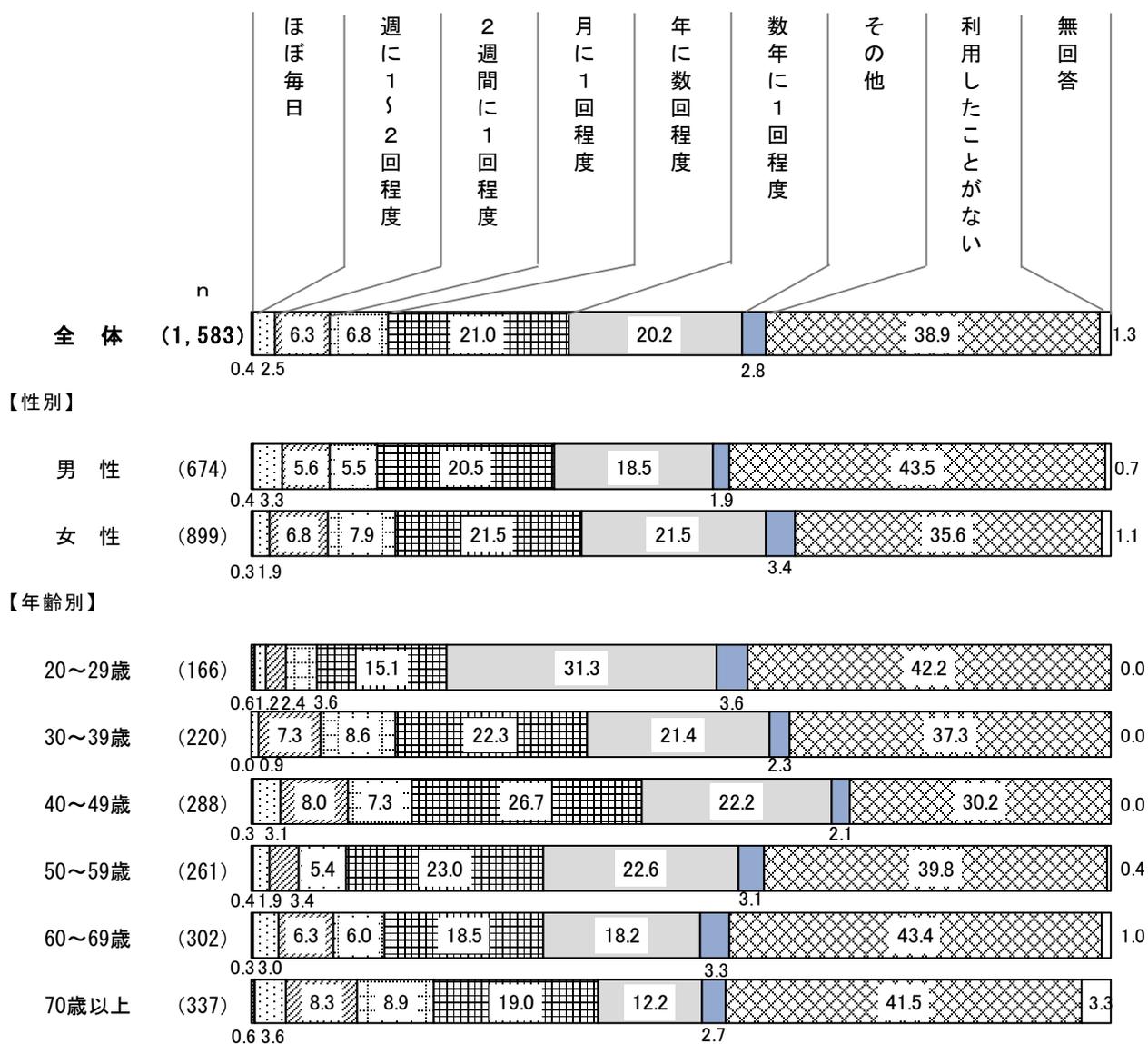
問 20 あなたは、松戸市の図書館をどのくらいの頻度で利用しますか。あてはまる番号に 1 つ 〇 印をつけてください。

図書館の利用頻度については、「年に数回程度」が21.0%と最も多く、次いで「数年に1回程度」(20.2%)となっている。一方、「利用したことがない」は38.9%と4割近くとなっている。

性別でみると、男女ともに「年に数回程度」と「数年に1回程度」が2割前後となっている。「月1回以上」の利用は女性(16.9%)が男性(14.8%)を2.1ポイントとわずかではあるが上回っている。一方、「利用したことがない」は男性(43.5%)が女性(35.6%)を7.9ポイント上回っている。

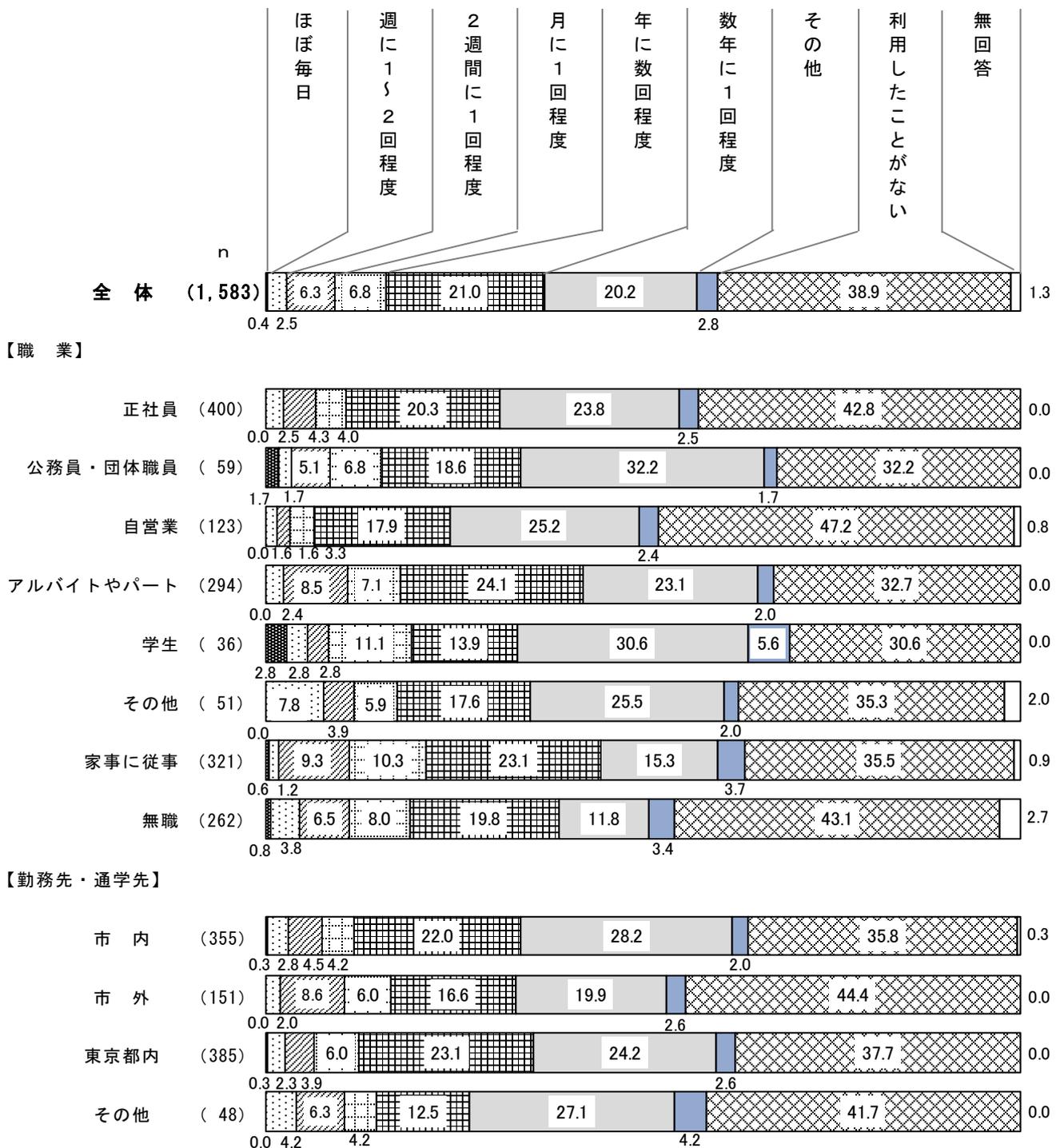
年齢別でみると、20歳代では「数年に1回程度」が3割強と最も多く、それ以外の年代では「年に数回程度」が最も多くなっている。「月1回以上」の利用は70歳以上で2割強となっている。一方、「利用したことがない」は60歳代で4割台半ば近くとなっている。

図表5-1 図書館の利用頻度（性別 年齢別）



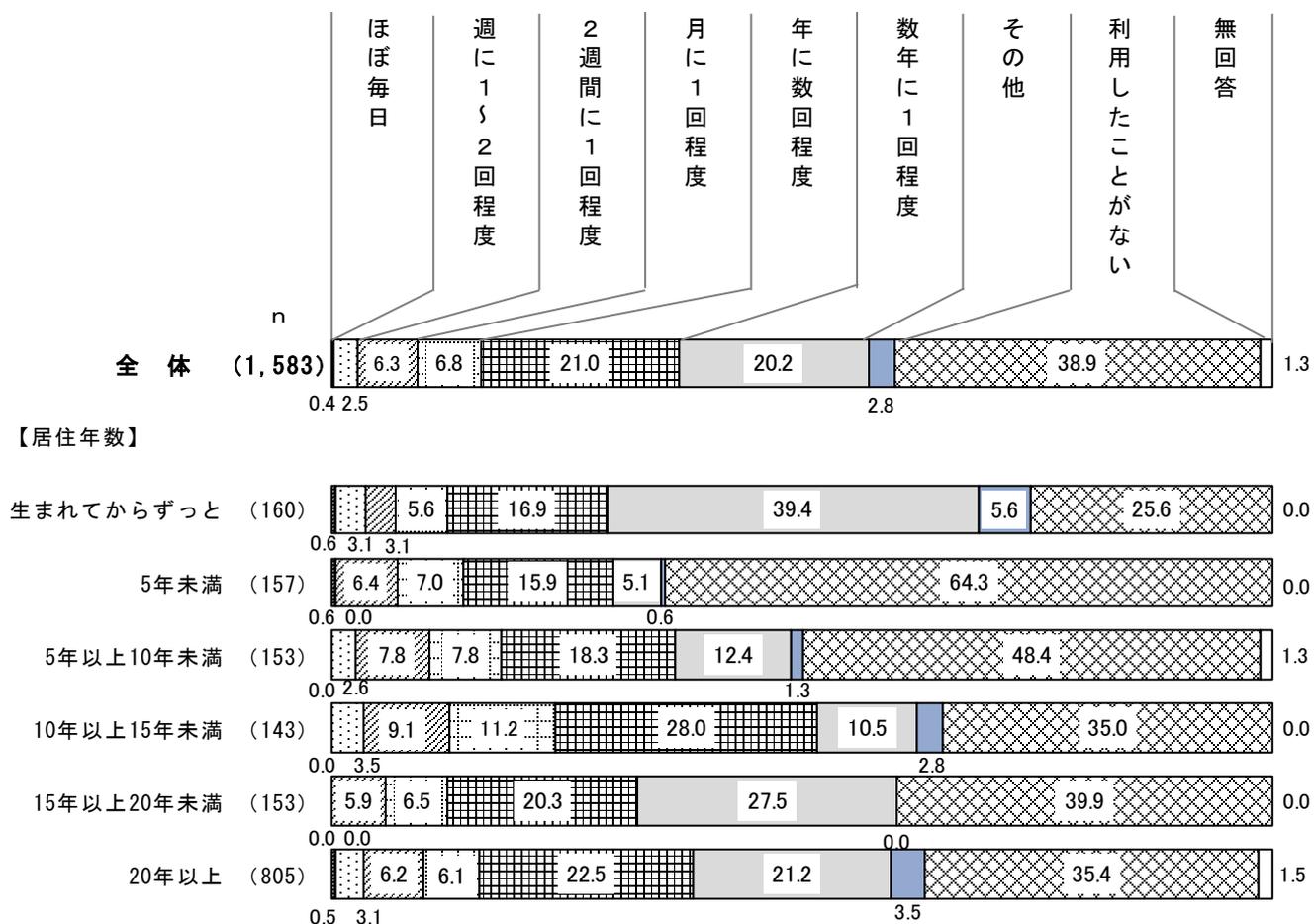
職業別でみると、「月に1回以上」の利用は「家事に従事している」で2割強、「学生」と「無職」で2割弱となっている。一方、「利用したことがない」は「自営業」で4割台半ばを超えている。

図表5-2 図書館の利用頻度（職業別 勤務先・通学先別）



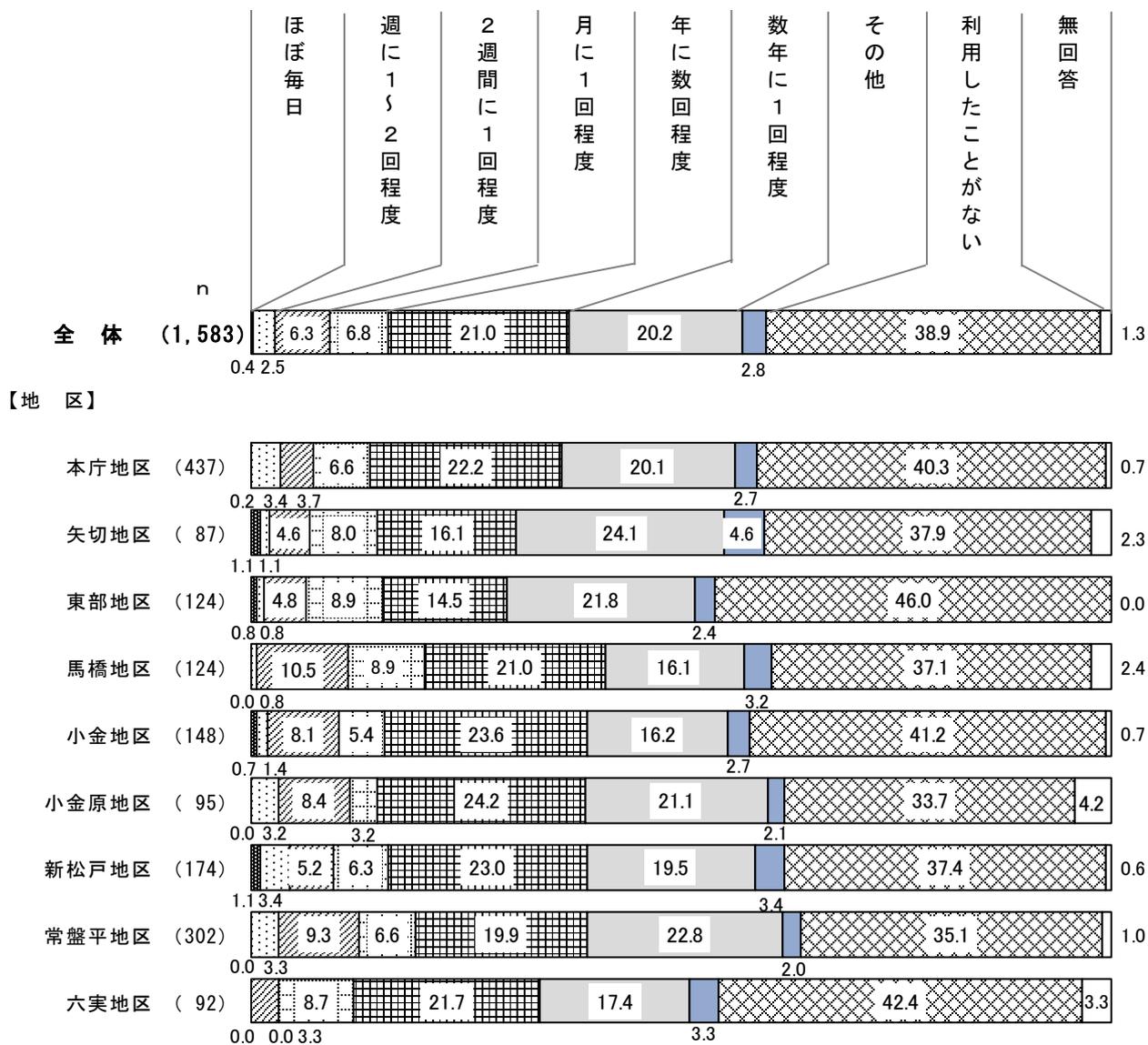
居住年数別でみると、「月に1回以上」の利用は10年以上15年未満で2割台半ば近くとなっている。一方、「利用したことがない」は5年未満で6割台半ば近くとなっている。

図表5-3 図書館の利用頻度（居住年数別）



居住地区別でみると、「月に1回以上」の利用は、馬橋地区で約2割、常盤平地区で2割弱となっている。一方、「利用したことがない」は東部地区で4割台半ばを超えている。

図表5-4 図書館の利用頻度（居住地区別）



(2) 図書館を利用しない理由

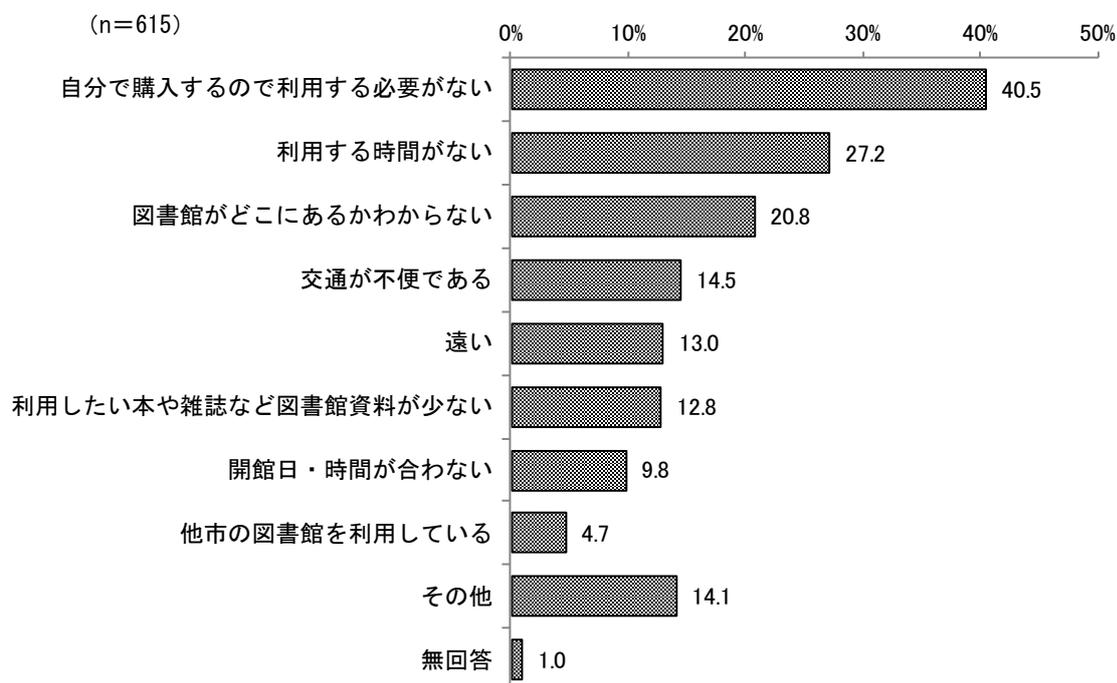
◇ 「自分で購入するので利用する必要がない」が約4割

【問20で「利用したことがない」と回答した方にお聞きします。】

問21 利用されないのは、なぜですか。あてはまる番号にいくつでも〇印をつけてください。

図書館を利用しない理由については、「自分で購入するので利用する必要がない」が40.5%と最も多く、次いで「利用する時間がない」(27.2%)、「図書館がどこにあるかわからない」(20.8%)となっている。

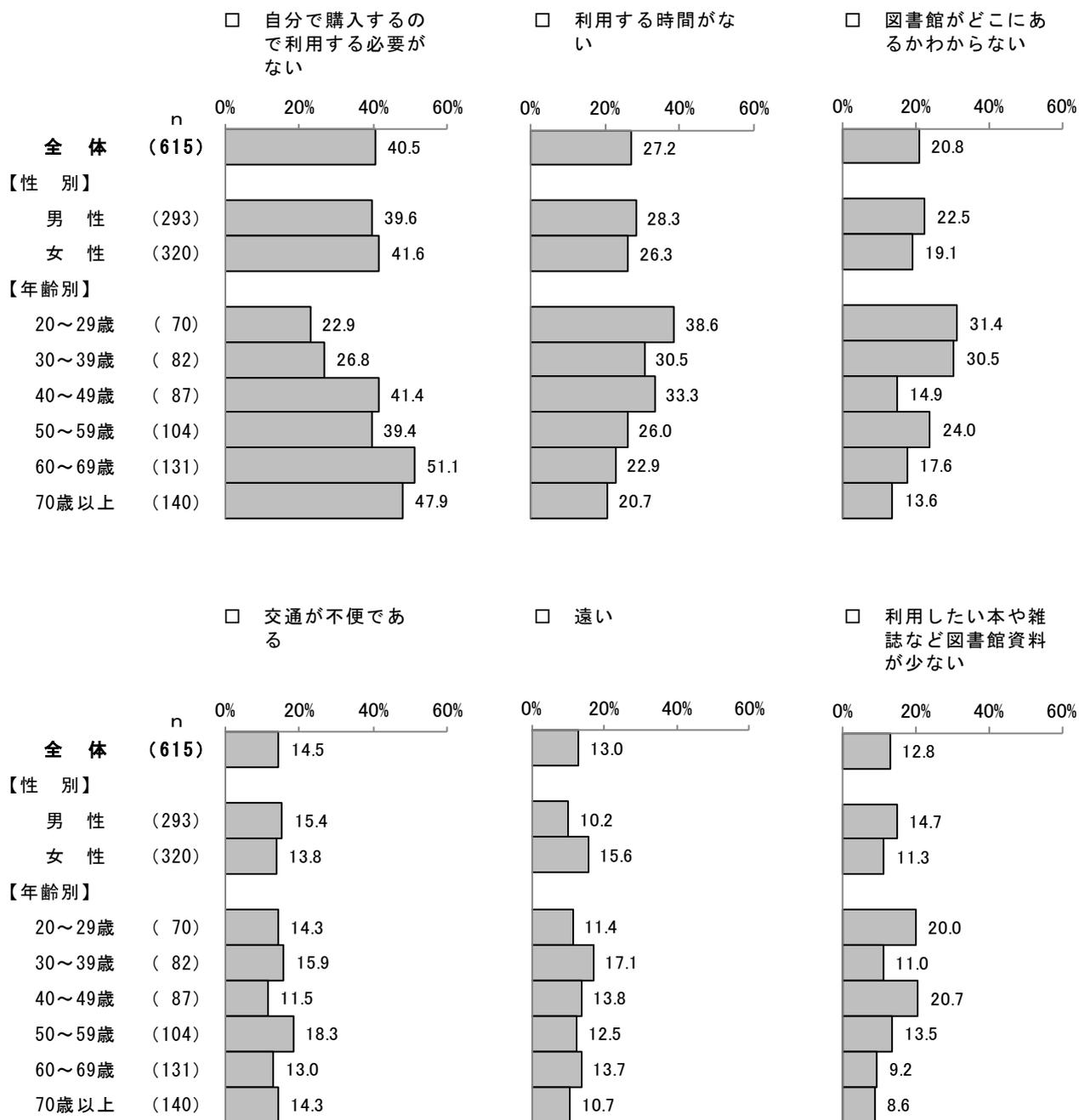
図表5-5 図書館を利用しない理由



性別でみると、男女ともに「自分で購入するので利用する必要がない」は4割前後、「利用する時間がない」は2割台半ばを超えている。「図書館がどこにあるかわからない」は男性（22.5%）が女性（19.1%）を3.4ポイント上回っている。一方、「遠い」は女性（15.6%）が男性（10.2%）を5.4ポイント上回っている。

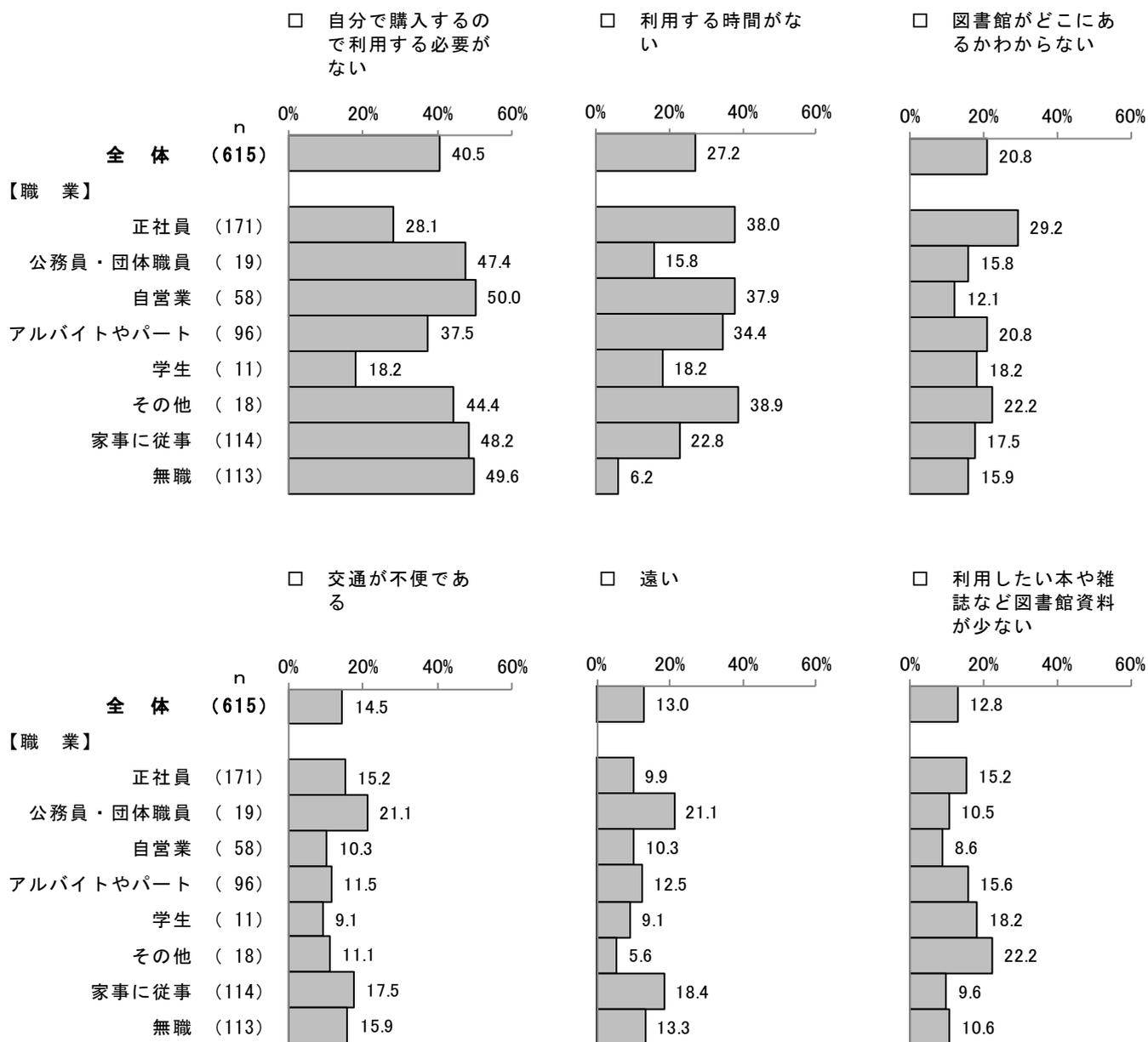
年齢別でみると、「自分で購入するので利用する必要がない」は60歳で5割強、70歳以上で4割台半ばを超えている。「利用する時間がない」は20歳で4割近くとなっている。「図書館がどこにあるかわからない」は20歳代と30歳代で3割強となっている。

図表5-6 図書館を利用しない理由（性別 年齢別、上位6項目）



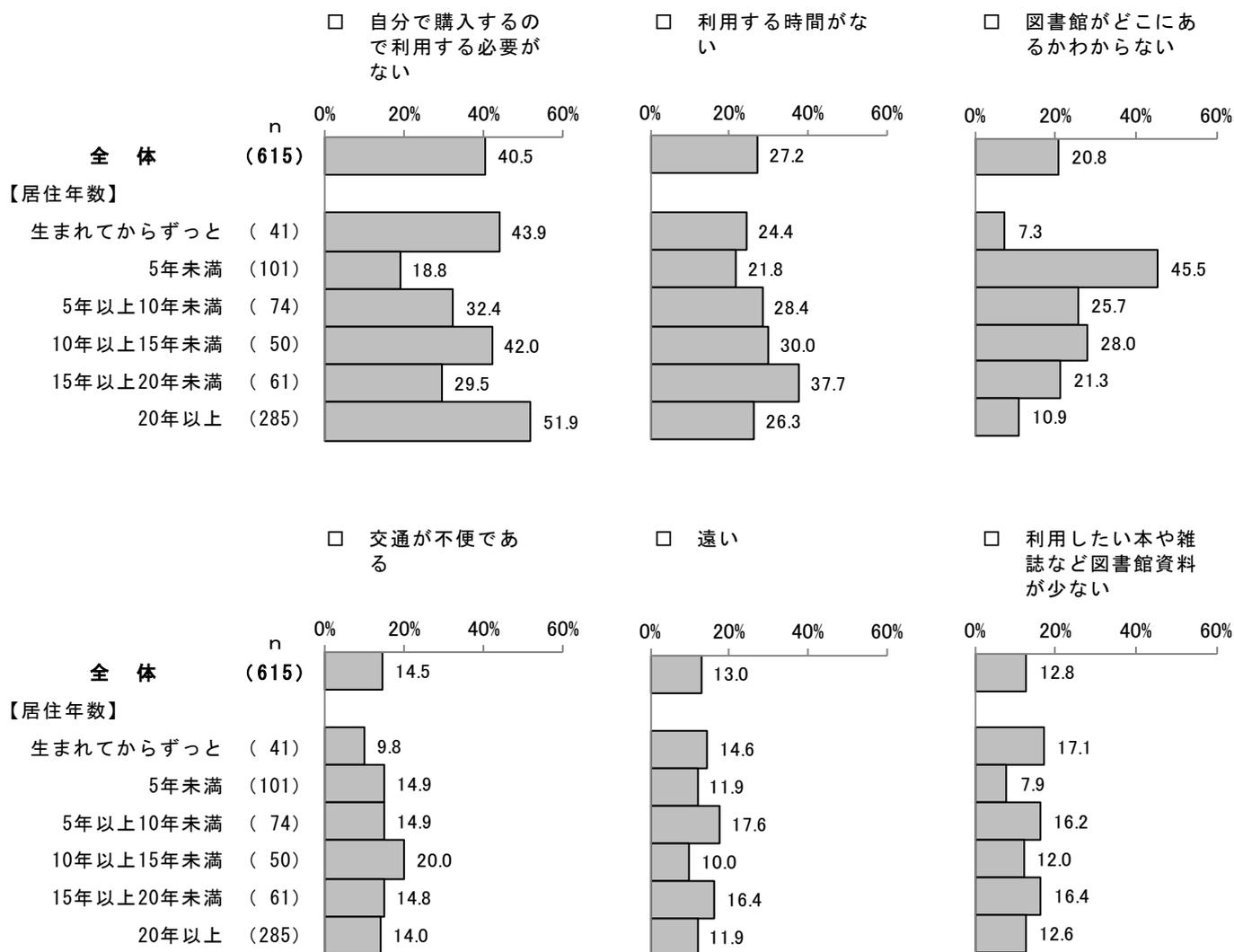
職業別でみると、「自分で購入するので利用する必要がない」は自営業で5割、無職で5割弱、家事に従事で5割近くとなっている。「利用する時間がない」は正社員と自営業で4割近くとなっている。

図表5-7 図書館を利用しない理由（職業別、上位6項目）



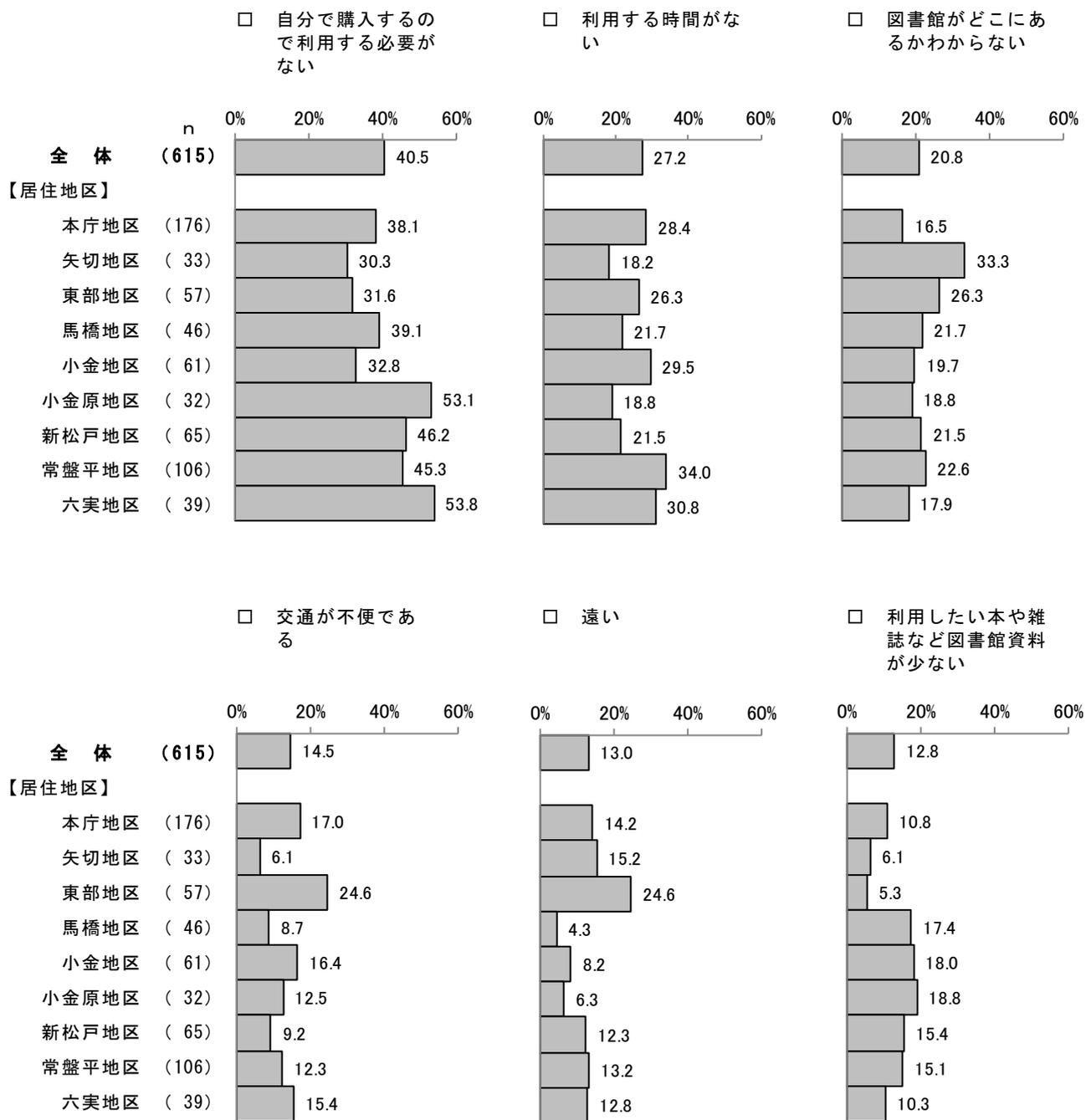
居住年数別でみると、「自分で購入するので利用する必要がない」は20年以上で5割強となっている。「図書館がどこにあるかわからない」は5年未満で4割台半ばとなっている。

図表5-8 図書館を利用しない理由（居住年数別、上位6項目）



居住地区別でみると、「自分で購入するので利用する必要がない」は小金原地区と六実地区で5割台半ば近くとなっている。「図書館がどこにあるかわからない」は矢切地区で3割台半ば近くとなっている。「交通が不便である」は東部地区が2割台半ば近くとなっている。

図表5-9 図書館を利用しない理由（居住地区別、上位6項目）



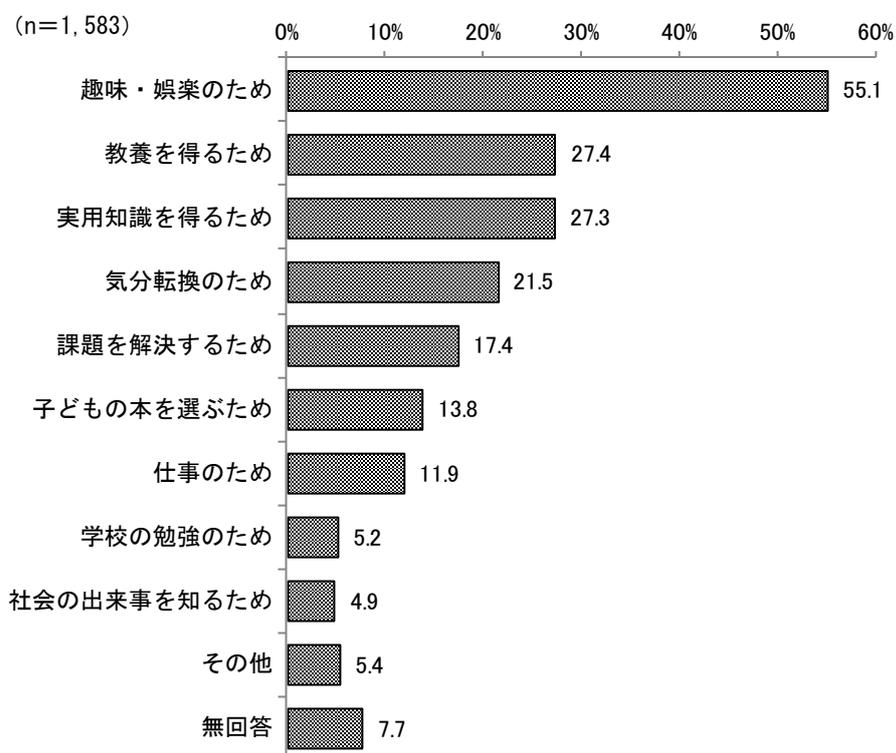
(3) 図書館を利用する目的

◇「趣味・娯楽のため」が5割台半ば

問 22 あなたは、どのような目的で図書館を利用しますか。あてはまる番号に いくつでも○印 をつけてください。

図書館を利用する目的については、「趣味・娯楽のため」が55.1%と最も多く、次いで「教養を得るため」(27.4%)、「実用知識を得るため」(27.3%)、「気分転換のため」(21.5%)となっている。

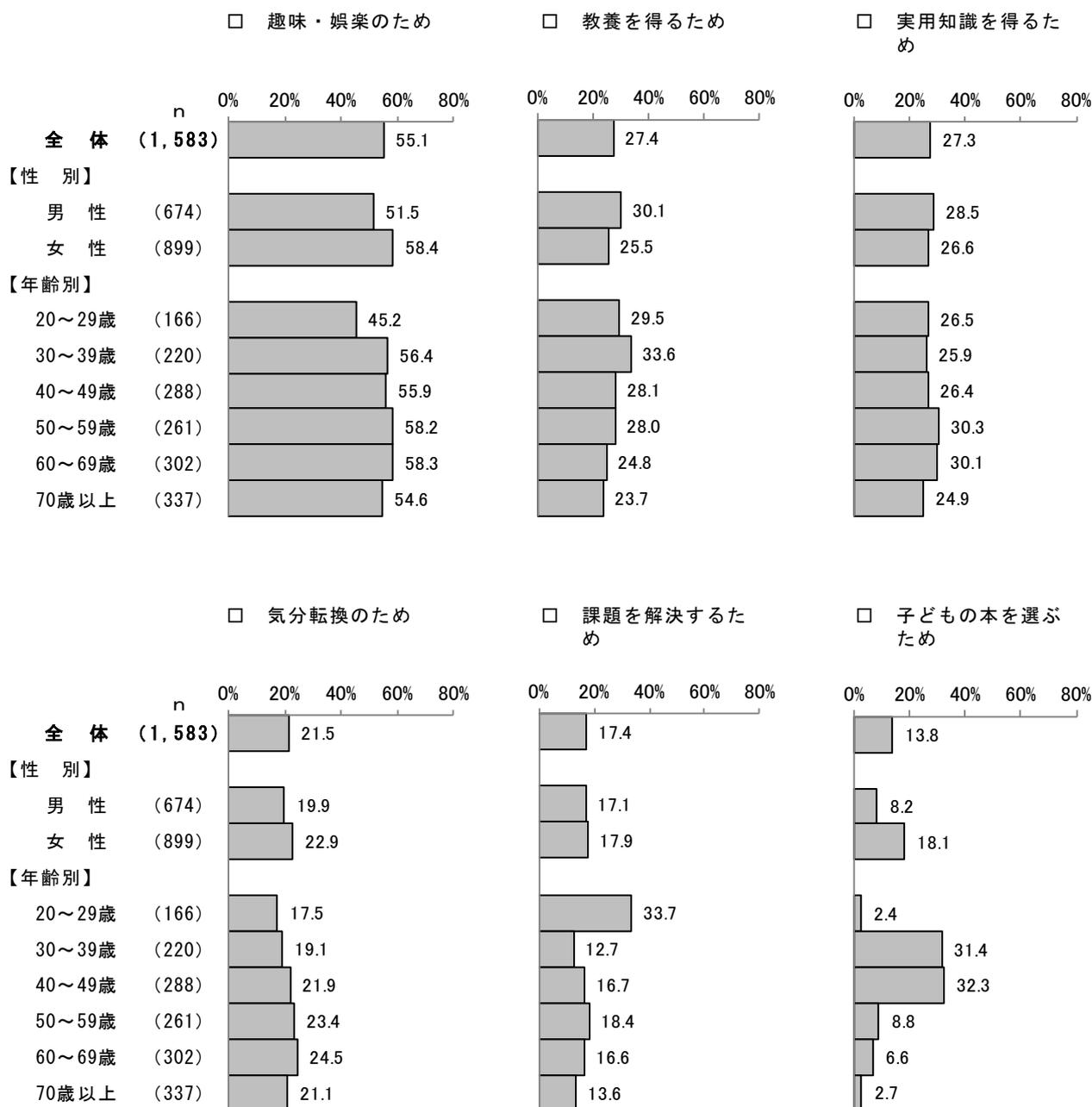
図表 5-10 図書館を利用する目的



性別でみると、「趣味・娯楽のため」は女性（58.4%）が男性（51.5%）を6.9ポイント上回っている。また「子どもの本を選ぶため」も女性（18.1%）が男性（8.2%）を9.9ポイント上回っている。一方、「教養を得るため」は男性（30.1%）が女性（25.5%）を4.6ポイント上回っている。

年齢別でみると、「趣味・娯楽のため」は20代を除くすべての年代で5割を超えており、特に50歳代と60歳代では6割近くとなっている。「教養を得るため」は30歳代で3割台半ば近くとなっている。「課題を解決するため」は20歳代で3割台半ばとなっている。「子どもの本を選ぶため」は30歳代と40歳代で3割強となっているが、それ以外の年代では1割未満となっている。

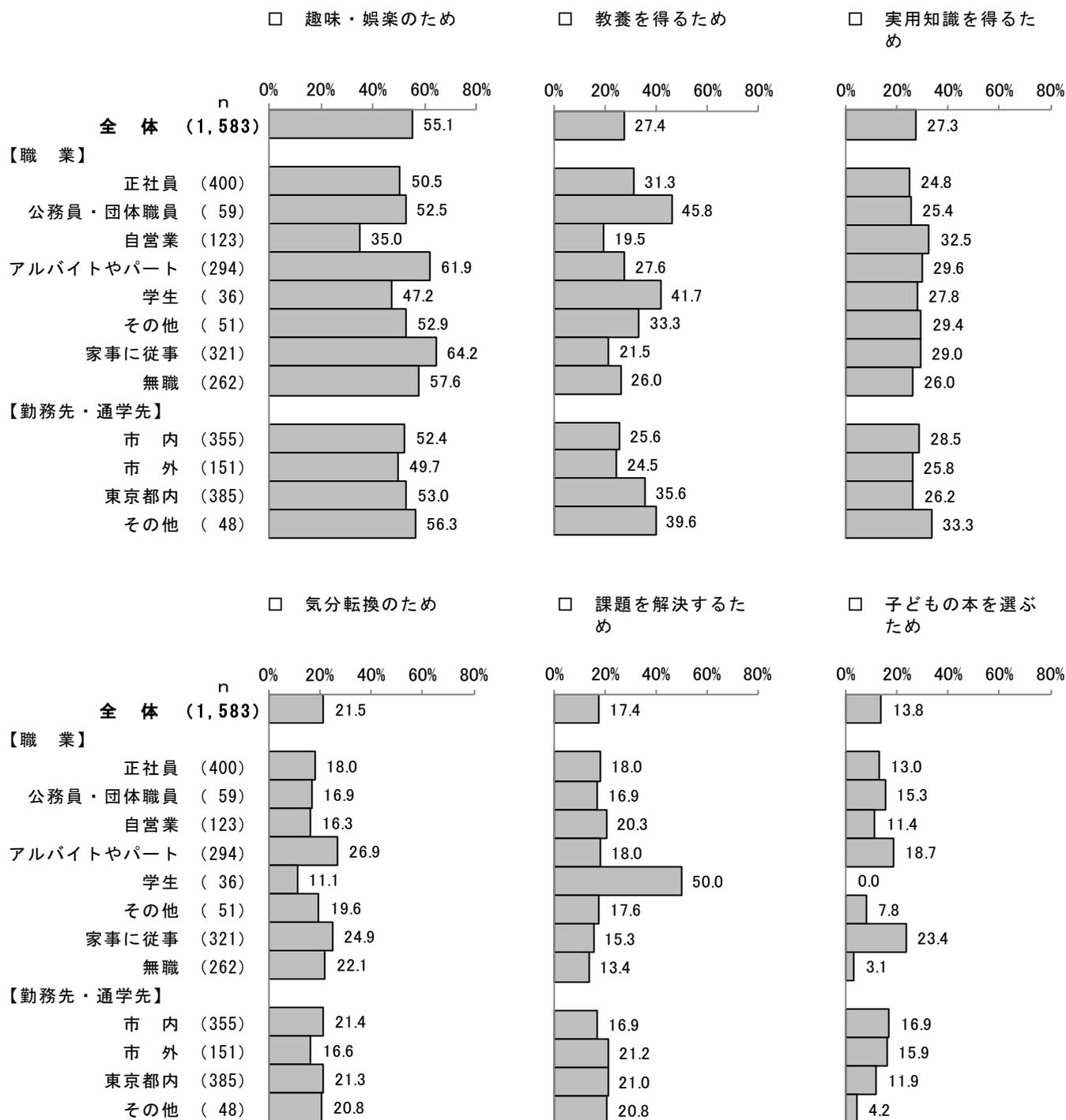
図表5-11 図書館を利用する目的（性別 年齢別、上位6項目）



職業別でみると、「趣味・娯楽のため」は家事に従事で6割台半ば近く、アルバイトやパートなどで6割強となっている。「教養を得るため」は公務員・団体職員で4割台半ば、学生で4割強となっている。「課題を解決するため」は学生で5割となっている。

勤務先・通学先別でみると、「趣味・娯楽のため」は東京都内で5割台半ば近くとなっている。

図表5-12 図書館を利用する目的（職業別 勤務先・通学先別、上位6項目）



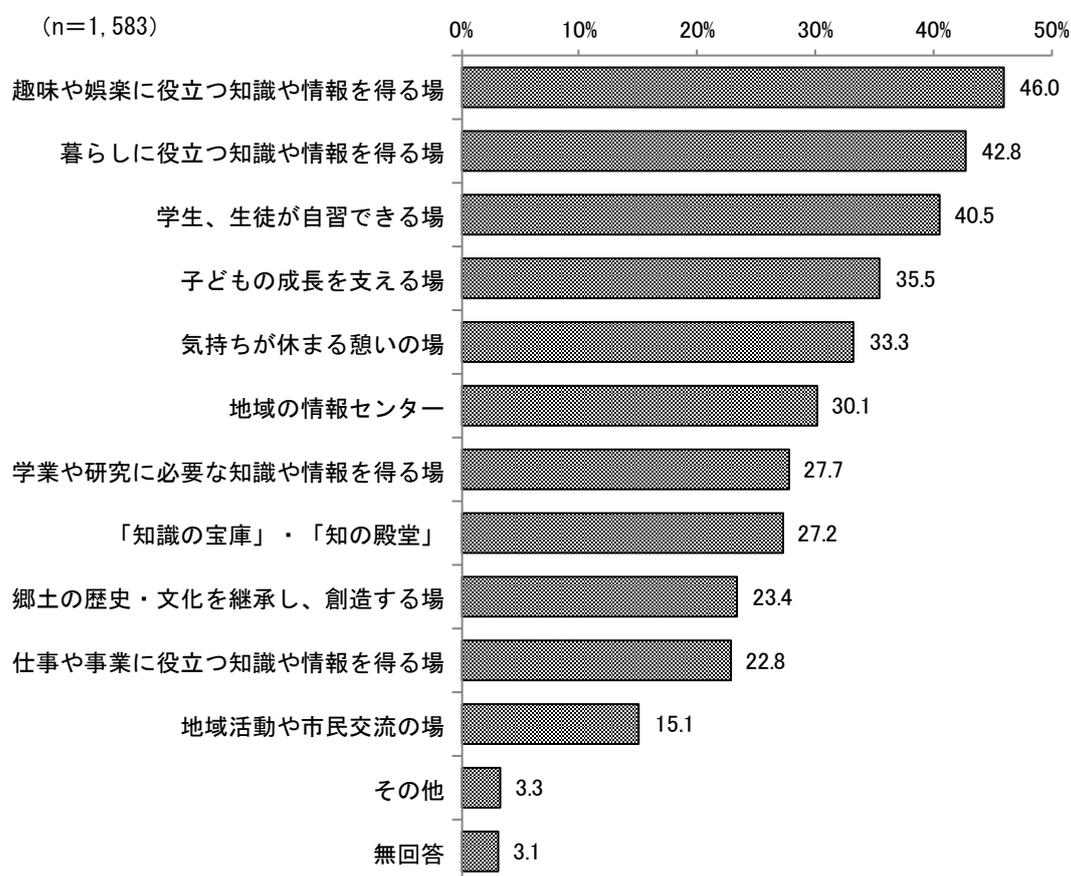
(4) 図書館に望むこと

◇ 「趣味や娯楽に役立つ知識や情報を得る場」が4割台半ばを超えている

問 23 あなたは、これからの図書館がどうあって欲しいと思いますか。あてはまる番号に いくつでも○印をつけてください。

図書館に望むことについては、「趣味や娯楽に役立つ知識や情報を得る場」が46.0%と最も多く、次いで「暮らしに役立つ知識や情報を得る場」(42.8%)、「学生、生徒が自習できる場」(40.5%)、「子どもの成長を支える場」(35.5%)、「気持ちが休まる憩いの場」(33.3%)、「地域の情報センター」(30.1%)となっている。

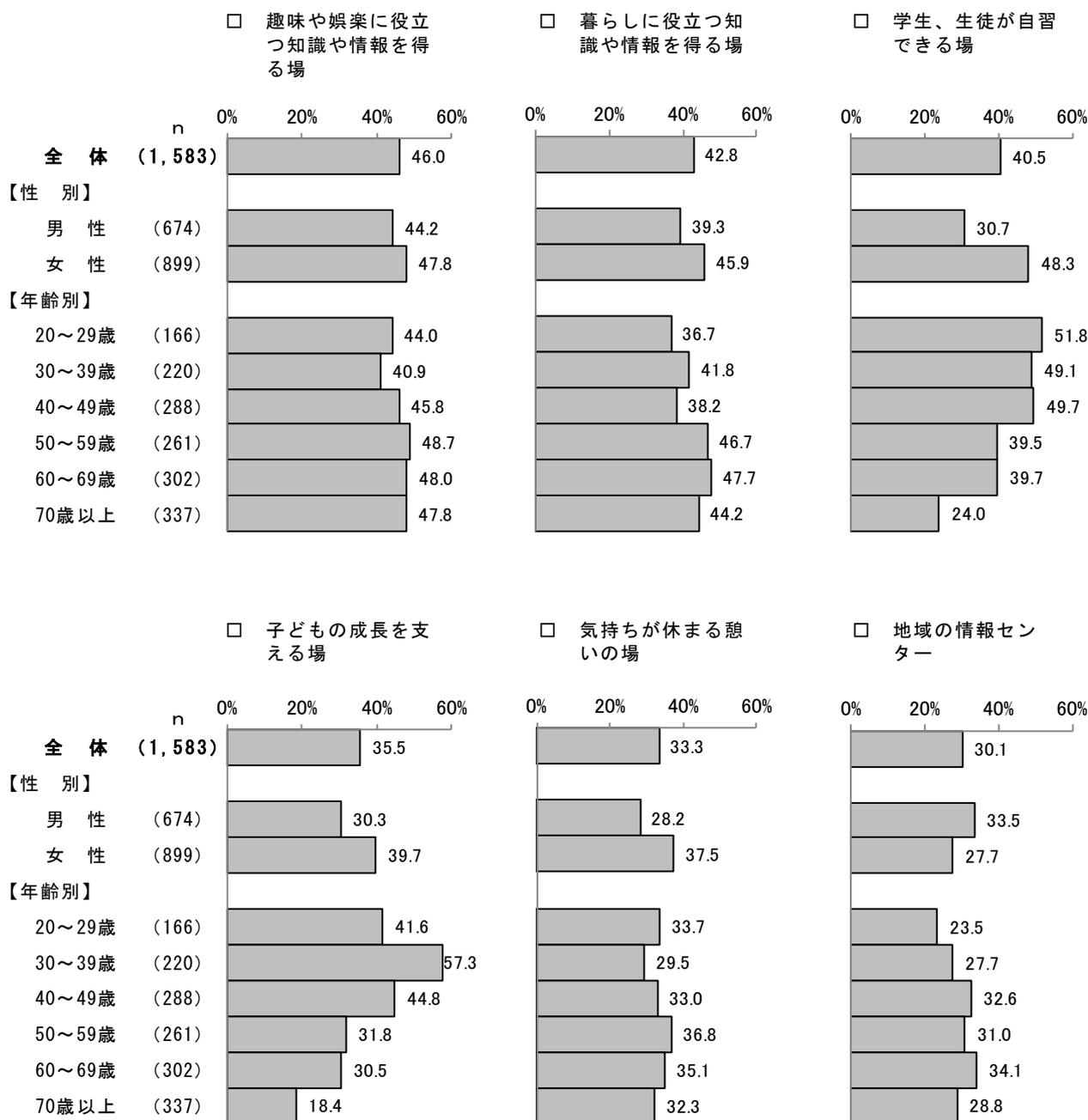
図表5-13 図書館に望むこと



性別でみると、上位6項目のうち、5項目については女性が男性を上回っており、特に「学生、生徒が自習できる場」は女性（48.3%）、男性（30.7%）と17.6ポイント回っている。一方、男性が女性を上回っているのは「地域の情報センター」で男性（33.5%）、女性（27.7%）と5.8ポイント上回っている。

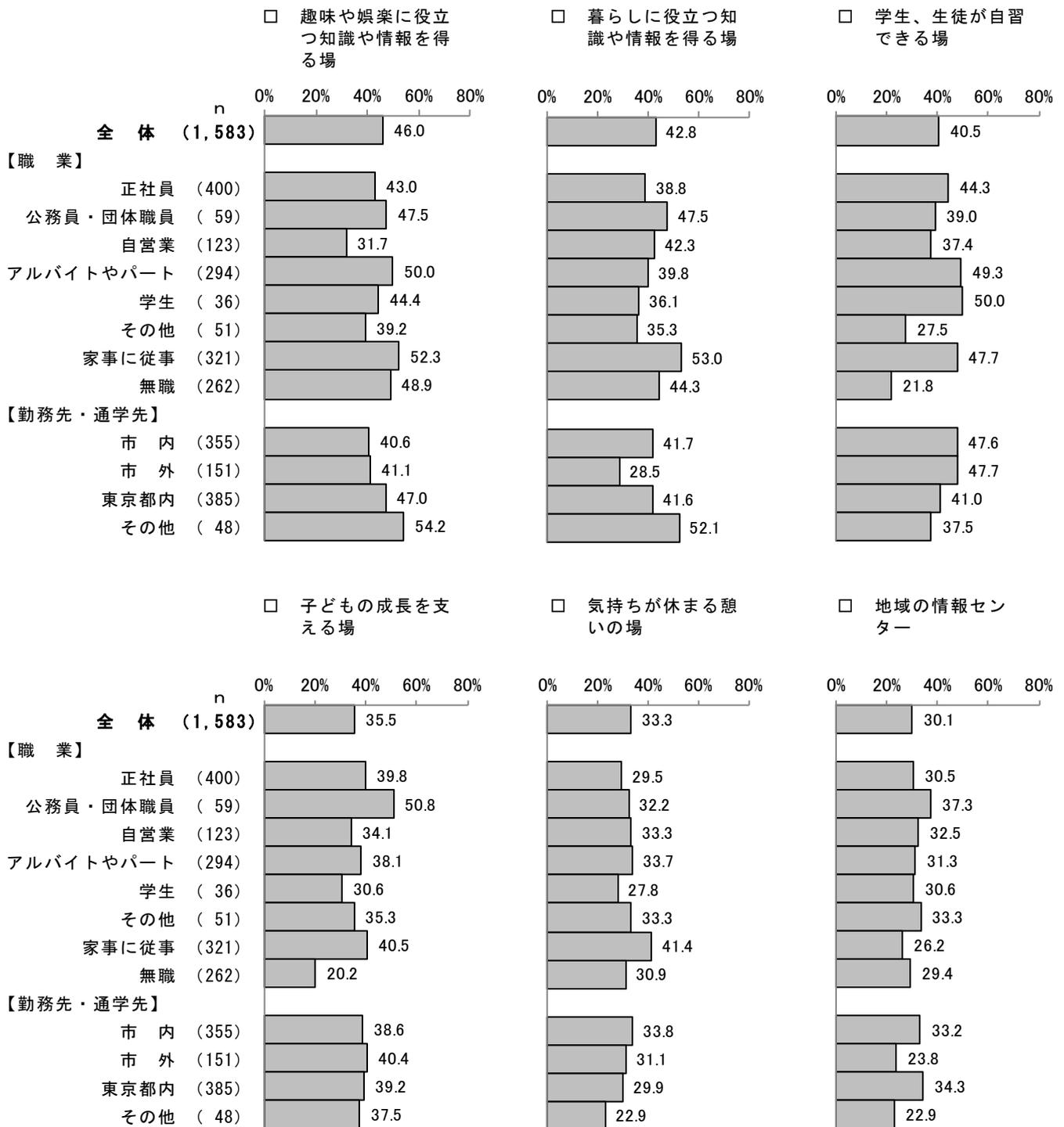
年齢別でみると、「趣味や娯楽に役立つ知識や情報を得る場」はすべての年代で4割を超えており、特に50歳代と60歳代では5割近くとなっている。「暮らしに役立つ知識や情報を得る場」は50歳代と60歳代で4割台半ばを超えている。「学生、生徒が自習できる場」は20歳代で5割強、30歳代と40歳代で5割弱となっている。「子どもの成長を支える場」は30歳代が5割台半ばを超えている。

図表5-14 図書館に望むこと（性別 年齢別、上位6項目）



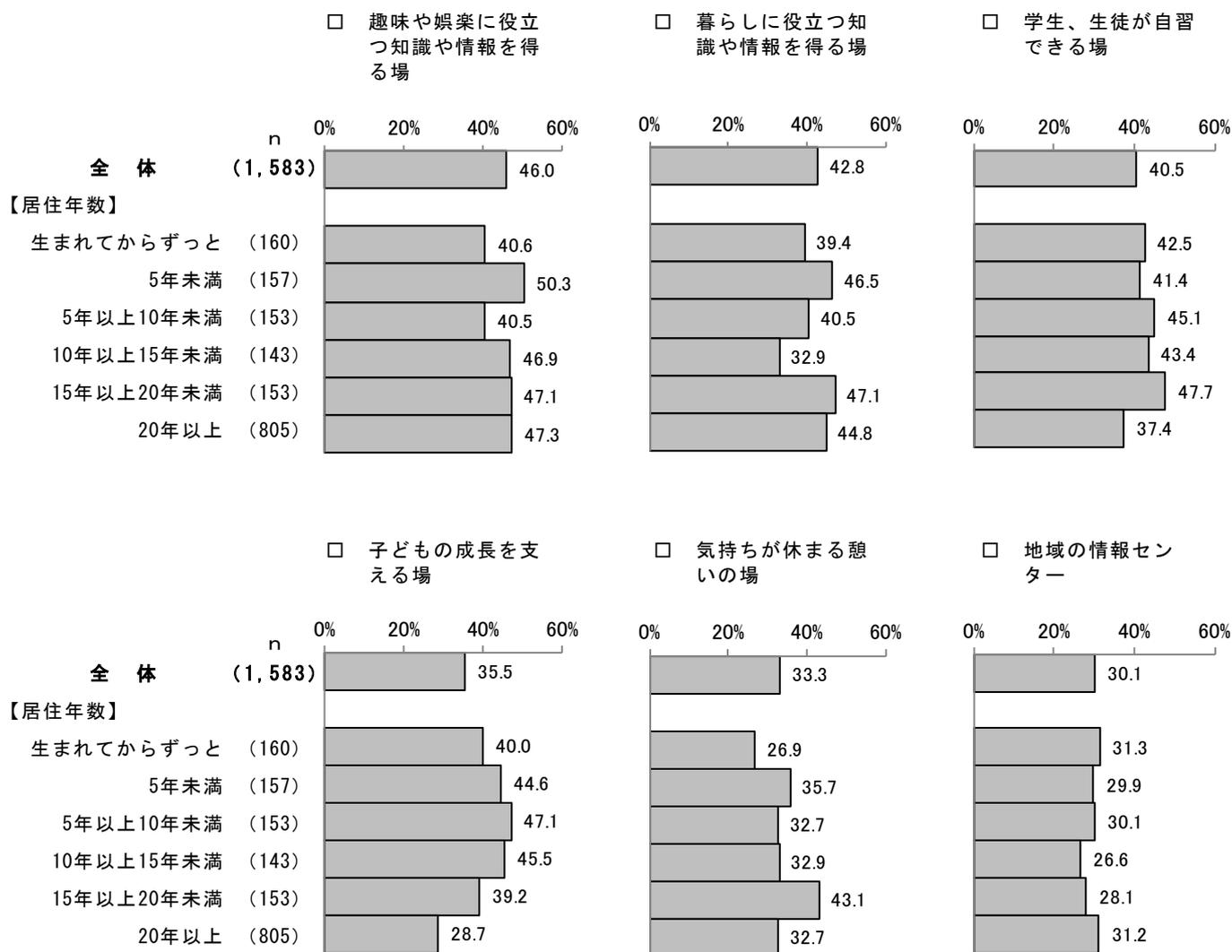
職業別でみると、「趣味や娯楽に役立つ知識や情報を得る場」は家事に従事で5割強、アルバイトやパートなどで5割となっている。「暮らしに役立つ知識や情報を得る場」は家事に従事で5割台半ば近くとなっている。「学生、生徒が自習できる場」は学生で5割、アルバイトやパートなどで5割弱となっている。「気持ちが休まる憩いの場」は家事に従事で4割強となっている。

図表5-15 図書館に望むこと（職業別 勤務先・通学先別、上位6項目）



居住年数別でみると、「趣味や娯楽に役立つ知識や情報を得る場」は5年未満で約5割となっている。「暮らしに役立つ知識や情報を得る場」は5年未満と15年以上20年未満で4割台半ばを超えている。

図表5-16 図書館に望むこと（居住年数別、上位6項目）



図書館の利用頻度別で見ると、「趣味や娯楽に役立つ知識や情報を得る場」は月に1回程度で6割台半ば近く、2週間に1回程度で6割強となっている。「暮らしに役立つ知識や情報を得る場」は月に1回程度で5割台半ばを超え、2週間に1度で5割台半ば近くとなっている。

図表5-17 図書館に望むこと（図書館の利用頻度別、上位6項目）

